

令和7年度
シラバス
〔教授要目〕



一般社団法人 浜松市歯科医師会
浜松歯科衛生士専門学校

Hamamatsu Dental Hygienist School

シラバスについて

シラバスには、本校の設立と教育目標、学則、教育の指針や試験・進級・卒業に関することが記載されています。また科目名、担当講師、講義・実習のねらい、使用教本、参考図書、評価方法・基準、履修上の注意、講義・実習計画、など授業に関する情報が書かれています。『講義・実習のねらい』をよく読み、履修する科目が授業全体の中で、どこに位置づけられているかを把握して受講することは、学習効果を高めることにつながります。

学生の皆さんは、シラバスを活用して計画的に学習することや、予習、復習等授業時間外学習をする習慣を身につけてください。

授 業 時 間

S H R	8 : 55 ~ 9 : 00
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10
昼休み	
3 時限	13 : 10 ~ 14 : 40
4 時限	14 : 50 ~ 16 : 20

目次

浜松歯科衛生士専門学校 学則.....	4～10
---------------------	------

設立	11
教育目標.....	12
学年・単位制、セメスター制、SHR、授業、学修等、掲示連絡.....	14
出席管理、出欠席、遅刻、忌引き、病気による出席停止.....	15
試験	16
進級・卒業に関する内規.....	17
学科試験受験の流れ	18
卒業試験から国家試験までの流れ.....	19
指導案用紙について.....	20
レポートの記入について.....	21

年間計画表.....	22
講義・実習計画表.....	24～29

43 期生 1 年生

【基礎分野】

生物学	31
化学	32
国語表現.....	33
心理学	34
生命倫理・医療倫理.....	35
話法・接遇.....	36
歯科英語.....	37

【専門基礎分野】

解剖学	38
組織・発生学.....	39
生理学	40
栄養学	41
生化学	42
口腔解剖学.....	43
歯牙解剖.....	44
口腔生理学.....	45
病理学	46
口腔病理学.....	47
薬理学	48
歯科薬理学.....	49
微生物学.....	50
口腔微生物学.....	51

予防歯科学.....	52
衛生・公衆衛生学.....	53

【専門分野】

歯科衛生士概論	54
臨床歯科総論.....	55
保存修復学.....	56
歯内療法学.....	57
歯周病学.....	58
歯科予防処置論1	59
歯科保健指導論1	61
歯科診療補助論1	63

【選択必修分野】

一般教養.....	65
-----------	----

42 期生 2 年生**【基礎分野】**

ケア・コミュニケーション 67

【専門基礎分野】

地域歯科保健学 68

衛生行政・社会福祉 69

保健情報・統計学 70

【専門分野】

歯科補綴学 71

口腔外科学 72

小児歯科学 73

歯科矯正学 74

高齢者歯科 75

障害者歯科 76

歯科予防処置論2 77

医療安全 79

齲蝕予防法 80

歯科保健指導論2 81

栄養指導 83

歯科診療補助論2 84

歯科器械の取り扱い 86

歯科放射線学 87

受付事務 88

医学一般・臨床検査 89

41 期生 3 年生**【専門分野】**

摂食嚥下リハビリテーション 91

最新歯科医療 92

歯科予防処置論3 93

【選択必修分野】

課題研究 94

総合学習 95

浜松歯科衛生士専門学校学則

第1章 総 則

(設置目的)

第1条 この専門学校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、歯科衛生士法に規定する歯科衛生士として必要な知識と技能を修得させ、有能な歯科衛生士を養成することを目的とする。

(名称)

第2条 この学校は、浜松歯科衛生士専門学校（以下「学校」という。）と称する。

(位置)

第3条 この学校は、浜松市中央区鴨江二丁目11番2号に置く。

(設置者)

第4条 この学校は、一般社団法人浜松市歯科医師会が設置経営する。

(修業年限等)

第5条 この学校の課程名、学科名、修業年限、学生定員、学級数及び学生総数は次のとおりとする。

課程名	学 科 名	修業年限	入学定員	1学年学級数	学生総定員
専門課程	歯科衛生士科	昼3年	44名	1	132名

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第7条 学年は、次の期に区分する。

- (1) 前 期 4月1日から9月30日まで
- (2) 後 期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 土曜日
- (3) 国民の祝日
- (4) 春期休業 3月下旬から4月上旬まで
- (5) 夏期休業 7月下旬から8月下旬まで
- (6) 冬期休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 校長は、必要に応じ休業期間を変更し、また臨時に休業日を定めることができる。

第3章 教育課程

(学科課程及び授業時間数)
第9条 学科課程及び授業時間数は、次のとおりとする。

分野	教育内容	履修科目名	単位	各学年時間数		
				1 年	2 年	3 年
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	1	16		
		化学	1	16		
	人間と生活	国語表現	1	16		
		心理学	2	30		
		生命倫理・医療倫理	1	16		
		話法・接遇	1	16		
		歯科英語	2	30		
ケア・コミュニケーション		2		30		
基礎分野合計			11	140	30	0
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	解剖学	1	16		
		組織・発生学	1	16		
		生理学	2	30		
		栄養学	1	16		
	歯・口腔の構造と機能	生化学	1	16		
		口腔解剖学	1	16		
		歯牙解剖	2	30		
		口腔生理学	1	16		
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1	16		
		口腔病理学	1	16		
		薬理学	1	16		
		歯科薬理学	1	16		
		微生物学	1	16		
		口腔微生物学	1	16		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	予防歯科学	2	30		
		衛生・公衆衛生学	1	16		
		地域歯科保健学	1		16	
		衛生行政・社会福祉	2		30	
		保健情報・統計学	1		16	
専門基礎分野合計			23	298	62	0
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	2	30		
		臨床歯科総論	1	16		
	臨床歯科医学	保存修復学	2	30		
		歯内療法学	2	30		
		歯周病学	2	30		
		歯科補綴学	2		30	
		口腔外科学	2		30	
		小児歯科学	2		30	
		歯科矯正学	2		30	
		高齢者歯科	1		16	
		障害者歯科	1		16	
		摂食嚥下リハビリテーション	1			20
		最新歯科医療	1			16
	歯科予防処置論	歯科予防処置論 1	3	120		
		歯科予防処置論 2	2		80	
		歯科予防処置論 3	1			40
		医療安全	1		16	
		齲蝕予防法	1		16	
	歯科保健指導論	歯科保健指導論 1	2	80		
		歯科保健指導論 2	3		120	
		栄養指導	2		30	
	歯科診療補助論	歯科診療補助論 1	3	120		
		歯科診療補助論 2	2		80	
		歯科器械の取り扱い	1		16	
		歯科放射線学	1		16	
		受付事務	1		16	
医学一般・臨床検査		1		16		
臨床実習（臨床実習含む。）	臨床・臨床実習 1	1	45			
	臨床・臨床実習 2	8		360		
	臨床・臨床実習 3	11			495	
専門分野合計			65	501	918	571
選択必修分野	教養	一般教養	1	16		
	研究	課題研究	2			60
	総合学習	総合学習	14			210
選択必修分野合計			17	16	0	270
総 計			116	955	1010	841

※講義:15 時間・16 時間 1 単位、演習:30 時間 1 単位、実習:40 時間 1 単位、臨床実習:45 時間 1 単位

第4章 教育課程の修了及び卒業の認定

（学業成績）

第10条 学業成績は、学科試験及び実習並びに平素の成績により判定する。

（試験）

第11条 学科試験は、定期試験及び臨時試験の区分により、校長が定める科目について行う。

- 2 定期試験は、学期末試験及び卒業試験とする。
- 3 臨時試験は、校長が必要と認めたときに行う。

（受験資格）

第12条 前条の受験資格を得るためには、その科目の授業時間数の3分の2以上出席しなければならない。

（補習）

第13条 各科目にかかる出席時間数が、歯科衛生士学校養成所指定規則に定める時間数に満たない者については、必要な補習を行ったうえでなければ受験することができない。

（合格点）

第14条 学科試験の成績は、6割以上を得た者を合格とする。

（再試験）

第15条 試験の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。

- 2 再試験を受ける者は、再試験願に再試験料を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。
- 3 再試験料は3,000円とし、期日は別に定める。

（追試験）

第16条 試験に欠席した理由がやむを得ないと認められる者は、追試験を受けることができる。

- 2 追試験を受ける者は、追試験願に追試験料を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。
- 3 追試験料は3,000円とし、期日は別に定める。

（進級、卒業）

第17条 進級及び卒業の認定は、学業成績、出席状況について評定のうえ教務委員会の議を経て校長が行う。

（卒業証書）

第18条 校長は、所定の教育課程を修了したと認める者に卒業証書を授与する。

（称号の授与）

- 2 校長は、所定の教育課程を修了した者には、専門士（医療専門課程）の称号を授与する。

第5章 入学、休学、退学及び転入学等

(入学時期)

第19条 入学及び進級の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第20条 この学校に入学する資格のある者は、学校教育法第90条第1項に該当する者とする。

- 2 本校において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた18歳に達した者とする。

(入学志願手続)

第21条 本校に入学しようとする者は、本校の募集要項に定める必要書類を作成し入学検定料を添えて、定められた期日内に校長に提出しなければならない。

(入学試験及び合格)

第22条 入学試験は、必要に応じ学科試験・人物考査等を行う。その期日・場所その他の必要事項はその都度公示し、総合成績で選考し教務委員会の議を経る。

(入学手続)

第23条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定期日までに保証人1名の誓約書に必要な学費を添えて、校長に提出しなければならない。

- 2 校長は、前項の手続きを完了した者（以下「学生」という。）に対し、入学を許可する。
- 3 卒業見込で受験した者で入学を希望する者は、指定期日までに卒業証明書を提出しなければならない。
- 4 前項の手続を怠り、または入学期日に許可なく出席しない場合は、入学許可を取り消すことがある。

(異動の届出)

第24条 本人及び保証人の身分上に異動、または住所変更等のあった場合は直ちに異動届を校長に提出しなければならない。

(欠席)

第25条 学生が欠席する場合は、欠席届を校長に提出しなければならない。なお、必要に応じ、傷病の場合は医師の診断書を添付するものとする。

(休学)

第26条 学生が休学する場合は、休学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。なお、必要に応じ、傷病の場合は医師の診断書を添付するものとする。

- 2 休学期間は一年以内とする。
- 3 休学期間中は授業料の半額を納入しなければならない。

(復学)

第27条 復学を希望する者は、復学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。なお、必要に応じ、傷病による休学の場合は医師の診断書を添付するものとする。

- 2 前項の場合は休学時の学年に編入する。

(転入学)

第 28 条 厚生労働大臣（又は文部科学大臣）の指定した他の歯科衛生士養成所の学生が所属長の承諾書を添えて転入を志願したときは、欠員がある場合に選考の上これを許可することができる。

2 転入学の時期は、学年または学期の始めとする。

(在学期間)

第 29 条 この学校の在学期間は、修業年限の 2 倍の年数を超えることはできない。

(退学)

第 30 条 学生が退学する場合は、退学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

第 6 章 入学検定料、入学金及び授業料等

(入学検定料、入学金及び授業料等)

第 31 条 入学検定料、入学金及び授業料等は次のとおりとする。

入学検定料…………… 20,000 円

入学金及び授業料等

入学金…………… 200,000 円

授業料(年額)…………… 500,000 円

実習費(年額)…………… 130,000 円

施設維持費(年額)……… 155,000 円

計 985,000 円

(納入期日)

第 32 条 入学検定料、入学金は校長が指定した期日までに、授業料、実習費、施設維持費は各学年の 4 月及び 10 月の 2 期に分けて納付しなければならない。

(免除、減免及び延納)

第 33 条 校長は入学金、授業料及び実習費、施設維持費の納入について、やむを得ない事情があると認めたときはその免除、減免または延納を許可することができる。

2 学費の延納を希望する者は、学費延納願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(不還付)

第 34 条 すでに納入した入学検定料、入学金及び在学生に係る授業料、実習費、施設維持費は原則としてこれを返還しない。

第7章 職員の組織

(職員組織)

第35条 この学校に、校長、副校長、教務主任、専任教員、非常勤講師、指導教員(助手)、専任事務職員その他必要な職員を置くことができる。

第8章 委員会

(教務委員会)

第36条 この学校に教務委員会を置く。

2 教務委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第37条 この学校を適正に管理運営するために、運営委員会を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

第9章 賞罰

(表彰)

第38条 校長は、学業、品行共に優秀で他の模範となる学生を表彰することができる。

(懲戒)

第39条 校長は、学則その他の規程に違反し、または学生の本分に反する行為があったときは、教務委員会の議を経てその学生を懲戒することができる。

2 懲戒は訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は次の各号の一に該当する場合に限る。

- (1) 素行不良で改しゅんの見込みがないと認められる者。
- (2) 傷病または成績不良で卒業の見込みがない者。
- (3) 正当の理由がなくて引き続き1ヶ月以上欠席した者。
- (4) 正当の理由がなくて出席が常でない者。
- (5) 本校に納付すべき授業料等を許可なく滞納した者。

第10章 健康管理

(健康診断)

第40条 学生は、学校保健安全法(平成20年法律第73号)第13条に準じ健康診断を受けなければならない。

第11条 雑則

(委任)

第41条 この学則に定めるもののほか、この学校の運営に関する必要な事項は、別に定める。

附則

- 1 本学則は、厚生大臣の指定を受けた日（昭和 57 年 12 月 25 日）から施行する。
- 2 本学則は、厚生大臣の変更承認を受けた日（昭和 61 年 12 月 23 日）に改正し、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 本学則は、昭和 62 年 4 月 15 日に改正し、昭和 63 年 1 月 5 日から施行する。
- 4 本学則は、平成 4 年 8 月 19 日に改正し、平成 5 年 10 月 8 日から施行する。
ただし、平成 4 年度入学生については、改正後の第 31 条の規定にかかわらず、授業料及び実習費は従来どおりとする。
- 5 本学則は、平成 6 年 11 月 16 日に改正し、平成 6 年 11 月 17 日から施行する。
- 6 本学則は、平成 7 年 2 月 16 日に改正し、平成 7 年 2 月 17 日から施行する。
- 7 本学則は、平成 11 年 5 月 20 日に改正し、平成 11 年 6 月 1 日から施行する。
- 8 本学則は、平成 17 年 11 月 17 日に改正し、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。
- 9 本学則は、平成 19 年 4 月 19 日に改正し、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、平成 19 年度以前の入学生については、改正後の第 31 条の規定にかかわらず、授業料及び実習費は従来どおりとする。
- 10 本学則は、平成 20 年 9 月 30 日に改正し、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 11 本学則は、平成 21 年 8 月 20 日に改正し、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 12 本学則は、平成 22 年 1 月 28 日に改正し、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、平成 22 年度以前の入学生については、改正後の第 31 条の規定にかかわらず、従来どおりとする。
- 13 本学則は、平成 22 年 7 月 15 日に改正し、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 14 本学則は、平成 23 年 12 月 17 日に改正し、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 15 本学則は、平成 24 年 7 月 19 日に改正し、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、平成 24 年度以前の入学生については、第 9 条にかかる教育課程は、従前どおりとする。
- 16 本学則は、平成 25 年 4 月 18 日に改正し、平成 25 年 5 月 1 日から施行する。
- 17 本学則は、平成 26 年 10 月 16 日に改正し、平成 26 年 10 月 16 日から施行する。
- 18 本学則は、平成 27 年 2 月 19 日に改正し、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 19 本学則は、平成 30 年 10 月 18 日に改正し、平成 30 年 10 月 18 日から施行する。
- 20 本学則は、令和 3 年 2 月 18 日に改正し、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、令和 4 年度以前の入学生については、改正後の第 31 条の規定にかかわらず、従来どおりとする。
- 21 本学則は、令和 3 年 7 月 15 日に改正し、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、令和 3 年度以前の入学生については、第 9 条にかかる教育課程は、従前どおりとする。
- 22 本学則は、令和 4 年 10 月 20 日に改正し、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 23 本学則は、令和 6 年 1 月 18 日に改正し、令和 6 年 1 月 18 日から施行する。
- 24 本学則は、令和 6 年 10 月 17 日に改正し、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、令和 4 年度以前の入学生については、改正後の第 31 条の規定にかかわらず、授業料及び実習費は従来どおりとする。

本校の設立

設 立

浜松歯科衛生士専門学校の設立について

近年、歯科医療の技術の進歩と専門化が進む中で、歯科予防処置、口腔衛生指導などの、予防医学の分野が重視されるようになり、歯科衛生士の役割は益々重要になってきています。

浜松市歯科医師会は、地域歯科医療の振興に資するため、「浜松歯科衛生士専門学校」を設立しました。この学校の設立にあたり浜松市歯科医師会の全会員の物心両面の援助はもちろん、厚生労働省、静岡県、浜松市、静岡県歯科医師会等の支援を受け、昭和 57 年 12 月に厚生大臣の歯科衛生士養成所の指定と、静岡県知事の専修学校の認可を得て、昭和 58 年 4 月ここに本校が開校され、地域歯科医療の変化に即応した教育の実践を継続しています。

平成 21 年 3 月：厚生労働大臣による 3 年課程歯科衛生士養成所 認可

平成 21 年 4 月：3 年課程に移行

平成 23 年 3 月：施設・環境整備により 2・3 階の改修工事及び設備・備品の拡充を完了

平成 25 年 4 月：マニキン実習室の改修工事及び設備・備品の拡充を完了

平成 25 年 4 月：3 年課程 新カリキュラム認可 開始

平成 27 年 4 月：基礎実習室のユニット・チェア及び視聴覚機器設置等改修工事完了

平成 28 年 4 月：虚弱高齢者歯科摂食嚥下機能訓練機材一式設置（内視鏡・吸引モデル・吸引器）

平成 29 年 4 月：介護高齢者・虚弱高齢者の口腔内診査・指導・ケアのための実践的口腔管理機材一式
（多目的研修用ケアシミュレータ マナボット・注水吸引歯ブラシ）

平成 30 年 4 月：オーラルフレイルチェックのための口腔機能検査機材一式
（口腔機能測定器、口腔水分計、グルコセンサー、舌圧測定器、）

令和 2 年 4~7 月：玄関ホール防犯カメラ設置、基礎実習室冷暖房・トイレ改修工事完了

施 設

同ビル内施設

1 階 浜松市口腔保健医療センター

休日歯科診療、障がい者の歯科診療及び口腔保健衛生業務を行い、本校と密接な関係があります。

2・3 階 浜松市歯科医師会 浜松歯科衛生士専門学校

4 階 浜松市薬剤師会

本校と同時に設置されました。



本校は浜松市保健所に隣接し、浜松市口腔保健医療センター、浜松市歯科医師会、浜松市薬剤師会と同じ建物内にあります。緑の木々に包まれながらも陽の光にあふれ、静穏に勉学に励む環境を学生に提供しています。

教育目標

建学の精神

臨床で役立つ有能な歯科衛生士を養成し、地域歯科医療の振興に寄与する。
豊かな人間性と人間愛に満ちた奉仕と協調性の精神をもって職業にあたる。

教育目標

1. 学問と技術の習得 2. 豊かな人間性の育成 3. 人に貢献できる力と誇りの獲得

(教育目標を知り、目標とする将来の歯科衛生士像を具現化しましょう。)

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

浜松歯科衛生士専門学校は医療の担い手として、卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 歯科保健医療に求められる専門的知識、技術、コミュニケーション能力を有している。
2. 医療のプロフェッショナルとしての自覚と倫理観を備えている。
3. 生涯を通じて学習し続ける意欲を持っている。
4. 医療、保健およびその周囲の多職種と連携し、チームの一員として地域に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

本校は、医療人として地域歯科保健医療に貢献できる能力を段階的に習得しやすいよう、次のような体系的なカリキュラムを編成しています。

1. 医療人に求められる学力を養成するための基礎分野、歯科保健医療の専門職である歯科衛生士を養成するための専門基礎分野と専門分野を設置する。
2. 身につけた口腔保健の知識を正しく伝え、技術を適切に実践するための臨地実習を設置する。

アドミッション・ポリシー (入学受け入れの方針)

本校は、入学希望者に次のような人材を求めています。

1. 歯科衛生士になり、地域歯科保健医療に貢献しようとする強い思いがある人。
2. 入学後の知識・技術の習得に必要な基礎的能力を有する人。
3. 人や物事に対して配慮ができ、また誠実に向き合うことができる人。

教育の特色

臨床経験豊富な歯科衛生士の専任教員をはじめ、浜松市歯科医師会の歯科医師、浜松医科大学や公私立総合病院の医師等地域の有識者を迎え、丁寧で分かり易い講義・実習を行っています。

①分野別の特徴

基礎分野

生物学、心理学、生命倫理など、人を総合的に理解した上で、自然との共生や死生観、ケア・コミュニケーション(資格取得)、話法・接遇など、より実践的に学びます。

専門基礎分野

人体や歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ちと回復・促進、健康と予防に関わる人間と社会の仕組みなど、人と疾病、社会を全体として捉えます。

専門分野

臨床現場で活躍する歯科医師などの経験に基づいた講義で、口腔のプロフェッショナルとして現場ですぐに役立つ知識と技能を習得します。

②学内実習 (主要三科)

学内実習とは、歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の実習を意味します。

専門知識と技術を習得する最も重要な実習です。講義、実習、相互実習、試験とステップを踏んで、臨床現場で役立つ知識と技術を、着実に習得します。

③臨床臨地実習

主に浜松市歯科医師会会員歯科診療所における実習で、歯科医師・歯科衛生士から直接指導を受け、歯科診療の技術や患者さんへの接し方を実践的に学びます。

この他、浜松市口腔保健医療センター、浜松医療センター、浜松医科大学、浜松赤十字病院、十全記念病院、聖隷おおぞら療育センター、小羊学園デイケアホーム・支援センターわかざ、入野ケアセンター、和恵会ケアセンター、白梅豊岡病院、白梅豊岡ケアホーム、白梅ケアホーム、和合愛光園、市内幼稚園・こども園(7園)、小学校(8校)などの施設での実習が行われます。

④資格取得

1 歯科衛生士国家資格(受験資格)

2 ケア・コミュニケーション検定資格

患者さんとの信頼関係、医療スタッフのチームワークについて、より高度なコミュニケーション能力を習得します。心のこもった交流による援助者と被援助者双方の安心と信頼とともに、歯科衛生士としての喜びや生きがいも得られます。

3 介護職員初任者研修資格

高齢者や障がいのある方に身体介護や家事サービス、相談・助言により生活をお手伝いする大切な仕事です。歯科衛生士が併せ持つことで口腔ケアなど高齢化社会を現実に支える存在として期待されています。

学年・単位制、セメスター制、SHR、授業、掲示連絡、学習等

学年・単位制

本校では、学年制と単位制を併用しています。

学年ごとに所定の授業科目を履修し単位を修得します。卒業後に更に学習・研究等を志望し他学に入学・編入学する場合には、科目により単位認定の申請をすることもできます。

セメスター制

本校はセメスター制により、各期を次のように区分しています。

年次	期	春セメスター 4月1日～9月30日	秋セメスター 10月1日～3月31日
1年次		I セメスター	II セメスター
2年次		III セメスター	IV セメスター
3年次		V セメスター	VI セメスター

SHR

毎朝、8時55分より、SHR（ショートホームルーム）を行う。

HR日誌

日直当番は、毎日HR日誌を記入し、その日の状況を記録する。

授業

授業開始..... 学生は、授業の開始5分前に入室し、静かに講師を迎える。

放課後..... 4時限終了後、清掃・実習片付け・勉強会など、自分の役割や課せられたことには積極的に取り組むこと。

SHR	8:55 ~ 9:00
1時限	9:00 ~ 10:30
2時限	10:40 ~ 12:10
昼休み	
3時限	13:10 ~ 14:40
4時限	14:50 ~ 16:20

学習等

講義心得..... 講義は、講話・教科書・板書・スライド・ビデオ、あるいは演示など多くの方法が用いられるので、よくノートを整理し講師の強調点や繰り返しに注意して聞く事が大切である。

復習等..... 講義は、それぞれの科目の内容が相互に関係のあることが多いので注意し、教科書等に照らして復習・整理し構造的に覚えるとよい。

レポート..... レポートの提出を求められた時は、その題意をよく理解して、ポイントをおさえてまとめるようにする。

※レポートの形式は、シラバスを参照のこと。

質問等..... 講義は、ほとんど医学界の専門家が行うため、用語や表現など解り難い事があるが、そのままにせず質問などして自分のものにすること。

掲示連絡

連絡は、授業の予定変更及び準備物、休講、試験、行事、学生生活などがある。

原則として連絡は掲示で行うので、毎日、機会あるごとに掲示を見る習慣をつけ、留意すること。

出席管理、出欠席、皆勤、遅刻、忌引き、病気による出席停止

出席管理

出席の管理は学生自身も確実に行うこと

各個人の各科目授業への出欠席等の状況は、後に試験の受験資格(各科目時間数の2/3以上の出席)にかかわるため、シラバスを利用するなど、学生自身も確実に行うこと。

※自主管理を基本とし、その責任は学生自身に帰するものとする。

出欠席等

欠席・遅刻・早退の連絡

欠席及び遅刻する場合は、授業開始前に、直接電話で学校に連絡すること。

早退も同様に事前に連絡すること。(E-Mail・ラインなど不可)

遅刻、早退の詳細について

遅刻..... 授業開始後の入室者は遅刻とする。(早退もこれに準ずる)。

遅刻者入室..... 遅刻者は必ず教務室に来て遅刻の理由を述べて入室させてもらう。

※直接、授業を行っている教室に入室することはできない。

30分遅刻..... 授業開始後30分過ぎての入室者は欠課とする。(早退もこれに準ずる)。

3回ルール..... 遅刻、早退が該当の科目について3回に及んだ場合は欠課1とする。

〔例〕その科目について、遅刻を2回し、早退を1回すると、計3回で、その科目欠課1となる。

※欠課：その時間の授業に欠席すること。

皆勤について

皆勤とは、学校が定めた課程(授業・実習・臨床実習・行事・国家試験対策・HR)に全て出席し、遅刻・早退、30分以上の休養がないことを言う。但し、忌引き、病気による出席停止は含めない。

遅刻

遅刻：通学手段が公共交通機関である場合、JRや遠州鉄道等鉄道は遅延証明書がある場合に限り遅刻としないが、バスによる遅刻はこの件は充当しない。

バスの場合は天候や道路状況により日頃から遅れが発生するため、その時間も含めて、学校の開始時間に間に合うよう家を出ることとする。

忌引

忌引：忌引日数は次の通りです。

・1親等(父母・子・夫)の血族及び配偶者.....5日以内

・2親等(祖父母・兄弟姉妹).....3日以内

・その他の同居の親族、姻族.....2日以内

・3親等(曾祖父母・伯叔父母・甥姪).....1日以内

※欠席する場合は事前(または事後)に連絡し、証明できる書類(会葬礼状等)を提出すること。

病気による 出席停止

病気による出席停止について

出席停止になる病気は主に下記の学校保健安全法で定められた感染症のこと。

罹患した場合には速やかに学校に電話連絡すること。

代表的なものには、インフルエンザ、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風しん、水痘(みずぼうそう)、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎がある。

※療養回復後は医師による証明により出席を認めることとする。

本校所定の感染症登校許可証明書を使用してください。

試験

試験

試験については、学則第 10 条から第 16 条に示されているが細部について次のように定める。

受験資格

受験資格：①各科目ごとに授業時数の 2/3 以上出席していること。
②授業料等学納金を全納していること。

注意！ 無効事項

1. 試験に 20 分以上遅刻した者及び開始 30 分以内の退席者は、その科目について無効とする。
2. 受験中に不正な行為をした者は、そのセメスターの全ての科目の受験資格を失い、そのセメスターに受験した全ての科目試験を無効とする。
3. 解答やレポートは、必ず 学籍番号・氏名を記入すること。無記名で提出すると無効になる場合があるので注意すること。
4. レポートの提出を求められたときは提出期限を遵守すること。期限を過ぎたものは、原則としてその科目は無効とする。

試験結果

各試験の成績は、6 割以上を得た者を合格とする。(学則第 14 条)

追・再試験

1. 試験に欠席した理由が、やむを得ないと認められる者は、願い出により追試験を受けることができる。(学則第 16 条)
2. 試験の成績が 6 割に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は再試験願を提出し、校長の許可を受けなければならない。(学則第 15 条)

※再試験の成績が 6 割に達しない者は、再々試験を受けることができる。手続きは再試験同様とし、再々試験願を提出するものとする。

3. 追試験・再試験（再々試験含む）とも 3,000 円を徴収する。
※病気による出席停止と忌引の場合は徴収しない。

進級・卒業に関する内規

学業成績 (評定)

1. 学業成績(評定)は、科目修了試験の結果に、臨時試験の結果、出席状況、授業態度等を加味して担当講師が決定する。
2. 基礎実習、臨床臨地実習は、試験、レポート、提出物、演習・実習態度、出席状況など多面的に評価して評定する。
3. 学業成績(評定)は満点を100点とし以下の通りとする。

点数区分	評定
90～100点	特A
80～89点	A
70～79点	B
60～69点	C
59点以下	D

※各科目の評定は、学業成績として記録・保管される。

単位認定

学業成績(評定)による単位認定と単位未認定の区分は以下の通りとする。

認定区分	学業成績(評定)
単位認定とする学業成績(評定)	特A、A、B、C
単位未認定とする学業成績(評定)	D

進級・留年 判定

1. 単位未認定の科目を1科目でも有する場合は留年の対象者となる。
2. 進級・留年の決定は、教務委員会に諮り校長が決定する。

留年

留年の場合は、翌年度も同じ学年の初め4月より再履修し、不合格となった科目は確実に履修することはもちろん、その他の科目についても全て履修するものとする。

※再び履修した科目は、上位の成績を優先し学業成績の書き換えを行う。

※知識・技能のスキルアップと規則的な生活習慣の遂行等自己研鑽を継続するものとする。

卒業試験

- 受験資格：①学科試験が全て合格していること。
②所定の臨床臨地実習を終えていること。
③授業料等学納金を全納していること。

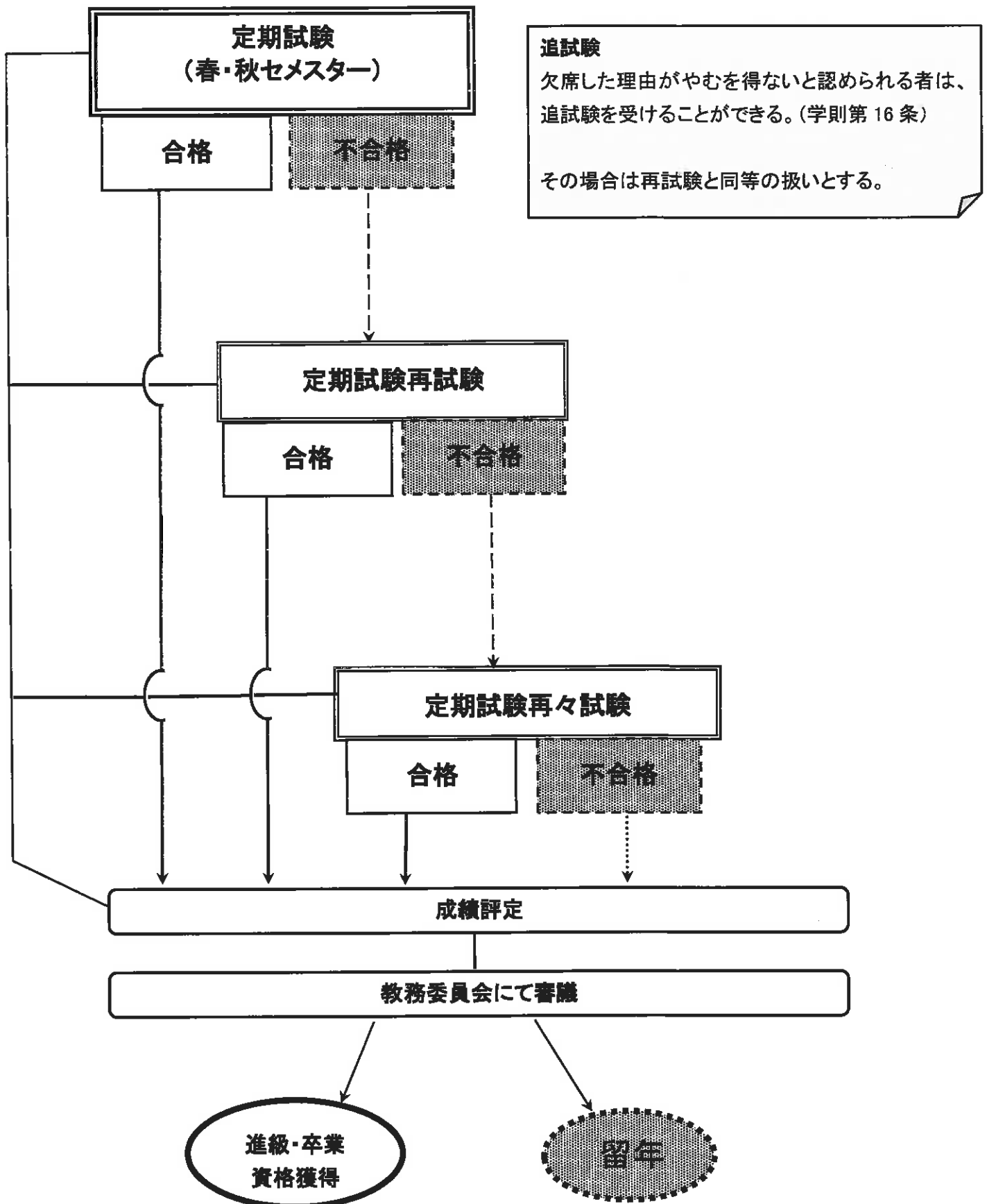
卒業試験は、歯科衛生士国家試験に準じて行い、6割以上の得点を以って合格とする。

※卒業試験に合格しない者は、歯科衛生士国家試験に受験できない。

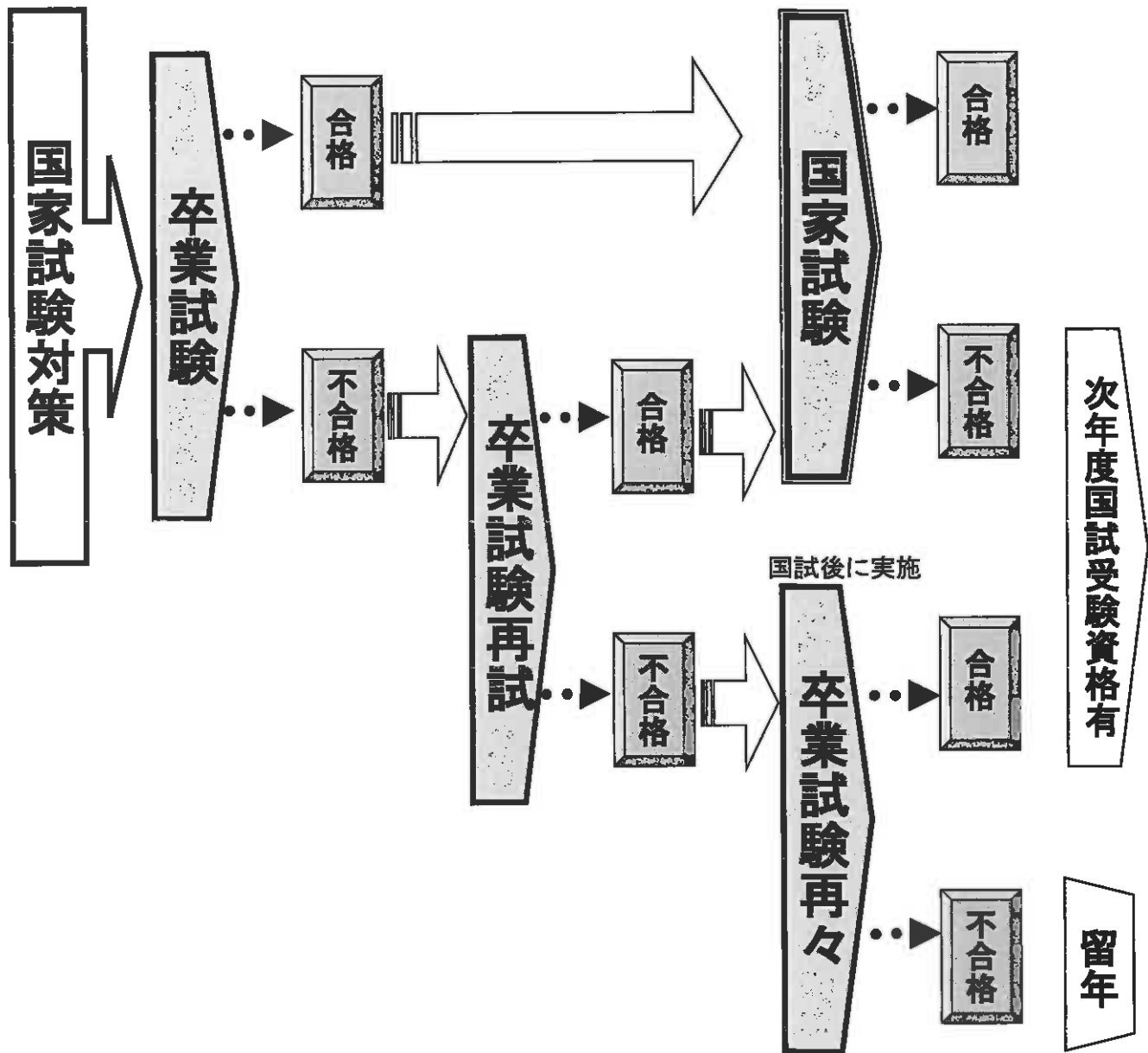
卒業認定

卒業の認定は、学業成績・出席状況について評定のうえ教務委員会の議を経て校長が行う。
(学則第17条より)

学科試験受験の流れ



卒業試験から国家試験までの流れ



指導案用紙について（学内掲示用）

科 目 : 科目名 ** 期生
 内 容 : 実施する内容 回目 / 全 (全回数) 回

日 時 : R ** 年 ** 月 ** 日 （ 曜日 ） ** 時限目
 場 所 : 講義・実習を行う教室および場所（教室／マニキン実習室／実験室／基礎実習室 など）

①指導時期 : **セメスター ③指導者数 : 指導する者の人数 ⑤学 生 数 : 本講義・実習を受ける人数 ⑦指導方法 : 本講義・実習の指導方法 (講義／示説／実習／演習／その他)	②指導時間 : 本講義・実習の時間(1コマ90分×コマ数) ④担 当 者 : <u>メイン</u> 本講義・実習メイン担当者氏名 <u>サブ</u> 本講義・実習サブ担当者氏名 ⑥欠 席 者 : ⑧評 価 法 : 本講義・実習の評価の方法 (技術／レポート／テスト／その他)
一般目標 本講義・実習のねらい	
行動目標(到達目標) 本講義・実習で得られる客観的な行動または到達ライン	
【学校準備物】 本講義・実習で学校が準備するもの	
【学生準備物】 本講義・実習で学生が準備するもの	
【服装】 本講義・実習をう受ける時の学生の服装	
準備当番 準備する学生当番 No : 準備当番の出席番号 時間 : 準備当番が集合する時間 場所 : 準備当番が集合する場所	片付け当番 片付けする学生当番 No : 片付け当番の出席番号 時間 : 片付け当番が集合する時間 場所 : 片付け当番が集合する場所
その他 その他に本講義・実習を受けるにあたっての注意することなど	

レポート提出について

1. すべて黒のボールペンまたはインクで記入する。
パソコンで作成する場合は、本文のフォントサイズは12Pt 以下とする。
2. 基本的には A4 サイズを使用する（指定がある場合は、指定の用紙を使用する）。
3. レポートは別紙で表紙をつけ、ホッチキス止めする。表紙には『科目名と題名』『学籍番号』『氏名』『実習日または提出日』を記入する。
4. 提出期日までに提出箱に提出する（指定がある場合は除く）。
5. 再レポート提出者は、直接担当者へ提出する。
6. 上記の事項が守れない場合は、その科目の減点対象となる場合がある。

※ルーズリーフは使用せず、片面記入とし、必ずページ番号をつける

《レポート記入例》

／ ホッチキス止め

科目と題名

学籍番号 _____ 氏名 _____

実習日または提出日 _____

(年月日で記入)

令和7年度年間計画表（予定）

	項目	学年	日程
行事	入学式	1年	4月3日(木)
	防災訓練	全学年	4月4日(金)、9月1日(月)
	身体測定	全学年	4月9日(水)
	内科検診 他(遠州病院)	1年	4月23日(水)
		2年	4月23日(水)、30日(水)
		3年	4月30日(水)
	歯科健診	全学年	4月10日(木)
	春の遠足	全学年	5月2日(金)
	夏の運動会	全学年	7月1日(火)
	日帰り旅行	1・2年	9月24日(水)
	修学旅行	3年	10月27日(月)、28日(火)
	宣誓式	2年	10月30日(木)
	卒業式	3年	3月5日(木)
	オープンキャンパス	2・3年	5月25日(日)、6月22日(日) 7月20日(日)、8月21日(木)
臨床 臨床 実習	健康教育実習	2年	小学校 6月2日(月)～4日(水) 幼稚園 6月23日(月)～25日(水)
	臨床実習	1年	I 5月12日(月)、13日(火) II 2月24日(火)、25日(水)、27日(金) 3月2日(月)、3日(火)
		2年	1期 11月10日(月)～2月20日(金)
		3年	2期 4月11日(金)～6月25日(水) 3期 7月7日(月)～10月7日(火)
試験	春semester試験	1年	7月15日(火)～17日(木) 9月16日(火)～22日(月)
		2年	9月16日(火)～22日(月)
		3年	7月17日(木)、9月25日(木)
	秋semester試験	1年	2月12日(木)～20日(金) 他
		2年	2月24日(火)～27日(金) 他
	卒業試験	3年	12月16日(火)、1月7日(水)
	講義予備日	全学年	7月下旬、12月下旬 他

※状況により変更になることがあります。

講義・実習計画表（43期生）

分野			区分	単位	時間数	実施 単位	実施 時間数	1 年		2 年		3 年		講師名	所属
教育内容	履修科目名	I セメ						II セメ	III セメ	IV セメ	V セメ	VI セメ			
基礎分野	科学的思考の 基盤	生物学	講義	11	170	1	16	16						伊藤 剛健	
		化学	講義			1	16	16					小出 和美		
	人間と生活	国語表現	講義			1	16	16					梅谷 拓宣		
		心理学	講義			2	30	30					吉村 往	天竜病院	
		生命倫理・医療倫理	講義			1	16	4					清原 恵美	聖隷三方原病院	
								12					衛藤耕太郎	浜松市歯科医師会	
		話法・接遇	講義			1	16	4					鈴木真与理		
								4					徳差 淳子		
								4					安里ノリエ		
								4					大場さわこ	サンフラッシュ ・大場さわこ事務所	
歯科英語	講義	2	30		30				中村 智子						
ケア・コミュニケーション	講義	2	30			30			川口 晴美	オフィス川口					
基礎分野合計				11	170	11	170	140	30						
専門基礎分野	人体(歯・口腔 を除く。)の構 造と機能	解剖学	講義	5	360	1	16	16						門田 千晶	聖隷浜松病院
		組織・発生学	講義			1	16	16					鈴木 美穂	浜松市歯科医師会	
		生理学	講義			2	30	30					高山 由紀	浜松医科大学	
		栄養学	講義			1	16		16				石津 貴恵		
	歯・口腔の構 造と機能	生化学	講義	5		1	16		8				永田 年	浜松医科大学	
		口腔解剖学	講義					8				深谷 和貴	浜松市歯科医師会		
		歯牙解剖	講義			1	16	16					大杉 将嗣	浜松市歯科医師会	
		口腔生理学	講義			2	30		14				佐原 正恭	浜松市歯科医師会	
									16				井嶋 洋之		
	疾病の成り立 ち及び回復過 程の促進	病理学	講義	1		16	16					高山 由紀	浜松医科大学		
		口腔病理学	講義	1		16	16					馬場 健	浜松医科大学		
		薬理学	講義	1		16		16				鈴木 浩之	浜松市歯科医師会		
		歯科薬理学	講義	1		16	16					鈴木 常義	浜松市薬剤師会		
		微生物学	講義	1		16		16				渡邊 泰秀			
		口腔微生物学	講義	1		16	16					永田 年	浜松医科大学		
		予防歯科学	講義	1		16		16				永田 年	浜松医科大学		
		衛生・公衆衛生学	講義	2		30		30				富士田早織			
	歯・口腔の健 康と予防に関 わる人間と社 会の仕組み	地域歯科保健学	講義	7		1	16			6			岡本 一夫		
									10			近藤 大祐	浜松市歯科医師会		
		衛生行政・社会福祉	講義			2	30			10			岡本 一夫		
									20			栗田 高典			
		保健情報・統計学	講義			1	16			10			宮原 時彦		
										6			武田 成久	浜松市歯科医師会	
	専門基礎分野合計					23	360	23	360	298	62				

※講義：15 時間～16 時間 1 単位、演習：30 時間 1 単位、実習：40 時間 1 単位、臨床実習：45 時間 1 単位

分野			区分	単位	時間数	実施 単位	実施 時間数	1 年		2 年		3 年		講師名	所属	
教育内容	履修科目名							I ⅡⅢⅣⅤⅥ	ⅦⅧⅨⅩⅪⅫ							
専 門 分 野	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	講義	2	30	2	30	30					伊奈美恵子	浜松歯科衛生士専門学校	
		臨床歯科総論	臨床歯科総論	講義	1	16	16						才川 隆弘	浜松市歯科医師会		
		保存修復学	保存修復学	講義	2	30			14					山本 哲也	浜松市歯科医師会	
									16					田代 浩史	浜松市歯科医師会	
		歯内療法学	歯内療法学	講義	2	30			20					河合 啓太	浜松市歯科医師会	
									10					杉山 正祐	浜松市歯科医師会	
		歯周病学	歯周病学	講義	2	30			10					宮澤 康	浜松市歯科医師会	
									10					古橋 拓哉	浜松市歯科医師会	
									10					宮坂 岳男	浜松市歯科医師会	
		歯科補綴学	歯科補綴学	講義	2	30				12				鳥居 一也	浜松市歯科医師会	
										18				中村 明雄	浜松市歯科医師会	
		口腔外科学	口腔外科学	講義	2	30				14				中村 康宏	浜松市歯科医師会	
										12				宮城 和彦	浜松市歯科医師会	
		小児歯科学	小児歯科学	講義	2	30				4				福永 暁子	聖隷浜松病院	
										16				飯嶋 展子	浜松市歯科医師会	
		歯科矯正学	歯科矯正学	講義	2	30				14				富士田早織		
										10				喜多 勇治	浜松市歯科医師会	
		高齢者歯科	高齢者歯科	講義	1	16					20			神谷 貴志	浜松市歯科医師会	
											10			相澤 秀夫	浜松市歯科医師会	
		障害者歯科	障害者歯科	講義	1	16					2			奥山恵理子	関人間科学研究所	
											4			森田 一彦	浜松市歯科医師会	
		摂食嚥下 リハビリテーション	摂食嚥下 リハビリテーション	講義	1	16					8			鈴木 一	浜松市歯科医師会	
											8			村上 祐介	浜松市歯科医師会	
		最新歯科医療	最新歯科医療	講義	1	20						20		龍島 桂子	浜松医療センター	
												8		石川 知弘	浜松市歯科医師会	
												8		古橋 拓哉	浜松市歯科医師会	
	歯科予防 処置論	歯科予防処置論 1	実習	8	766	3	120		120					専任教員他		
		歯科予防処置論 2	実習			2	80			80				専任教員他		
		歯科予防処置論 3	実習			1	40					40		専任教員他		
		医療安全	講義			1	16				4			吉野 篤人	浜松医科大学	
											4			内山 佳之	榑原総合病院	
		齲蝕予防法	講義			1	16				8			葛原 健太	浜松医療センター	
											8			大石 雄一	浜松市歯科医師会	
		齲蝕予防法	講義			1	16				8			宮城 和彦	浜松市歯科医師会	
											8					
		歯科保健 指導論	歯科保健指導論 1			実習	2	80		80					専任教員他	
			歯科保健指導論 2			実習	3	120			120				専任教員他	
	栄養指導		講義	2	30			30				石津 貴恵				
	歯科診療 補助論	歯科診療補助論 1	実習	9	766	3	120		120				専任教員他			
		歯科診療補助論 2	実習			2	80			80			専任教員他			
		歯科器械の取り扱い	講義			1	16				16			鈴木 慶太	浜松市歯科医師会	
		歯科放射線学	講義			1	16				4			村岡 宏隆	日本大学松戸歯学部	
										12			徳永 悟士	日本大学松戸歯学部		
		受付事務	講義			1	16				16			中谷 圭吾	浜松市歯科医師会	
		医学一般・臨床検査	講義			1	16					4			大橋 温	浜松医科大学
	臨地実習 (臨床実習を 含む。)	臨床・臨地実習 1	臨床実習	20	900	1	45		45				臨地臨床実習指導教員	浜松市歯科医師会		
		臨床・臨地実習 2	臨床実習			8	360			360				歯科診療所		
		臨床・臨地実習 3	臨床実習			11	495					495				
	専門分野合計					65	1990	65	1990	501		918		571		
	選 択 必 修 分 野	専門基礎・ 専門分野	一般教養	講義	1	16	1	16		6					馬塚 文司	
										4					村松 正浩	
										2					飯嶋 理	浜松市歯科医師会
										4					安里ノリエ	
		研究	課題研究	演習	2	60	2	60					60			浜松歯科衛生士専門学校
総合学習	総合学習	講義	14	210	14	210						210				
選択必修分野合計					17	286	17	286	16				270			
総 計					116	2806	116	2806	955		1010		841			

講義・実習計画表（42期生）

分野			区分	単位	時間数	実施 単位	実施 時間数	1 年		2 年		3 年		講師名	所属	
教育内容	履修科目名	I セメ						II セメ	III セメ	IV セメ	V セメ	VI セメ				
基礎分野	科学的思考の 基盤	生物学	講義	11	170	1	16	16						伊藤 剛健		
		化学	講義			1	16	16					小出 和美			
	人間と生活	国語表現	講義			1	16	16					宮地 幸子			
		心理学	講義			2	30	30					吉村 往	天竜病院		
		生命倫理・医療倫理	講義			1	16	4					清原 恵美	聖隷三方原病院		
								12					衛藤耕太郎	浜松市歯科医師会		
		話法・接遇	講義			1	16	4					鈴木真与理			
								4					徳差 淳子			
								4					安里ノリエ			
								4					大場さわか	サンフラッシュ ・大場さわか事務所		
歯科英語	講義	2	30		30				中村 智子							
ケア・コミュニケーション	講義	2	30			30			川口 晴美	オフィス川口						
基礎分野合計				11	170	11	170	140	30							
専門基礎分野	人体(歯・口腔 を除く。)の構 造と機能	解剖学	講義	5	360	1	16	8						近藤 大祐	浜松市歯科医師会	
		組織・発生学	講義					8					山田 真吾	浜松市歯科医師会		
		生理学	講義			1	16	16						鈴木 美穂	浜松市歯科医師会	
		栄養学	講義			2	30	30						高山 由紀	浜松医科大学	
						1	16		16					石津 貴恵		
	歯・口腔の構 造と機能	生化学	講義	5		1	16		8					宮崎 さおり	静岡大学	
		口腔解剖学	講義					8					深谷 和貴	浜松市歯科医師会		
		口腔解剖学	講義			1	16	16						大杉 将嗣	浜松市歯科医師会	
		歯牙解剖	講義			2	30		14					佐原 正恭	浜松市歯科医師会	
								16						井嶋 洋之		
	疾病の成り立 ち及び回復過 程の促進	口腔生理学	講義	6		1	16	16							高山 由紀	浜松医科大学
		病理学	講義			1	16	16						馬場 健	浜松医科大学	
		口腔病理学	講義			1	16		16					鈴木 浩之	浜松市歯科医師会	
		薬理学	講義			1	16	16						鈴木 常義	浜松市薬剤師会	
		歯科薬理学	講義			1	16		16					渡邊 泰秀		
	歯・口腔の健 康と予防に関 わる人間と社 会の仕組み	微生物学	講義	7		1	16	16							永田 年	浜松医科大学
		口腔微生物学	講義			1	16		16					永田 年	浜松医科大学	
		予防歯科学	講義			2	30		30					富士田早織		
		衛生・公衆衛生学	講義			1	16		16					宮原 時彦		
		地域歯科保健学	講義			1	16			6				岡本 一夫		
										10				近藤 大祐	浜松市歯科医師会	
		衛生行政・社会福祉	講義			2	30			10				岡本 一夫		
										20				栗田 高典		
		保健情報・統計学	講義			1	16			10				宮原 時彦		
										6				武田 成久	浜松市歯科医師会	
専門基礎分野合計				23	360	23	360	298	62							

※講義：15 時間～16 時間 1 単位、演習：30 時間 1 単位、実習：40 時間 1 単位、臨床実習：45 時間 1 単位

分野		区分	単位	時間数	実施 単位	実施 時間数	1 年		2 年		3 年		講師名	所属	
教育内容	履修科目名						I セメ	II セメ	III セメ	IV セメ	V セメ	VI セメ			
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	講義	2	30	2	30	30					伊奈美恵子	浜松歯科衛生士専門学校	
	臨床歯科医学	臨床歯科総論	講義	19	294	1	16	16						才川 隆弘	浜松市歯科医師会
		保存修復学	講義			2	30		14					山本 哲也	浜松市歯科医師会
		歯内療法学	講義			2	30		16					田代 浩史	浜松市歯科医師会
		歯周病学	講義			2	30		20					河合 啓太	浜松市歯科医師会
		歯科補綴学	講義				10							杉山 正祐	浜松市歯科医師会
							10						宮澤 康	浜松市歯科医師会	
							10						古橋 拓哉	浜松市歯科医師会	
		口腔外科学	講義			2	30			12				鳥居 一也	浜松市歯科医師会
									18					中村 明雄	浜松市歯科医師会
		小児歯科学	講義			2	30			14				中村 康宏	浜松市歯科医師会
									12					宮城 和彦	浜松市歯科医師会
		歯科矯正学	講義					4						福永 暁子	聖隷浜松病院
								16						飯嶋 展子	浜松市歯科医師会
		高齢者歯科	講義					14						富士田早織	
								10						喜多 勇治	浜松市歯科医師会
		障害者歯科	講義					20						神谷 貴志	浜松市歯科医師会
	1			16			10				相澤 秀夫	浜松市歯科医師会			
	摂食嚥下 リハビリテーション	講義			2						奥山恵理子	人間科学研究所			
					4						森田 一彦	浜松市歯科医師会			
	最新歯科医療	講義	1	16			8				鈴木 一	浜松市歯科医師会			
					8						村上 祐介	浜松市歯科医師会			
	歯科予防 処置論	歯科予防処置論 1	実習	8	766	3	120	120					専任教員他		
		歯科予防処置論 2	実習			2	80		80				専任教員他		
		歯科予防処置論 3	実習			1	40			40			専任教員他		
		医療安全	講義			1	16			4			吉野 篤人	浜松医科大学	
								4					内山 佳之	榑原総合病院	
		齲蝕予防法	講義			1	16			8			葛原 健太	浜松医療センター	
	歯科保健 指導論	歯科保健指導論 1	実習	7	766	2	80	80					専任教員他		
		歯科保健指導論 2	実習			3	120		120				専任教員他		
		栄養指導	講義			2	30		30				石津 貴恵		
	歯科診療 補助論	歯科診療補助論 1	実習	9	766	3	120	120					専任教員他		
		歯科診療補助論 2	実習			2	80		80				専任教員他		
		歯科器械の取り扱い	講義			1	16			16			鈴木 慶太	浜松市歯科医師会	
		歯科放射線学	講義			1	16		4				村岡 宏隆	日本大学松戸歯学部	
								12					徳永 悟士	日本大学松戸歯学部	
		受付事務	講義			1	16			16			中谷 圭吾	浜松市歯科医師会	
	臨床実習 (臨床実習を 含む。)	臨床・臨床実習 1	臨床実習	20	900	1	45	45					大橋 温	浜松医科大学	
		臨床・臨床実習 2	臨床実習			8	360		360				臨時臨床実習指導教員	浜松市歯科医師会 歯科診療所	
		臨床・臨床実習 3	臨床実習			11	495			495					
	専門分野合計				65	1990	65	1990	501	918	571				
	選択必修分野	専門基礎・ 専門分野	一般教養	講義	1	16	1	16	6					馬塚 文司	
									4					村松 正浩	
									2					飯嶋 理	浜松市歯科医師会
									4					安里ノリエ	
		研究	課題研究	演習	2	60	2	60			60		浜松歯科衛生士専門学校		
	総合学習	総合学習	講義	14	210	14	210			210					
選択必修分野合計				17	286	17	286	16		270					
総 計				116	2806	116	2806	955	1010	841					

講義・実習計画表（41期生）

分野			区分	単位	時間数	実施 単位	実施 時間数	1 年		2 年		3 年		講師名	所属
教育内容	履修科目名	I セメ						II セメ	III セメ	IV セメ	V セメ	VI セメ			
基礎分野	科学的思考の 基盤	生物学	講義	11	170	1	16	16						伊藤 剛健	
		化学	講義			1	16	16					小出 和美		
	人間と生活	国語表現	講義			1	16	16					宮地 幸子		
		心理学	講義			2	30	30					吉村 往	天竜病院	
		生命倫理・医療倫理	講義			1	16	4					清原 恵美	聖隷三方原病院	
								12					衛藤耕太郎	浜松市歯科医師会	
		話法・接遇	講義			1	16	4					鈴木真与理		
								4					徳差 淳子		
								4					安里ノリエ		
								4					大場さわか	サンフラッシュ ・大場さわか事務所	
歯科英語	講義	2	30		30				中村 智子						
ケア・コミュニケーション	講義	2	30			30			川口 晴美	オフィス川口					
基礎分野合計				11	170	11	170	140	30						
専門基礎分野	人体(歯・口腔 を除く。)の構 造と機能	解剖学	講義	5	360	1	16	8						近藤 大祐	浜松市歯科医師会
			8								山田 真吾	浜松市歯科医師会			
		組織・発生学	講義			1	16	16					鈴木 美穂	浜松市歯科医師会	
		生理学	講義			2	30	30					高山 由紀	浜松医科大学	
		栄養学	講義			1	16		16				石津 貴恵		
	歯・口腔の構 造と機能	生化学	講義	5		1	16		8				宮崎 さおり	静岡大学	
			8							深谷 和貴	浜松市歯科医師会				
		口腔解剖学	講義			1	16	16					大杉 将嗣	浜松市歯科医師会	
		歯牙解剖	講義			2	30		14				佐原 正恭	浜松市歯科医師会	
			16							井嶋 洋之					
	疾病の成り立 ち及び回復過 程の促進	口腔生理学	講義	6		1	16	16					高山 由紀	浜松医科大学	
		病理学	講義			1	16	16					馬場 健	浜松医科大学	
		口腔病理学	講義			1	16		16				鈴木 浩之	浜松市歯科医師会	
		薬理学	講義			1	16	16					鈴木 常義	浜松市薬剤師会	
		歯科薬理学	講義			1	16		16				渡邊 泰秀		
		微生物学	講義			1	16	16					永田 年	浜松医科大学	
		口腔微生物学	講義			1	16		16				永田 年	浜松医科大学	
		予防歯科学	講義			2	30		30				富士田早織		
		衛生・公衆衛生学	講義			1	16		16				宮原 時彦		
		歯・口腔の健 康と予防に関 わる人間と社 会の仕組み	地域歯科保健学			講義	7	1	16			6			岡本 一夫
								10				長野 正弘	浜松市歯科医師会		
	衛生行政・社会福祉		講義	2		30			10				岡本 一夫		
								20				栗田 高典			
	保健情報・統計学		講義	1		16			10				宮原 時彦		
					6					武田 成久	浜松市歯科医師会				
専門基礎分野合計				23	360	23	360	298	62						

※講義：15時間～16時間1単位、演習：30時間1単位、実習：40時間1単位、臨床実習：45時間1単位

分野			区分	単位	時間数	実施 単位	実施 時間数	1 年		2 年		3 年		講師名	所属		
教育内容	履修科目名	I セメ						II セメ	III セメ	IV セメ	V セメ	VI セメ					
専 門 分 野	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	講義	2	30	2	30	30						伊奈美恵子	浜松歯科衛生士専門学校		
		臨床歯科総論	講義			1	16	16						才川 隆弘	浜松市歯科医師会		
			保存修復学	講義			2	30		14					山本 哲也	浜松市歯科医師会	
									16						田代 浩史	浜松市歯科医師会	
		歯内療法学	講義						10						長谷川 慶	浜松市歯科医師会	
						2	30		10						杉山 正祐	浜松市歯科医師会	
									10						松島 正尚	浜松市歯科医師会	
		歯周病学	講義						10						宮澤 康	浜松市歯科医師会	
						2	30		10						古橋 拓哉	浜松市歯科医師会	
									10						宮坂 岳男	浜松市歯科医師会	
		歯科補綴学	講義			2	30			12					鳥居 一也	浜松市歯科医師会	
										18					中村 明雄	浜松市歯科医師会	
						2	30			18					中村 康宏	浜松市歯科医師会	
		口腔外科学	講義							12					宮城 和彦	浜松市歯科医師会	
			小児歯科学	講義			2	30			16					飯嶋 展子	浜松市歯科医師会
											14					富士田早織	
		歯科矯正学		講義			2	30			10					喜多 勇治	浜松市歯科医師会
										20					神谷 貴志	浜松市歯科医師会	
			高齢者歯科	講義			1	16				10				相澤 秀夫	浜松市歯科医師会
										2				奥山恵理子	陶人間科学研究所		
										4				森田 一彦	浜松市歯科医師会		
	障害者歯科	講義			1	16				8				鈴木 一	浜松市歯科医師会		
										8				村上 祐介	浜松市歯科医師会		
		摂食嚥下 リハビリテーション	講義			1	20					20			龍島 桂子	浜松医療センター	
	最新歯科医療		講義			1	16					8			石川 知弘	浜松市歯科医師会	
												8			古橋 拓哉	浜松市歯科医師会	
		歯科予防 処置論	歯科予防処置論 1	実習	8	766	3	120	120						専任教員他		
	歯科予防処置論 2		実習	2			80			80				専任教員他			
	歯科予防処置論 3		実習	1			40				40			専任教員他			
	医療安全		講義	1			16				4				吉野 篤人	浜松医科大学	
											4				内山 佳之	機原総合病院	
											8				葛原 健太	浜松医療センター	
	齲蝕予防法	講義	1	16				8				大石 雄一	浜松市歯科医師会				
								8				宮城 和彦	浜松市歯科医師会				
		歯科保健 指導論	歯科保健指導論 1	実習	7	766	2	80	80						専任教員他		
	歯科保健指導論 2		実習	3			120			120				専任教員他			
	栄養指導		講義	2			30			30				石津 貴恵			
	歯科診療補助論 1		実習	3			120	120						専任教員他			
			歯科診療補助論 2	実習			2	80			80				専任教員他		
			歯科器械の取り扱い	講義			1	16				16				鈴木 慶太	浜松市歯科医師会
	歯科診療 補助論	歯科放射線学	講義	9	766	1	16			4				村岡 宏隆	日本大学松戸歯学部		
									12				徳永 悟士	日本大学松戸歯学部			
										16			中谷 圭吾	浜松市歯科医師会			
		受付事務	講義			1	16				16				大橋 温	浜松医科大学	
			医学一般・臨床検査			講義	1	16				4				市川佐知子	JA 静岡厚生連 遠州病院
													12				
	臨床実習 (臨床実習を 含む。)	臨床・臨床実習 1		臨床実習	20	900	1	45	45						臨時臨床実習指導教員	浜松市歯科医師会	
臨床・臨床実習 2		臨床実習	8	360					360				歯科診療所				
臨床・臨床実習 3		臨床実習	11	495						495							
専門分野合計				65	1990	65	1990	501		918		571					
選 択 必 修 分 野	専門基礎・ 専門分野	一般教養	講義	1	16	1	16		6						馬塚 文司		
									4						村松 正浩		
									2						飯嶋 理	浜松市歯科医師会	
									4						安里ノリエ		
	研究	課題研究	演習	2	60	2	60					60		岡本 真弓	浜松歯科衛生士専門学校		
	総合学習	総合学習	講義	14	210	14	210						210				
選択必修分野合計				17	286	17	286	16				270					
総 計				116	2806	116	2806	955		1010		841					

HAMAMATSU DENTAL HYGIENIST SCHOOL

43 期生 第 1 学年

科学的思考の基礎

生物学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	伊藤 剛健		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	自然科学の基本的な素養を身につけ、歯科衛生士として必要とする生物学の基礎知識の習得をする。
使用教本	「生物学」医歯薬出版株式会社
参考図書	高校で使った「生物学」の教科書と資料集 やさしい基礎生物学 (羊土社)
評価方法・基準	授業態度・提出物 (前時の復習など) ・試験結果の総合評価
履修上の注意	教科書の内容をしっかりと理解できるように復習もしてください。
使用機材	液晶プロジェクター、移動黒板 など

○実務経験のある教員等による授業科目 (高等教育の修学支援新制度)

・伊藤剛健

高校・大学の現場での教員としての理科教育の経験を活かして、自然科学の基本的な素養と歯科衛生士として必要とする生命、組織細胞、遺伝、免疫など生物学の基礎知識について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格: 時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/30 (水)	3	生命とは何か、生命の誕生、生命の変遷	伊藤
2		5/ 7 (水)	3	生物は細胞からできている (1)	伊藤
3		5/21 (水)	3	生物は細胞からできている (2) 生物の一生と個体の成り立ち (1)	伊藤
4		5/28 (水)	3	生物の一生と個体の成り立ち (2) 生殖によって子孫をつくる	伊藤
5		6/ 4 (水)	3	遺伝と遺伝子	伊藤
6		6/11 (水)	3	発生して体をつくる 刺激の受容と反応 (1)	伊藤
7		6/18 (水)	3	刺激の受容と反応 (2) 内部環境を保つ仕組み (1)	伊藤
8		7/ 2 (水)	3	内部環境を保つ仕組み (2)	伊藤
9		7/ 2 (水)	4	動物の行動と進化	伊藤

【試験: 7/16(水)

試験問題作成: 伊藤】

科学的思考の基礎

化学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	小出 和美		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	身のまわりの事象を科学的にとらえ、理論的に考える力を身につける。
使用教本	「化学」 医歯薬出版㈱
参考図書	高校時代に使った化学基礎の教科書とその時使った図録
評価方法・基準	授業態度・提出物（ノートも含む）・試験の結果
履修上の注意	教科書を中心に進めるのでノートを用意し、しっかりノートを取る。
使用機材	

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

・小出和美

高校理科教員・大学でのリメディアル教育担当としての理科教育経験を活かし、物事を科学的に捉え判断する力の涵養を図るため、物質の成り立ち・物質の三態・化学反応・無機化合物・有機化合物などについて講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		5/19 (月)	3	物質とは何だろう	小出
2		5/26 (月)	3	気体・液体・固体	小出
3		6/ 2 (月)	3	物質が水にとけるとは	小出
4		6/ 9 (月)	3	酸とアルカリ (pHと中和)	小出
5		6/16 (月)	3	酸化とは、還元とは	小出
6		6/23 (月)	3	化学反応とは	小出
7		6/30 (月)	3	有機化合物と無機化合物	小出
8		7/ 7 (月)	3	ヒトをつくっているものは何だろう	小出

【試験: 7/16(水)

試験問題作成: 小出 】

人間と生活

国語表現		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	梅谷 拓宜		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科衛生士は現場の様々な場面で記録をとったり、報告を作成したりすることがある。分かりやすい文章を作成することは必須の能力であり、指導の初期の段階で身に付けさせたいものである。
使用教本	講師作成のプリント
参考図書	随時紹介
評価方法・基準	毎回の提出物及び、講義を踏まえて作成した文章により評価する。
履修上の注意	ワークシート等を毎回提出する。
使用機材	ホワイトボード、プロジェクター、PC、マイク

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○梅谷拓宜

高等学校での「国語」教育の経験を活かし、読み手に伝えたいことを分かりやすく伝える文章表現についての講義を行い、その内容を踏まえた文章作成を实践させる。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/18 (金)	1	「書く」ために「読む」①	梅谷
2		4/25 (金)	1	「書く」ために「読む」②	梅谷
3		5/ 9 (金)	1	「分かりやすく伝える」文章の作成技術	梅谷
4		5/16 (金)	1	「発想」と「主題文」	梅谷
5		5/23 (金)	1	「文章の構成」	梅谷
6		5/30 (金)	1	「具体的に書く」	梅谷
7		6/ 6 (金)	1	「文章作成」	梅谷
8		6/13 (金)	1	「推敲」と「相互評価」	梅谷

人間と生活

心理学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	吉村 往		実施単位・時間	2単位・30時間 (15コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	一般的な心理学の基礎知識を修得し自己管理や他者理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図り対人スキルを学ぶ。
使用教本	「心理学」
参考図書	斎藤 勇：イラストレート心理学入門，誠信書房 芹原 睦：自分がわかる心理テスト～知らない自分が見えてくる 講談社ブルーバックス ※講義の中で紹介していきます。
評価方法・基準	試験、ミニレポート、出席日数による総合点で評価します。
履修上の注意	数回、ミニレポートを求めることがあります。 自己理解の参考に簡単な心理テストをする場合があります。
使用機材	ノートパソコン、プロジェクター

○吉村 往

病院、診療所、施設、大学の現場での臨床心理士・カウンセラー経験(現役)を活かして、心理学の基礎知識、自己理解や他者理解を深めコミュニケーション能力の向上を図るための対人スキルについて講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		5/14 (水)	2	心理学とは？	吉村
2		5/21 (水)	2	知覚心理学	吉村
3		5/28 (水)	2	記憶の心理学	吉村
4		6/ 4 (水)	2	学習心理学①	吉村
5		6/11 (水)	2	学習心理学②	吉村
6		6/18 (水)	2	発達心理学①	吉村
7		6/25 (水)	1	発達心理学②	吉村
8		6/25 (水)	2	発達心理学③	吉村
9		7/ 2 (水)	2	パーソナリティ心理学①	吉村
10		7/ 9 (水)	1	パーソナリティ心理学②	吉村
11		7/ 9 (水)	2	メンタルヘルス	吉村
12		8/27 (水)	2	ストレスコーピング	吉村
13		9/ 3 (水)	1	社会心理学	吉村
14		9/ 3 (水)	2	感情心理学	吉村
15		9/10 (水)	2	医療コミュニケーション、まとめ	吉村

【試験：9/17(金)

試験問題作成：吉村】

人間と生活

生命倫理・医療倫理		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	清原恵美・衛藤耕太郎		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	医療に携わる者にとって人命の尊重と患者への献身は基本的義務である。加えて近年では、患者の自己決定を尊重し、患者中心の医療が重視される。そこで、医療人として必要な心構えを身に付けるとともに、「生まれること、生きること」、「死ぬこと」に関わる医療の現状に触れ、命の尊厳について学ぶ。
使用教本	「歯科医療倫理」
参考図書	「歯科医療倫理」 改訂3版 伏木信次編
評価方法・基準	与えられた課題についてのレポート
履修上の注意	
使用機材	パソコン、プロジェクター、レーザーポインター

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○清原恵美

総合病院の現場での緩和ケア認定看護師(現役)の経験を活かし、「ホスピス・緩和ケア」「その人らしさを尊重とすること」の観点から、患者の自己決定を尊重すること、患者中心の医療など医療人として必要な心構えについて講義する。

○衛藤耕太郎

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、「医療倫理」「バイオエシックス」「インフォームドコンセント」の観点から、患者の自己決定を尊重すること、患者中心の医療など医療人として必要な心構えについて講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		7/ 9(水)	3	ホスピス・緩和ケアとは	清原
2		7/ 9(水)	4	その人らしさを尊重とすること	清原
3		5/22(木)	3	第1章 なぜ医療倫理を学ぶのか	衛藤
4		5/29(木)	3	第2章 医療倫理に関する規範とバイオエシックス	衛藤
5		6/ 5(木)	3	バイオエシックス	衛藤
6		6/12(木)	3	第3章 インフォームドコンセント	衛藤
7		6/19(木)	3	研究と医療倫理	衛藤
8		7/ 3(木)	3	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	衛藤

人間と生活

話法・境遇		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	鈴木真与理・徳差淳子・安里ノリエ・大場さわか		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	本校の教育目標のひとつである豊かな人間性を持った歯科衛生士の育成のため、その基盤となる言葉遣い、礼儀作法、マナーを学ぶ。 (徳差)人の第一印象は外見の情報が重要です。医療人として好感度の高い顔作りの3つのポイント(清潔感、安心感、信頼感)を踏まえて実技を通して学びます。
使用教本	SELF MAKE TEXTBOOK
参考図書	サービス接遇検定受験ガイド3級 実務技能検定協会編 早稲田教育出版 サービス接遇検定受験ガイド2級 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
評価方法・基準	出席をもって評価する
履修上の注意	(徳差) 授業には素顔で出席する。 (大場) 顔全体を写す大きめの鏡を用意してください。
使用機材	(鈴木) 模造紙 (徳差) 顔の全体が写る置き鏡、日常使用しているスキンケア、メイクアップアイテム、ツール

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

- 鈴木真与理
小学校の教員、学校・企業・裁判所等現場でのカウンセラー及びファシリテーションの経験(現役)を活かし、豊かな人間性を持った歯科衛生士の育成のため、その基盤となる言葉遣い、人間関係のつくり方、マナーについて講義する。
- 徳差淳子
美容家(メイクアップアーティスト、セラピスト、ビューティーカウンセラー)としての経験を活かし、大学、専門学校で講師を務める他、公共団体、企業、メイクアップセラピストの観点から医療機関等で研修、セミナー、講演なども務める。医療人として相応しいヘアやメイクアップを講義・実習する
- 安里ノリエ
客室乗務員として機内乗務、ブライダル司会、企業・大学・専門学校・文化センター等の講師(現役)としての経験を活かし、歯科衛生士として必要な、好印象を与える5原則(挨拶・笑顔・身だしなみ・言葉遣い・態度)など礼儀作法や心構えについて講義する。
- 大場さわか
放送業界でのアナウンス・パーソナリティー業務の経験、企業での実務(社員教育)、大学・専門学校・企業・病院の講師(現役)の経験を活かし、豊かな人間性を持った歯科衛生士の育成のため、患者に好感を持たれる話し方や言葉遣いと心構えについて講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/ 7(月)	3	友だちづくり コミュニケーショントレーニング	鈴木真与理
2		4/ 7(月)	4	友だちづくり コミュニケーショントレーニング 2	鈴木真与理
3		4/14(月)	3	白衣に似合うヘア&メイクアップ	徳差
4		4/14(月)	4	白衣に似合うヘア&メイクアップ	徳差
5		4/ 8(火)	3	好印象を与える5原則 (挨拶・笑顔・身だしなみ・言葉遣い・態度)	安里
6		4/ 8(火)	4	〃	安里
7		4/17(木)	3	言葉遣いの研究、好感をもたれる話し方、等	大場
8		4/24(木)	3	言葉遣いの研究、好感をもたれる話し方、等 2	大場

人間と生活

歯科英語		講義	実施時期	Ⅱセメスター (1学年)
担当講師	中村 智子		実施単位・時間	2単位・30時間 (15コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科医療の臨床現場で、外国人患者に対して英語で基本的な対応ができるようになるために、様々な場面を想定した会話例をもとに、基礎的知識を習得する。
使用教本	「歯科英語」 「丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集」
参考図書	
評価方法・基準	定期試験、オーラルテスト、小テスト、課題、授業態度の総合評価
履修上の注意	定期試験、オーラルテストで学習の成果をあらわせるように、授業に集中して取り組み、能動的な学習を心掛けてください。
使用機材	ノートパソコン、液晶プロジェクター

○中村智子

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

銀行・研究所での実務経験、中学・高校・専門学校での講師経験を活かし、歯科医療の現場での英語による外国人患者への対応ができるよう、様々な場面を想定した会話の基礎的知識を講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 3 (金)	3	1.Making an Appontment	中村智
2		10/10 (金)	3	1.Recall Letters	中村智
3		10/17 (金)	3	2.Requests for Medicine	中村智
4		10/24 (金)	3	3.Emergency Appointment	中村智
5		11/ 7 (金)	3	4.National Health Insurance	中村智
6		11/14 (金)	3	5.Asking the Patient to Describe Symptoms	中村智
7		11/21 (金)	3	6.Asking the Medical History	中村智
8		11/28 (金)	3	7.Periodontal Disease	中村智
9		12/ 5 (金)	3	13.Tooth Brushing Instructions for a Child	中村智
10		12/12 (金)	3	14.Tooth Brushing Instructions for an Adult	中村智
11		12/19 (金)	3	15.Postoperative Instructions	中村智
12		1/16 (金)	3	16.After Treatment	中村智
13		1/23 (金)	3	Revision	中村智
14		1/30 (金)	3	Mock oral test	中村智
15		2/ 6 (金)	3	Oral test	中村智

【試験: 2/19(木) 試験問題作成: 中村】

人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能

解剖学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	門田 千晶		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	解剖学とは人体の正常な“しくみ”を理解するための学問であり医学の基礎となる。“しくみ”と“働き”とは切り離せない深い関係があり重要である。この講義、実習を通して、人体の複雑な“しくみ”と同時に“働き”を理解するための基礎知識の習得を目標とする。特に解剖名をおぼえる。
使用教本	「解剖学・組織発生学・生理学」「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
参考図書	解剖学書全般
評価方法・基準	定期試験、小テスト
履修上の注意	暗記するものが多いので、毎日、勉強してください。
使用機材	プリントなど

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○門田千晶

大学院研究所、大学病院での臨床経験や総合病院での歯科医師(現役)の経験を活かし、解剖名の説明と、医学の基礎となる人体の正常かつ複雑な「しくみ」及び深い関係のある「働き」を理解するための基礎知識について講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		5/19 (月)	4	細胞と骨格	門田
2		5/26 (月)	4	骨格 小テスト	門田
3		6/ 2 (月)	4	筋	門田
4		6/ 9 (月)	4	筋 小テスト	門田
5		6/16 (月)	4	呼吸、消化・吸収1	門田
6		6/23 (月)	4	呼吸、消化・吸収2	門田
7		6/30 (月)	4	循環、神経1	門田
8		7/ 7 (月)	4	循環、神経2	門田

【試験: 7/15(火) 試験問題作成: 門田 】

人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能

組織・発生学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	鈴木 美穂		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	人体の構築を組織・細胞レベルで学び、人体・歯・歯周組織の発生について、又歯、歯周組織の組織構造を理解させることを目的とする。
使用教本	「解剖学・組織発生学・生理学」「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
参考図書	
評価方法・基準	定期試験、授業態度（出席状況）などの総合評価
履修上の注意	教科書、プリントを中心に学習する。
使用機材	液晶プロジェクター、ノート型パーソナルコンピューターなど

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○鈴木美穂

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、人体・歯・歯周組織発生と、歯、歯周組織の組織構造を理解し、組織・細胞レベルで人体の構築について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		6/12 (木)	4	組織とは、細胞、一般組織	鈴木美穂
2		6/19 (木)	4	一般組織	鈴木美穂
3		6/26 (木)	4	発生	鈴木美穂
4		7/ 3 (木)	4	口腔発生学	鈴木美穂
5		7/10 (木)	4	口腔発生学	鈴木美穂
6		8/28 (木)	4	エナメル質、象牙質	鈴木美穂
7		9/ 4 (木)	4	歯髄、セメント質、歯根膜	鈴木美穂
8		9/11 (木)	4	歯槽骨、歯肉、萌出	鈴木美穂

【試験: 9/22(月)

試験問題作成: 鈴木 美穂】

人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能

生理学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	高山 由紀		実施単位・時間	2単位・30時間 (15コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	生体の基本的なメカニズムを理解し、歯科衛生士として必要な知識を身につける。
使用教本	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」
参考図書	
評価方法・基準	テストによる評価
履修上の注意	
使用機材	ノート型パソコン、液晶プロジェクター

○高山由紀

大学病院歯科口腔外科の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、消化・吸収、循環(血管・心臓・静動脈・リンパ)、神経、呼吸、感覚、排泄、対応、内分泌、生殖など生体のメカニズムの基本について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/15 (火)	3	生理学総論 1章 細胞	高山
2		4/15 (火)	4	3章 消化・吸収①	高山
3		4/22 (火)	3	3章 消化・吸収②	高山
4		4/22 (火)	4	4章 循環 血液①	高山
5		5/20 (火)	3	4章 循環 血液②	高山
6		5/20 (火)	4	4章 循環 動脈・静脈・リンパ	高山
7		5/27 (火)	3	5章 神経①	高山
8		5/27 (火)	4	5章 神経②	高山
9		6/ 3 (火)	3	まとめ①	高山
10		6/ 3 (火)	4	6章 呼吸	高山
11		6/10 (火)	3	7章 感覚	高山
12		6/10 (火)	4	8章 排泄	高山
13		6/17 (火)	3	9章 体温 11章 生殖	高山
14		6/17 (火)	4	10章 内分泌	高山
15		6/24 (火)	4	まとめ②	高山

【試験: 9/18(木)

試験問題作成: 高山】

人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能

栄養学		講義	実施時期	Ⅱセメスター (1学年)
担当講師	石津 貴恵		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	メタボリックシンドロームといわれる患者は増加の一步をたどっている。それらの患者と口腔の関係も徐々に明らかになってきた。そのためにも、栄養の基礎をしっかりと身につけ、口の中のことも全身のことも話のできる歯科衛生士になるための学習を進める。
使用教本	「人体の構造と機能3 栄養学」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」
参考図書	
評価方法・基準	定期試験、授業態度(積極性、発表)などの総合評価
履修上の注意	不明な点はそのままにせず積極的に自ら進んで学習してください。
使用機材	パソコン、液晶プロジェクター

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○石津貴恵

薬局での管理栄養士としての栄養指導等の実務と、歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士(現役)の経験を活かし、糖質、タンパク質、脂質、日本人栄養摂取状況など栄養と代謝、口腔と全身の関係など、歯科衛生士として保健指導に必要な基礎となる知識について講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/29 (水)	2	1章 栄養学と歯科衛生士	石津
2		11/ 7 (金)	2	2章 ①糖質	石津
3		11/18 (火)	2	②脂質	石津
4		11/25 (火)	1	③タンパク質	石津
5		12/ 2 (火)	1	④ビタミン	石津
6		12/19 (金)	2	⑤ミネラル	石津
7		1/ 9 (金)	2	⑥食物繊維	石津
8		1/15 (木)	1	⑦水	石津

【試験: 1/28(水) 試験問題作成: 石津】

歯・口腔の構造と機能

生化学		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	永田 年・深谷 和貴		実施単位・時間	1単位・16時間（8コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	われわれ人間は生きるために食べ物（栄養素）を摂取している。 生ることとは 1. 体を維持すること（体を作ること、動くこと、体温を維持すること） 2. 子孫を残すこと である。体を維持することである代謝および子孫を残すことである遺伝情報について各種病態・疾患と関係付けて理解する。
使用教本	「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」
参考図書	はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学（羊土社）
評価方法・基準	授業中の小テストおよび定期試験
履修上の注意	
使用機材	Power Point

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○永田年

医学研究者（博士）・歯科医師としての国内外研究員、歯科診療所の臨床現場での歯科医師の経験、大学・専門学校の教員（現役）の経験を活かし、生体の構成要素と化学反応、糖質と脂質の代謝から身体を維持する代謝と遺伝情報を各種病態と疾患とに関係付けて講義する。

○深谷和貴

歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、タンパク質の代謝、結合組織、構成成分、石灰化は歯の蓄積物などから、身体を維持する代謝と子孫を残す遺伝情報を各種病態と疾患とに関係付けて講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 3（金）	1	I 編 1 章 人体の構成要素	永田
2		10/10（金）	1	I 編 2 障 人体における化学反応	永田
3		10/17（金）	1	I 編 3 章 糖質、脂質、たんぱく質の代謝 4 章 糖質、脂質、タンパク質の相互関連	永田
4		10/24（金）	1	I 編 5 章 遺伝子とたんぱく質合成 6 章 人体における恒常性の維持	永田
5		1/ 8（木）	3	Ⅱ編 1 章 歯と歯周組織の生化学	深谷
6		1/22（木）	3	Ⅱ編 2 章 硬組織の生化学	深谷
7		1/29（木）	3	Ⅱ編 3 章 唾液の生化学	深谷
8		2/ 5（木）	3	Ⅱ編 4 障 プラークの生化学	深谷

【試験：2/17（火）

試験問題作成：永田・深谷】

歯・口腔の構造と機能

口腔解剖学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	大杉 将嗣		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	顎顔面・頭頸部の構造 (骨・筋・血管・神経) とその機能を理解する。
使用教本	「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
参考図書	
評価方法・基準	小テストおよび定期試験にて評価する
履修上の注意	予習・復習をするようにしてしてください。特に口腔内の構造は、鏡を見ながらどこに何があるかを理解するようにしてください。
使用機材	スライド、歯牙模型、歯列顎模型、スタディモデル

○大杉将嗣

○実務経験のある教員等による授業科目 (高等教育の修学支援新制度)

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、顎顔面・頭頸部の構造 (骨・筋・血管・神経) とその機能について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格: 時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		5/16 (金)	3	口腔の区分と構造物	大杉
2		5/23 (金)	3	固有口腔内の臓器	大杉
3		5/30 (金)	3	唾液腺、咽頭、頭蓋骨	大杉
4		6/ 6 (金)	3	上顎骨、下顎骨、口蓋骨	大杉
5		6/13 (金)	3	顎関節、表情筋	大杉
6		6/20 (金)	3	舌骨上筋、咀嚼筋	大杉
7		6/27 (金)	3	口腔の血管系、リンパ系	大杉
8		7/ 4 (金)	3	神経	大杉

【試験: 7/17(木)

試験問題作成: 大杉 将嗣】

歯・口腔の構造と機能

歯牙解剖	講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	佐原 正恭・井嶋 洋之	実施単位・時間	2単位・30時間（15コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	（佐原）口腔付近の構造と動きを理解し、歯牙の特徴を把握すると共に、歯の歯列・咬合の一般的な知識を学ぶことにより、臨床科目に進んでの予防処置や保健指導等を学ぶ際の応用の効く知識を身につける。 （井嶋）歯牙形態図を模写、スケッチを行うことで歯の形を立体像として記憶する。
使用教本	「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
参考図書	金原出版株式会社 原著 藤田 恒太郎「歯の解剖学」第2版 医歯薬出版株式会社 前田健康「基礎から学ぶ 歯の解剖」
評価方法・基準	定期試験、授業態度（質疑応答など）、小テスト（2,3回）などの総合評価
履修上の注意	（佐原）質疑応答を繰り返しながら、講義を進めていく予定なので、講義の前後に予習・復習をしておくこと。 （井嶋）実際の進み具合で予定が前後することがあります。
使用機材	井嶋：PC、油ねんど、クリアファイル（下敷き）、4倍大歯牙模型

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○佐原正恭

歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、口腔付近の構造と動き、歯牙の特徴、歯の歯列・咬合の知識について講義する。

○井嶋洋之

歯科臨床現場での歯科技工士の経験を活かし、特徴のある歯の形態、歯列と咬合、歯牙形態を立体像として理解できるよう講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 1（水）	4	はじめに	佐原
2		10/ 8（水）	4	永久歯①前歯	佐原
3		10/22（水）	4	永久歯②小臼歯	佐原
4		10/29（水）	4	永久歯③大臼歯	佐原
5		11/12（水）	4	乳歯①	佐原
6		11/19（水）	4	乳歯②	佐原
7		12/ 3（水）	4	特色のある歯の形態、歯列と咬合	佐原
8		12/ 9（火）	3	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 切歯	井嶋
9		12/ 9（火）	4	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 切歯	井嶋
10		12/16（火）	3	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 小臼歯	井嶋
11		12/16（火）	4	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 小臼歯	井嶋
12		1/13（火）	3	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 大臼歯	井嶋
13		1/13（火）	4	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 大臼歯	井嶋
14		1/20（火）	3	歯牙図と名称 部位を一体型で学ぶ 大臼歯	井嶋
15		1/20（火）	4	歯牙解剖学（歯の形）について復習（まとめ）	井嶋

【試験：2/13（金）

試験問題作成：佐原 正恭】

歯・口腔の構造と機能

口腔生理学	講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	高山 由紀	実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	口腔生理学：歯科衛生士として患者を診る際に必要となる歯の痛みや味覚、あごの運動、嚥下（飲み込み）などの口腔の動き・機能について理解する。
使用教本	「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
参考図書	
評価方法・基準	口腔生理学：定期試験
履修上の注意	口腔生理学を学ぶためには、解剖学の知識が必要です。解剖の復習をした上で授業に臨んでください。
使用機材	書画カメラ、パソコン、プロジェクター

○高山 由紀

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

大学病院歯科口腔外科の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、歯科衛生士として患者を診る際に必要となる歯の痛みや味覚、あごの運動、嚥下(飲み込み)などの口腔の動き・機能について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		7/ 8 (火)	1	1章 歯と口腔の感覚	高山
2		7/ 8 (火)	2	2章 味覚と臭覚	高山
3		8/26 (火)	3	3章 咬合と咀嚼・吸啜①	高山
4		8/26 (火)	4	3章 咬合と咀嚼・吸啜②	高山
5		9/ 2 (火)	1	4章 嚥下と嘔吐	高山
6		9/ 2 (火)	2	5章 発声	高山
7		9/ 9 (火)	1	6章 唾液	高山
8		9/ 9 (火)	2	復習・まとめ	高山

【試験：9/18(木)

試験問題作成：高山】

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

病理学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	馬場 健		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	正常（健康）とは何か、異常（疾患）とは何かを考え、病気や疾患の基本について学ぶ。疾患の原因、経過、結果などを学び、その際おこる細胞・組織の変化を理解する。
使用教本	「疾病の成り立ちと回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」
参考図書	
評価方法・基準	筆記試験、出席状況、授業態度などを総合的に評価する
履修上の注意	常に興味を持ち、疑問点については質問するような積極的な姿勢をもつこと。
使用機材	パソコン、プロジェクターなど

○馬場 健

大学病院病理診断科での医師(現役)の経験を活かし、正常(健康)・異常(疾患)、病気や疾患の基本、疾患の原因・経過・結果、疾患時の細胞・組織の変化について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		6/ 2 (月)	1	病因論、遺伝性疾患と奇形	馬場
2		6/ 9 (月)	1	循環障害	馬場
3		6/16 (月)	1	代謝障害	馬場
4		6/23 (月)	1	増殖と修復	馬場
5		6/30 (月)	1	炎症、感染症	馬場
6		7/ 7 (月)	1	免疫、免疫異常	馬場
7		9/ 1 (月)	1	腫瘍	馬場
8		9/ 8 (月)	1	腫瘍	馬場

【試験: 9/19(金)

試験問題作成: 馬場 健】

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

口腔病理学	講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	鈴木 浩之	実施単位・時間	1単位・16時間（8コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	口腔病理学は、病理学各論の一部門で、口腔領域の組織や臓器に発生する様々な病気の原因・経過・転帰などを解明し、それらの病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。歯科衛生士が正しく的確に業務を行うためには、正常な口腔状態についての知識だけでなく、病的な口腔状態、すなわち口腔の病気に関する正確な知識を養っておかなくてはならない。口腔病理学を学び、歯科衛生士になるための基盤を築く。
使用教本	「疾病の成り立ちと回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」
参考図書	「解明 病理学」青笹克之 医歯薬出版、「頭頸部腫瘍〈2〉上気道・咽頭・口腔腫瘍と歯源性腫瘍」（腫瘍病理鑑別診断アトラス）腫瘍病理鑑別診断アトラス刊行委員会（監修）文光堂、「頭頸部腫瘍〈1〉唾液腺腫瘍」（腫瘍病理鑑別診断アトラス）腫瘍病理鑑別診断アトラス刊行委員会（監修）文光堂、「新編口腔外科・病理診断アトラス」下野正基 医歯薬出版、「口腔病理学Ⅰ・Ⅱ」石川吾朗 永末書店、口腔病理アトラス 高木實他 文光堂、新口腔病理学 下野正基他 医歯薬出版
評価方法・基準	筆記試験及び、各自の発表を評価し、合否判定する。
履修上の注意	各自、あらかじめ指定されたセクションの学習内容を発表する時間があります。
使用機材	液晶プロジェクター

○鈴木浩之

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

医科大学病理学講座での研究活動、医科大学の教官(歯科口腔外科)、大学病院および歯科診療所での歯科医師(現役)の経験を活かし、顎口腔領域疾患の原因・発症機序・形態と機能の変化など病気のメカニズムを講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/30 (木)	4	・歯科衛生士が口腔病理学を学ぶことの意義 ・口腔粘膜疾患の病理	鈴木浩
2		11/13 (木)	4	・口腔粘膜疾患の病理 ・口腔領域の嚢胞と腫瘍の病理	鈴木浩
3		11/20 (木)	4	・口腔領域の嚢胞と腫瘍の病理	鈴木浩
4		11/27 (木)	4	・潜在的悪性疾患および口腔癌の病理	鈴木浩
5		12/ 4 (木)	4	・顎骨の病変、唾液腺の病変の病理	鈴木浩
6		1/ 8 (木)	4	・口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化 ・歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物	鈴木浩
7		1/15 (木)	4	・齲蝕、象牙質・歯髄複合体の病態	鈴木浩
8		1/29 (木)	4	・歯周組織の病態	鈴木浩

【試験: 2/12(木)

試験問題作成: 鈴木 浩之】

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

薬理学	講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	鈴木 常義	実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	薬とは何か。医薬品の定義の確認とどのようにして効果を現すのかを知ってもらいたい。実際によく使用されている薬剤を覚え、その時の留意事項（特に副作用）も理解されるようにしたい。
使用教本	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」
参考図書	カラー図解 薬理学の基本がわかる事典 薬がみえるVol.1～3
評価方法・基準	試験によって評価する。
履修上の注意	プリントに書いてない説明した所をうまくメモしてほしい。
使用機材	プリント、PC、プロジェクター

○鈴木常義

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

薬局での薬剤師業務(現役)に携わった経験を活かし、薬物の作用、中枢・末梢神経系と薬の関係、循環・呼吸器系と薬の関係、ビタミン、ホルモン、漢方医学などの薬・医薬品の基礎知識と副作用等留意事項について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/ 9 (水)	3	I 編 総論 1章 薬物の作用、2章 薬物動態	鈴木常
2		4/ 9 (水)	4	3章 薬物の適用方法の種類と特徴 4章 薬物の作用に影響を与える要因	鈴木常
3		4/16 (水)	3	5章 薬物の副作用、有害作用 6章 医薬品を適用する際の注意	鈴木常
4		4/16 (水)	4	7章 薬物の取り扱い 8章 薬物と法律・薬物と医薬品	鈴木常
5		5/ 7 (水)	4	II 編 各論 1章 ビタミンとホルモン 2章 末梢神経系に作用する薬物	鈴木常
6		5/21 (水)	4	3章 中枢神経系に作用する薬物 4章 循環器系に作用する薬物	鈴木常
7		6/ 4 (水)	4	5章 腎臓に作用する薬物 6章 呼吸器系に作用する薬物 7章 消化器系に作用する薬物	鈴木常
8		6/11 (水)	4	11章 代謝性疾患治療薬、13章 痛みと薬 14章 局所麻酔薬	鈴木常

【試験: 7/15(火)

試験問題作成: 鈴木 常義】

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

歯科薬理学		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	渡邊泰秀		実施単位・時間	1単位・16時間（8コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	解剖学、生理学、生化学、微生物学、病理学の基本的知識を基に薬物の基本作用を理解する。薬物治療の基本を理解し、身近な薬物から歯科治療に使われる薬物まで説明することができる。特に臨床で扱われる薬物に関しては事例を通じて理解する。
使用教本	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」
参考図書	「コメディカルのための薬理学 第4版」朝倉書店
評価方法・基準	試験によって評価する。
履修上の注意	ノートの取り方を工夫して、重要事項、臨床関連などの知識を整理してほしい。
使用機材	

○渡邊泰秀

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

歯学部を卒業し、約10年間臨床に携わりその後、医学部で博士号を取得し大学で研究と教育をしてきた。その経験を活かし、薬物治療の基本知識と歯科診療に使用される薬物について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 7（火）	3	Ⅱ編4章 循環器系に作用する薬物	渡邊
2		10/14（火）	3	8章 血液に作用する薬	渡邊
3		10/21（火）	3	9章 免疫と薬 10章 悪性腫瘍と薬	渡邊
4		10/28（火）	3	12章 炎症と薬	渡邊
5		11/ 4（火）	3	15章 高感染症薬 16章 消毒に関する薬	渡邊
6		11/11（火）	3	17章 う蝕予防薬 18章 歯内療法薬	渡邊
7		11/18（火）	3	19章 歯周疾患治療薬	渡邊
8		11/25（火）	3	20章 顎・口腔粘膜疾患と薬 21章 漢方医学と薬物	渡邊

【試験：12/12(金) 試験問題作成：渡邊】

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

微生物学		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	永田 年		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	病原微生物（細菌、真菌、ウイルス、原虫）の性質およびこれらによって惹き起こされる疾病（感染症）を正しく理解する。更に、これらの疾病の予防、治療法について学ぶ。
使用教本	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」医歯薬出版
参考図書	系統看護学講座 微生物学13版（医学書院）（2018年） 病原体・感染・免疫改訂3版（南山堂）（2017年） 新・歯科衛生士マニュアル 微生物学（クインテッセンス出版社）（2012年）
評価方法・基準	試験の結果を評価する。また講義へ積極的参加（質問等）考慮する。
履修上の注意	簡単でいいのでできるだけ予習してくること。
使用機材	コンピューター

○永田 年

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

医学研究者(博士)・歯科医師としての国内外研究員、歯科診療所の臨床現場での歯科医師の経験、大学・専門学校の教員(現役)の経験を活かし、病原微生物(細菌、真菌、ウイルス、原虫)の性質と疾病(感染症)、その予防、治療法について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		5/ 7 (水)	1	微生物の一般	永田 年
2		5/21 (水)	1	微生物の観察方法・感染	永田 年
3		5/28 (水)	1	化学療法、滅菌と消毒	永田 年
4		6/ 4 (水)	1	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌	永田 年
5		9/ 4 (木)	1	グラム陽性桿菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	永田 年
6		9/ 4 (木)	2	ウイルス1	永田 年
7		9/11 (木)	1	ウイルス2、真菌、原虫	永田 年
8		9/11 (木)	2	免疫	永田 年

【試験：9/19(金)】

試験問題作成：永田 年】

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

口腔微生物学	講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	永田 年	実施単位・時間	1単位・16時間（8コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	病原微生物（細菌、真菌、ウイルス、原虫）の性質およびこれらによって惹き起こされる疾病（感染）を正しく理解する。更に、これらの疾病の予防、治療法について学ぶ。特に口病原微生物（細菌、真菌、ウイルス、原虫）およびそれによって惹き起こされる疾病について学ぶ。また口腔に症状の出る全身感染症についても学ぶ。
使用教本	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」医歯薬出版
参考図書	微生物学の頁で挙げた3冊のほか、他の科目（口腔病理学や口腔衛生学）で使う図書が参考になると思います。
評価方法・基準	試験の結果を評価する。また講義へ積極的参加（質問等）を考慮する。
履修上の注意	簡単でいいので予習をしてくること。
使用機材	

○永田 年

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

医学研究者(博士)・歯科医師としての国内外研究員、歯科診療所の臨床現場での歯科医師の経験、大学・専門学校の教員(現役)の経験を活かし、口腔病原微生物(細菌、真菌、ウイルス、原虫)の性質と疾病(感染症)、その予防、治療法について。さらに口腔に症状の出る全身感染症について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		11/ 5 (水)	1	口腔内常在微生物	永田 年
2		11/ 5 (水)	2	口腔感染症（う蝕1）	永田 年
3		11/12 (水)	1	口腔感染症（う蝕2）	永田 年
4		11/12 (水)	2	口腔感染症（歯髄炎）	永田 年
5		11/19 (水)	1	口腔感染症（歯周炎1）	永田 年
6		11/26 (水)	1	口腔感染症（歯周炎2）	永田 年
7		11/26 (水)	2	口腔感染症（カンジタ症、ウイルス感染症） 留意すべき口腔外感染症	永田 年
8		12/ 3 (水)	1	病巣感染・全体のまとめ	永田 年

【試験：12/22(月) 試験問題作成：永田 年】

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

予防歯科学		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	富士田 早織		実施単位・時間	2単位・30時間（15コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科疾患の成因と発病機序を理解し、歯科臨床及び公衆衛生において患者の健康維持増進に必要な化学概念に基づく歯科疾患の予防処置の実施方法と保健指導方法を習得する。
使用教本	「保健生態学」
参考図書	
評価方法・基準	筆記試験 プレテスト
履修上の注意	常に目標をもって勉学し、実習においてはその目的を理解する。
使用機材	パソコン、プロジェクター

○富士田早織

大学病院および歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯科疾患の成因と発病機序、歯科臨床及び公衆衛生における患者の健康維持増進に必要な化学概念に基づく歯科疾患の予防処置の実施方法と保健指導方法について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 7（火）	1	1章 総論1、2	富士田
2		10/ 7（火）	2	1章 総論3	富士田
3		10/14（火）	1	2章 口腔清掃1、2、3	富士田
4		10/14（火）	2	2章 口腔清掃4、5	富士田
5		10/21（火）	1	3章 歯科疾患の疫学1	富士田
6		10/21（火）	2	3章 歯科疾患の疫学2、3	富士田
7		10/28（火）	1	4章 齲歯の予防1、2	富士田
8		10/28（火）	2	4章 齲歯の予防3、4	富士田
9		12/16（火）	1	5章 フッ化物による齲蝕予防1、2、3、4	富士田
10		1/ 6（火）	2	5章 フッ化物による齲蝕予防5、6、7	富士田
11		1/13（火）	1	5章 フッ化物による齲蝕予防8、9	富士田
12		1/20（火）	1	6章 歯周疾患の予防1、2	富士田
13		1/27（火）	1	6章 歯周疾患の予防3、4	富士田
14		2/ 3（火）	1	7章 その他の疾患の・異常の予防 1、2、3、4、5、6、7	富士田
15		2/10（火）	1	8章 ライフステージごとの口腔保健管理	富士田

【試験：2/20（金）

試験問題作成：富士田】

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

衛生・公衆衛生学		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	宮原 時彦		実施単位・時間	1単位・16時間（8コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	この講義では最新の医療統計を基に、①わが国が抱えている医療事情、②それに関わる法律、③国や地方自治体の活動、を学習します。
使用教本	「保健生態学」
参考図書	国民衛生の動向（統計協会編集）
評価方法・基準	100点満点の筆記試験により評価します。出題傾向は選択回答です。
履修上の注意	統計情報は日々変化します。新聞やテレビなどの話題に注意ください。
使用機材	板書を中心に展開します。

・宮原時彦

大学院における公衆衛生学の研究、大学・専門学校での講師(現役)の経験を活かし、最新の医療統計を基に、日本国の医療事情、医療にかかわる法律、国や地方自治体の活動について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		11/10 (月)	3	総論（プライマリヘルスケアと予防医学）	宮原
2		11/17 (月)	3	疫学（代表的な指数および研究の進め方）	宮原
3		12/ 1 (月)	3	人口（静態統計と動態統計）	宮原
4		12/ 8 (月)	3	健康と環境①（水、大気、放射線、ゴミ）	宮原
5		1/19 (月)	3	健康と環境②（公害、地球環境）	宮原
6		1/26 (月)	3	感染症①（成立と予防）	宮原
7		2/ 2 (月)	3	感染症②（分類と動向）	宮原
8		2/ 9 (月)	3	食品と健康（食中毒と国民栄養の現状）	宮原

【試験：2/20(金)】

試験問題作成：宮原 時彦】

歯科衛生士概論

歯科衛生士概論		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	伊奈 美恵子		実施単位・時間	2単位・30時間 (15コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科衛生を实践して人びとの健康づくりを支援する者となるために、歯科衛生士の業務・歴史等について学び、概要を理解する。
使用教本	「歯科衛生学総論」
参考図書	
評価方法・基準	筆記試験、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に判断し評価する。
履修上の注意	授業内では自らが進んで参加、発言をするように心がける。提出物の提出期日は守る。わからない点などはその都度質問をしてください。
使用機材	液晶プロジェクター、パソコン

○伊奈美恵子

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士業務、大学院での感染予防の研究、専門学校での教員経験(現役)を活かし、歯科衛生士の業務、歴史、法律、倫理、組織など、人々の健康づくりの支援者として必要な歯科衛生士の概要を講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/11 (金)	3	1章 歯科衛生学とは	伊奈
2		4/16 (水)	2	1章 歯科衛生士と健康、チームにおける歯科衛生活動	伊奈
3		5/ 1 (木)	2	2章 歯科衛生の歴史	伊奈
4		5/ 9 (金)	3	3章 歯科衛生活動のための理論	伊奈
5		5/22 (木)	2	3章 歯科衛生活動のための理論	伊奈
6		5/30 (金)	2	4章 歯科衛生過程	伊奈
7		6/13 (金)	2	4章 歯科衛生過程	伊奈
8		6/24 (火)	1	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務	伊奈
9		7/10 (木)	2	歯科衛生士が活躍する現場から	伊奈
10		7/11 (金)	3	歯科衛生士が活躍する現場から	伊奈
11		7/18 (金)	1	5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務	伊奈
12		8/28 (木)	3	6章 歯科衛生士法と医療倫理	伊奈
13		9/ 1 (月)	2	7章 歯科衛生士の活動と組織	伊奈
14		9/ 8 (月)	2	7章 歯科衛生士の活動と組織	伊奈
15		9/12 (金)	1	8章 海外における歯科衛生士、まとめ	伊奈

【試験: 9/17(水)

試験問題作成: 伊奈 美恵子 】

臨床歯科医学

臨床歯科総論		講義	実施時期	I セメスター (1学年)
担当講師	才川 隆弘		実施単位・時間	1単位・16時間 (8コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科・歯科臨床を大まかに把握することで、これから学ぶことを概略として捉える。また専門科目に移行したときに基本となる事項を当初から記憶していく。摂食嚥下といった新しい分野を少しずつ織り交ぜ、器質と機能の面から口腔を理解していく。
使用教本	「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」
参考図書	
評価方法・基準	定期試験、小テスト、授業態度、出席状況など
履修上の注意	広範囲の内容ではあるが、歯科医療の概要を理解するため重要となる。不明な点はその都度質問していただきたい。今後の歯科臨床専門科目においても必要な事が多く、自分で理解しやすいようにまとめておくことも大切。
使用機材	

○才川隆弘

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

日本補綴歯科学会専門医、日本老年歯科医学会専門医・指導医。大学病院及び歯科診療所の臨床現場で診療に携わる。歯科医師会においては地域歯科保健医療の分野で携わる。これら経験を踏まえて歯科及び歯科臨床について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		4/17 (木)	1	歯科とは・歯科診療の流れ・これから学ぶ教科について。口腔の機能 (プリント配布)	才川
2		5/15 (木)	1	診査・検査・前処置・全身管理に関する事。口腔の機能。	才川
3		5/22 (木)	1	小テスト。保存修復・歯内療法・歯周治療。口腔機能。	才川
4		5/29 (木)	1	今までの復習。口腔外科。	才川
5		6/ 5 (木)	1	今までの復習。歯科補綴	才川
6		6/26 (木)	1	小テスト。今までの復習。小児歯科・矯正歯科。	才川
7		7/ 3 (木)	1	今までの復習。障がい者歯科・高齢者歯科。	才川
8		7/10 (木)	1	今までの復習。	才川

【試験: 7/17(木)

試験問題作成: 才川 隆弘】

臨床歯科医学

保存修復学		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	山本 哲也・田代 浩史		実施単位・時間	2単位・30時間（15コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科衛生士の業務と密接に関連している保存修復学の基礎について臨床に即した面から学び保存修復について基本的な知識を身に着ける
使用教本	「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」
参考図書	「歯科診療補助論第2版」「歯科材料」
評価方法・基準	定期試験、授業態度
履修上の注意	授業を進めるうえでわからない点などはその都度質問して理解する様に心掛けること。
使用機材	スライド

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○山本哲也
歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、保存、齲蝕、窩洞、前処理、切削器具など、保存修復学の基礎知識について講義する。
○田代浩史
歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、コンポジットレジン修復、セメント修復、インレー修復、ベニア修復、合着・接着材、歯科材料の種類・取り扱いなど、保存修復学の基礎知識について講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 1（水）	3	保存学の総論	山本
2		10/ 8（水）	3	齲蝕の分類	山本
3		10/15（水）	3	窩洞の分類（ブラックの窩洞分類等）	山本
4		10/22（水）	3	窩洞の構成要素	山本
5		10/29（水）	3	窩洞の条件	山本
6		11/ 5（水）	3	前処置	山本
7		11/12（水）	3	切削器具とレーザー総論	山本
8		12/ 2（火）	2	コンポジットレジン修復	田代
9		12/ 9（火）	2	コンポジットレジン修復	田代
10		12/16（火）	2	コンポジットレジン修復 セメント修復	田代
11		1/13（火）	2	セメント修復	田代
12		1/20（火）	2	インレー修復	田代
13		1/27（火）	2	インレー修復	田代
14		2/ 3（火）	2	ベニア修復	田代
15		2/10（火）	2	合着材および接着材 主要歯科材料の種類と取り扱い	田代

【試験：2/19（木） 試験問題作成：山本・田代】

臨床歯科医学

歯内療法学	講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	河合啓太・杉山正祐	実施単位・時間	2単位・30時間（15コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科臨床において治療の土台となる歯内療法の基礎知識を身に着けると共に、その考え方と診察の流れを理解する。
使用教本	「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」
参考図書	「治癒の歯内療法」月星光博著 クインテッセンス出版
評価方法・基準	定期試験、授業態度など
履修上の注意	講義内容を自分なりにノートにまとめておくといい。
使用機材	

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○河合啓太

歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯科臨床において治療の土台となる歯内療法の基礎知識とその考え方、診察の流れについて講義する。

○杉山正祐

大学病院・歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯髄の除去療法、根管治療などの歯内療法の基礎知識とその考え方、診察の流れについて講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 9（木）	1	歯内療法の概要Ⅰ	河合
2		10/ 9（木）	2	歯内療法の概要Ⅱ	河合
3		10/23（木）	1	歯内療法の概要Ⅲ	河合
4		10/23（木）	2	歯内療法の概要Ⅳ	河合
5		11/13（木）	1	歯内療法の概要Ⅴ	河合
6		12/ 3（水）	2	歯髄の保存療法	杉山
7		12/10（水）	1	歯髄の除去療法Ⅰ	杉山
8		12/10（水）	2	歯髄の除去療法Ⅱ	杉山
9		12/17（水）	1	根管治療Ⅰ	杉山
10		12/17（水）	2	根管治療Ⅱ	杉山
11		12/18（木）	1	根管充填Ⅰ	河合
12		12/18（木）	2	根管充填Ⅱ	河合
13		1/ 8（木）	1	外科的歯内療法	河合
14		1/ 8（木）	2	歯の外傷・安全対策	河合
15		1/15（木）	2	歯のホワイトニング	河合

【試験：2/17（火）

試験問題作成：河合】

臨床歯科医学

歯周病学		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	宮澤 康・古橋拓哉・宮坂岳男	実施単位・時間	2単位・30時間（15コマ）	

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科衛生士の業務と密接に関連している歯周病学を臨床に即した面から学び歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術を身に着ける。
使用教本	「歯周病学」
参考図書	医歯薬出版社 加藤熙著「新版、最新歯周病学」 日本歯科評論社 伊藤公一著「HOW TO審美と歯周外科」 医歯薬出版 金子真弓「一から学ぶ スケーリング・ルートプレーニング」
評価方法・基準	定期試験、小テスト、授業態度（出席状況）などの総合評価
履修上の注意	授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解するように心掛けること。
使用機材	スライド、ビデオ、パソコン（パワーポイント）

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

- 宮澤 康
大学講師、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯周病学を臨床に即した面から、歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。
- 古橋拓哉
歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯周病学を臨床に即した面から、歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。
- 宮坂岳男
歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯周病学を臨床に即した面から、歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
1		10/ 2（木）	3	歯周組織の構造と機能	宮澤
2		10/ 2（木）	4	歯周病とその成り立ち	宮澤
3		10/23（木）	4	歯周病の原因1	宮澤
4		10/30（木）	3	歯周病の原因2	宮澤
5		11/13（木）	3	歯周病の検査と診断	宮澤
6		12/ 4（木）	3	歯周基本治療1	古橋
7		12/11（木）	3	歯周基本治療2	古橋
8		12/11（木）	4	スケーリング・ルートプレーニング	古橋
9		12/18（木）	3	プラークコントロールとTBI	古橋
10		12/18（木）	4	歯周病と全身疾患	古橋
11		1/22（木）	1	外科的歯周治療	宮坂
12		1/22（木）	2	外科的歯周治療	宮坂
13		1/29（木）	1	外科的歯周治療	宮坂
14		1/29（木）	2	口腔機能回復治療	宮坂
15		2/ 5（木）	1	メンテナンス	宮坂

【試験：2/16(月) 試験問題作成：宮澤】

歯科予防処置論

歯科予防処置論 1		実習	実施時期	I II セメスター (1学年)
担当講師	大石雄一、専任教員 他	実施単位・時間	3単位・120時間 (60コマ)	

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科予防処置についての基本的な知識を学び、実習等を通じて技術を養う。
使用教本	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」「歯周病学」 他
参考図書	財団法人口腔保健協会 NPO法人日本むし歯予防フッ素推進会誌「日本におけるフッ化物製剤」クインテッセンス出版 佐々木砂子著「歯科衛生士のためのクリニカルインストルメンテーション」医歯薬出版「歯科衛生士のための感染予防スタンダード」
評価方法・基準	定期試験、実技試験及び技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に判断し評価する。
履修上の注意	授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解するように心掛ける。 準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については、掲示物を参照にし忘れ物のないようにする。
使用機材	歯科器材、液晶プロジェクター、ノート型パーソナルコンピューターなど

○大石 雄一
専任教員多数
歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験(大石)と歯科衛生士の経験および本校教員(現役)の経験を活かし、歯科予防処置についての基本的な知識・技術を講義し、予防的歯石除去の基本的能力が習得できるように指導する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席!】

回数	出欠記録	内容
1		歯科予防措置の総論：大石
2		歯科衛生士としてのマナーとルール 医療人としてのマナーとルール 医療人としての身だしなみ 実習時の身だしなみ
3		
4		
5		口腔の基礎知識 口腔・口腔周囲の構造、歯周組織 歯冠と歯根の形態 口腔の機能
6		
7		
8		う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物 う蝕 歯周病
9		
10		
11		口腔内の情報収集 歯式、歯肉 口腔内の観察
12		
13		
14		鎌型スケーラー基礎訓練 基礎訓練1 (知識) 基礎訓練2 (把持法・姿勢) 基礎訓練3 (動き) 基礎訓練4 (顎模型の取り扱い・マニキュア) 基礎訓練5 (机上訓練) 基礎訓練6 (マニキンの取り扱い) 基礎訓練7 (ミラーの使用法)
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		鎌型スケーラーマニキン 鎌型スケーラーマニキン実習 鎌SC遠心操作の練習
22		

回数	出欠記録	内容
23		鎌型スクレーラーマニキン 鎌型スクレーラーマニキン実習 鎌SC遠心操作の練習
24		
25		
26		
27		応用編 スケーリング応用編（人工歯石）
28		相互実習に向けて 偶発事故の防止と対策
29		鎌型スクレーラのシャープニング 鎌型スクレーラのシャープニング
30		
31		実技試験 実技試験の説明・練習 実技試験練習 鎌型スクレーラー操作 実技試験
32		
33		
34		触診（探針操作） 触診（探針操作）講義 触診（探針操作）マニキン 触診（探針操作）相互
35		
36		
37		
38		触診・スケーリング・研磨相互実習
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		歯面研磨 講義 マニキン 相互
47		
48		
49		
50		プロービング 講義 マニキン 相互実習
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57		各種診査（現症・歯周組織） 講義 相互
58		
59		
60		

※順番は前後することがあります

歯科保健指導論

歯科保健指導論 1		実習	実施時期	I II セメスター (1学年)
担当講師	伊藤智朗、専任教員 他		実施単位・時間	2単位・80時間 (40コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科保健指導を行うための、健康や口腔保健に関する知識・技術を養う。
使用教本	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」「オーラルヘルスケア事典」
参考図書	「口腔ケア健康ガイド」「歯科医療倫理」
評価方法・基準	定期試験、技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に判断し評価する。
履修上の注意	授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様に心掛ける。専門知識のみにとらわれず、普段より幅広い知識や情報収集を心掛ける。準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については、掲示物を参照にし忘れ物のないようする。
使用機材	歯科器材、液晶プロジェクター、ノート型パソコン

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○伊藤 智朗
専任教員多数
歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験(伊藤)と歯科衛生士の経験および本校教員(現役)の経験を活かし、健康や歯科医療に対する関心が持てるよう、歯科保健指導を行うために必要な基礎的な知識・技術を指導する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	内容
1		歯科保健指導総論：伊藤
2		歯科保健指導の基礎知識：伊藤
3		歯ブラシ検討
4		手用歯ブラシ
5		ブラッシング法
6		毛先を用いる方法・脇腹を用いる方法
7		歯磨剤・洗口剤
8		
9		特殊な歯ブラシ 舌・スポンジ・義歯用ブラシ、口腔洗浄器
10		電動・音波・超音波ブラシ
11		術者磨き実習 術者磨き実習
12		
13		ブランク・歯石の指数
14		PCR
15		OHI・OHI-S
16		PCR、OHI、OHI-S 実習
17		PLI、PHP
18		OHI-S、PLI、PHP
19		指数のまとめ
20		生活習慣の指導1
21		生活習慣の指導2
22		ライフステージにおける歯科衛生介入
		1 妊産婦期
		2 乳児期
		3 幼児期
		4 学齢期

回数	出欠記録	内容
23		ライフステージにおける歯科衛生介入 5 青年期 6 成人期 7 老年期
24		
25		配慮を要する者への歯科衛生介入 1 要介護高齢者 2 障がい者 3 大規模災害被災者
26		
27		その他の清掃法 フロス・歯間ブラシ・タフトブラシ
28		
29		術者磨き フロッシング実習
30		
31		患者（対象者）からの情報収集 全身状態の把握 医療面接
32		
33		
34		歯科衛生士過程 1 概要 2 アセスメント 3 診断 4 計画立案 5 介入 6 評価 まとめ
35		
36		
37		
38		
39		
40		

※順番は前後することがあります

歯科診療補助論

歯科診療補助論 1		実習	実施時期	I II セメスター (1学年)
担当講師	森康一郎、専任教員 他		実施単位・時間	3単位・120時間 (60コマ)

◆内容

授業の概要と到達目標	歯科診療の補助の基礎的知識や技術を学び、実習を通じて能力を養う。
使用教本	「歯科診療補助論 第2版」「歯科機器」「歯科材料」「保存修復・歯内療法」
参考図書	「歯科衛生士国家試験対策 主要三科キーワードチェック」、医歯薬出版社「感染予防対策マニュアル&研修テキスト」、末永書店「院内感染対策」、医歯薬出版「口と歯の病気マップ」、口腔保健協会「歯科衛生士のヒヤリハットの事例と対策」、学研書院「保存修復学」、医歯薬出版「歯科修復学」
評価方法・基準	定期試験、実技試験および技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に判断し評価する。
履修上の注意	授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様心掛ける。準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については掲示物を参照し、忘れ物のないようする。
使用機材	歯科器材、液晶プロジェクター、ノート型パソコン

○森 康一郎
専任教員多数
歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験(森)と歯科衛生士の経験および本校教員(現役)の経験を活かし、歯科診療の補助と歯科診療に対する介助業務について、その基本姿勢や材料・器械の知識と取り扱いについて指導する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	内容
1		歯科診療補助総論：森
2		手指消毒・歯科ユニットの取り扱い 講義・実習
3		
4		
5		衛生材料(綿球・綿栓) 講義・実習
6		医療安全と感染予防(滅菌・消毒器材) 講義・実習
7		
8		
9		歯科診療室の基礎知識(実習室の準備片付け) 講義・実習
10		
11		患者誘導・ポジショニング・ライティング 講義・実習
12		
13		
14		器具の受け渡し マニキン実習・講義・相互
15		
16		
17		ライティング 相互
18		
19		バキューム・口腔内洗浄 講義・マニキン実習・相互
20		
21		
22		

回数	出欠記録	内容
23		歯科診療室での基本的な動作チェック
24		
25		歯科材料の知識と取り扱い：森
26		模型用材料 講義・実習
27		
28		
29		印象材 講義
30		
31		概形印象片顎マニキン実習
32		
33		印象材実技試験 説明・練習 実技試験
34		
35		
36		相互実習片顎
37		
38		概形印象全顎マニキン実習
39		
40		概形印象全顎相互実習
41		
42		
43		連合印象（２級）
44		
45		口腔内診査 講義・実習
46		
47		
48		合着材・接着材 講義・実習 実技チェック説明・練習 実技チェック
49		
50		
51		
52		
53		
54		直接修復（成形歯冠修復）
55		
56		直接修復（隔壁調整・歯間分離）
57		レジン・グラスアイオノマー 講義・実習
58		
59		
60		

※順番は前後することがあります

専門基礎・基礎分野

一般教養		講義	実施時期	Ⅱセメスター（1学年）
担当講師	馬塚丈司・飯嶋理・村松正浩・安里ノリエ		実施単位・時間	1単位・16時間（8コマ）

◆内容

授業の概要と到達目標	(馬塚)生活の中の環境や身近な自然環境を通じて持続可能な社会構築するための基本的な考え方を学ぶ。また、自分は何をしているのか、何ができるのかを発表させたり事例をあげて理解を深める。観察会では、身近な川や海岸に生息する野鳥やアカウミガメとの神秘的な出会いから身近な自然環境の大切さを学ぶ感動教育を行う。また、川や海岸に在り方について考察する。 (村松)静岡県は日本一のお茶処、日本茶の歴史、産地、種類、効能を勉強し、お茶の種類に応じた淹れ方を学ぶ。 (飯嶋)バロック時代は長く続いた王制や宗教支配の中で、哲学・科学・芸術などが新たなジャンルを確立しました。音楽を切り口としてその時代を考証してみたいと思います。 (安里)患者様の満足を得る為には、相手の立場に立った視点での仕事意識がより一層必要となります。医療に携わるスタッフとしての役割や使命感を学び、実際の対応や基本動作を習慣していただけたらと思います。
使用教本	独自に作った資料を利用する
参考図書	アカウミガメの来る浜べ、遠州灘海岸絵地図、天竜川の散策地図 フルートの肖像 その歴史の変遷 前田りり子 東京書籍 音楽ってすばらしい 古楽演奏による音楽の魅力の発見 那須田 務 ポプラ社 楽譜から音楽へ（バロック音楽の演奏法）バルトルド・クイケン 道和書院
評価方法・基準	出席率 等にて評価する
履修上の注意	自然について学ぶのではなく自然から学ぶ授業であることをくみ取る授業 神秘的な感動から環境教育をすすめる
使用機材	パソコン、プロジェクター (飯嶋)バロック時代を彩る楽器群（チェンバロ、一鍵フルート、リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、声楽など）を使用して当時の音楽を再現する。

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○馬塚丈司
河川のツバメ生息地の保護、サンクチュアリジャパンの結成、海岸でのアカウミガメや渡り鳥コアジサシなどの保護・環境保全、子供たちへの自然教育などの自然保護活動(現役)の経験を活かし、生活の中の環境や身近な自然環境を通じて持続可能な社会構築を行うための基本的な考え方について講義する。

○村松正浩
企業での日本茶・茶器販売、製茶(現役)の経験や小中学校・高校・企業でのインストラクター(現役)の経験を活かし、日本茶の歴史、産地、種類、効能、お茶の種類に応じた淹れ方について講義する。

○飯嶋 理
バロック音楽アンサンブル『18世紀アンサンブル浜松』(現役)による、寺・教会・学校等様々なコンサートの経験と歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、音楽を切り口として17から18世紀の哲学・科学・芸術など人の営みについて、歯科衛生士として必要な人としての大切な素養について講義する。

○安里ノリエ
客室乗務員として機内乗務、ブライダル司会、企業・大学・専門学校・文化センター等の講師(現役)としての経験を活かし、歯科医院における患者様の立場にたった対応マナーや基本動作について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

回数	出欠記録	日付	時限	内容	担当者
		8/27(水)	3	ウミガメの放流会と海浜植物の観察	馬塚
		8/27(水)	4	ウミガメの放流会と海浜植物の観察	馬塚
1		10/ 8(水)	1	生活と環境 生活の中の環境について学ぶ	馬塚
2		10/15(水)	1	身近な自然環境	馬塚
3		10/22(水)	1	野生生物の生態	馬塚
4		11/17(月)	1	お茶の歴史、産地、お茶の種類、飲んで健康（お茶の成分・効能・淹れ方）	村松
5		11/17(月)	2	〃	村松
6		12/17(水)	3	17～18世紀の音楽と人の営み	飯嶋理
7		2/ 9(月)	1	歯科医院における患者対応マナー・電話対応	安里
8		2/ 9(月)	2	〃	安里

HAMAMATSU DENTAL HYGIENIST SCHOOL

42 期生 第 2 学年

~~~~~

人間と生活

|              |       |    |         |                |
|--------------|-------|----|---------|----------------|
| ケア・コミュニケーション |       | 講義 | 実施時期    | Ⅲセメスター（2学年）    |
| 担当講師         | 川口 晴美 |    | 実施単位・時間 | 2単位・30時間（15コマ） |

◆内容

|            |                                                                                                                                                                                            |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 歯科の医療機関の数は需要に対して過剰で、今後、競争がますます激しくなると予想されます。患者様に選ばれる医療機関となるには、サービスの質やホスピタリティの高さが重要です。そのためにはコミュニケーション能力を身に付けることが不可欠です。授業ではロールプレイなど演習や討論等を取り入れ、ケア・コミュニケーション検定合格を目指します。※ケア・コミュニケーション検定 9月4日（木） |
| 使用教本       | 「歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション」ウィネット                                                                                                                                                              |
| 参考図書       | 歯科衛生士の接遇                                                                                                                                                                                   |
| 評価方法・基準    | 検定試験、定期試験、出欠席、演習問題（小テスト）、授業態度等の総合評価                                                                                                                                                        |
| 履修上の注意     | 授業には積極的に参加し発言をすることがコミュニケーション向上につながります。                                                                                                                                                     |
| 使用機材       | ビデオ、プリント配布、ノート型パソコン、プロジェクター                                                                                                                                                                |

○川口晴美

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

航空業務、国際旅客部での実務経験、企業・病院・大学・専門学校・高等学校・団体・文化センター等の講師（現役）としての経験を活かし、患者の立場に立った視点での仕事意識、医療に携わるスタッフとしての役割や使命感、歯科医院における患者対応のマナーや基本動作について講義する。

◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容                      | 担当者 |
|----|------|---------|----|-------------------------|-----|
| 1  |      | 5/13（火） | 3  | 1-1コミュニケーションの目的とプロセス・演習 | 川口  |
| 2  |      | 5/13（火） | 4  | 2-1表情筋トレーニング・立ち振る舞い・演習  | 川口  |
| 3  |      | 5/20（火） | 3  | 2-2敬語の種類と使い方・対応・声かけ     | 川口  |
| 4  |      | 5/20（火） | 4  | 3-1交流分析エゴグラム・クレーム対応・演習  | 川口  |
| 5  |      | 5/27（火） | 3  | 3-2歯科スタッフの説明スキル・ロールプレイ  | 川口  |
| 6  |      | 5/27（火） | 4  | 3-3コーチング・コミュニケーション・演習   | 川口  |
| 7  |      | 6/10（火） | 3  | 3-4障害を持つ被援助者とのコミュニケーション | 川口  |
| 8  |      | 6/10（火） | 4  | 4-1チーム・コミュニケーション・報連相・演習 | 川口  |
| 9  |      | 6/17（火） | 3  | その人らしさを大切にするコミュニケーション   | 川口  |
| 10 |      | 6/17（火） | 4  | ケア・コミュニケーション模擬問題1と解説    | 川口  |
| 11 |      | 7/ 8（火） | 3  | ケア・コミュニケーション模擬問題2と解説    | 川口  |
| 12 |      | 7/ 8（火） | 4  | ケア・コミュニケーション過去問題1と解説    | 川口  |
| 13 |      | 9/ 2（火） | 3  | ケア・コミュニケーション過去問題2と解説    | 川口  |
| 14 |      | 9/ 2（火） | 4  | ケア・コミュニケーション検定対策        | 川口  |
| 15 |      | 9/ 9（火） | 3  | 定期試験の範囲と解説              | 川口  |

【試験：9/19（金）

試験問題作成：川口】

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

|                |             |         |               |             |
|----------------|-------------|---------|---------------|-------------|
| <b>地域歯科保健学</b> |             | 講義      | 実施時期          | Ⅲセメスター（2学年） |
| 担当講師           | 岡本 一夫・近藤 大祐 | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |             |

◆内容

|            |                                             |
|------------|---------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 住民の健康維持に役立てるため、歯科保健に対する社会の理念やその仕組みについて習得する。 |
| 使用教本       | 「保健生態学」「公衆衛生がみえる」                           |
| 参考図書       | 歯科保健指導関係資料2015年版、歯科保健関係統計資料2015年版           |
| 評価方法・基準    | 筆記試験                                        |
| 履修上の注意     | 授業を進める上でわからない点などはその都度質問して、理解できるよう心がける       |
| 使用機材       |                                             |

○岡本 一夫

県の健康福祉センター（行政）および介護老人保健施設（介護支援専門員）等の勤務経験を活かし、地域保健、公衆衛生、組織、健康づくり対策など、住民の健康維持に役立てる歯科保健に対する社会の理念やその仕組みについて講義する。

○近藤 大祐

歯科医師会の在宅歯科・介護専門部会副部長の経験を活かし、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の立場で、地域の母子保健、学校保健、成人保健、産業保健、老人保健、精神保健、災害時の歯科保健、国際保健について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容                             | 担当者 |
|----|------|---------|----|--------------------------------|-----|
| 1  |      | 6/13（金） | 1  | Ⅲ編1章 地域保健・公衆衛生<br>地域社会と地域保健の概念 | 岡本  |
| 2  |      | 6/20（金） | 1  | 地域保健の組織                        | 岡本  |
| 3  |      | 6/27（金） | 1  | 健康づくり対策と地域歯科保健                 | 岡本  |
| 4  |      | 7/ 3（木） | 3  | 2章 母子保健                        | 近藤  |
| 5  |      | 7/10（木） | 3  | 3章 学校保健                        | 近藤  |
| 6  |      | 8/28（木） | 3  | 4章 成人保健<br>5章 産業保健             | 近藤  |
| 7  |      | 9/ 4（木） | 3  | 6章 老人（高齢者）保健                   | 近藤  |
| 8  |      | 9/11（木） | 3  | 7章 精神保健<br>8章 災害時の歯科保健、9章 国際保健 | 近藤  |
|    |      |         |    |                                |     |
|    |      |         |    |                                |     |

【試験：9/19（金）

試験問題作成：岡本・近藤】

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

|           |             |         |                |             |
|-----------|-------------|---------|----------------|-------------|
| 衛生行政・社会福祉 |             | 講義      | 実施時期           | Ⅲセメスター（2学年） |
| 担当講師      | 岡本 一夫・栗田 高典 | 実施単位・時間 | 2単位・30時間（15コマ） |             |

◆内容

|            |                                                                                                                                  |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | （岡本）医療従事者である歯科衛生士がその業務を遂行するにあたって、習得しておくべき衛生行政の仕組みや関係法律について学習する。<br>（栗田）関係法律・社会保障・社会福祉・医療保険の基礎的な知識を身につけ、歯科衛生士の業務をするうえで必要な知識を習得する。 |
| 使用教本       | 「保健・医療・福祉の制度」<br>「保健生態学」「公衆衛生がみえる」                                                                                               |
| 参考図書       |                                                                                                                                  |
| 評価方法・基準    | （岡本）筆記試験<br>（栗田）定期試験                                                                                                             |
| 履修上の注意     | 授業を進める上で解らない点などはそのつど質問して理解するよう心掛ける。                                                                                              |
| 使用機材       |                                                                                                                                  |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○岡本一夫

県の健康福祉センター（行政）および介護老人保健施設（介護支援専門員）等の勤務経験を活かし、医療従事者である歯科衛生士が、その業務を遂行するにあたって習得しておくべき衛生行政の仕組みや関係法律について講義する。

○栗田高典

介護事業所の責任者としての実務経験、介護福祉士、社会福祉士（現役）としての勤務経験、専門学校教員の経験を活かし、歯科衛生士の業務を行う上で必要な関係法律、社会保障、社会福祉、医療保険の基礎的な知識について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容                | 担当者 |
|----|------|---------|----|-------------------|-----|
| 1  |      | 4/25（金） | 1  | 1章 わが国の医療制度と歯科衛生士 | 岡本  |
| 2  |      | 5/ 2（金） | 1  | 1章 わが国の医療制度と歯科衛生士 | 岡本  |
| 3  |      | 5/ 9（金） | 1  | 1章 わが国の医療制度と歯科衛生士 | 岡本  |
| 4  |      | 5/16（金） | 1  | 2章 医療関係職種         | 岡本  |
| 5  |      | 5/23（金） | 1  | 2章 医療関係職種         | 岡本  |
| 6  |      | 5/23（金） | 2  | 3章 その他の関係法規       | 栗田  |
| 7  |      | 5/28（水） | 2  | 3章 その他の関係法規       | 栗田  |
| 8  |      | 6/ 5（木） | 2  | 3章 その他の関係法規       | 栗田  |
| 9  |      | 6/12（木） | 2  | 3章 その他の関係法規       | 栗田  |
| 10 |      | 6/19（木） | 2  | 4章 社会保障           | 栗田  |
| 11 |      | 6/26（木） | 2  | 4章 社会保障           | 栗田  |
| 12 |      | 7/11（金） | 2  | 4章 社会保障           | 栗田  |
| 13 |      | 8/27（水） | 2  | 4章 社会保障           | 栗田  |
| 14 |      | 9/ 3（水） | 2  | 5章 医療の動向          | 栗田  |
| 15 |      | 9/10（水） | 2  | 5章 医療の動向          | 栗田  |

【試験：9/17（水）】

試験問題作成：岡本・栗田】

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

|          |             |         |               |               |
|----------|-------------|---------|---------------|---------------|
| 保健情報・統計学 |             | 講義      | 実施時期          | IIIセメスター（2学年） |
| 担当講師     | 宮原 時彦・武田 成久 | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |               |

◆内容

|            |                                                                                                            |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | （宮原）科学的な根拠に基づいた医療保健が求められている現在において、統計手法の意義と検定の過程、結果を理解することで歯科衛生士として必要な思考力を養う。<br>（武田）歯科疾患の指数を理解し説明できるようにする。 |
| 使用教本       | 「保健情報統計学」                                                                                                  |
| 参考図書       | 国民衛生の動向（統計協会）                                                                                              |
| 評価方法・基準    | （宮原）出題は4択形式20問。国家試験様に出題。<br>（武田）筆記試験                                                                       |
| 履修上の注意     | （宮原）統計学では普段聞きなれない用語が多く登場します。テキストの熟読が必要です。                                                                  |
| 使用機材       | （宮原）板書中心に進めます。<br>（武田）パソコン、プロジェクター                                                                         |

・宮原時彦

大学院における公衆衛生学の研究、大学・専門学校での講師(現役)の経験を活かし、科学的根拠に基づいた医療保健、統計手法の意義と検定の過程、結果理解による歯科衛生士として必要な思考力について講義する。

○武田成久

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、齲蝕や歯周疾患などの年齢、性別、職業、個人・集団などの指数について理解し、診断・分析・評価を行うことで歯科保健指導に結びつけられるようその基礎知識について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                  | 担当者 |
|----|------|----------|----|---------------------|-----|
| 1  |      | 5/19 (月) | 2  | 疫学方法論、集団の捉え方        | 宮原  |
| 2  |      | 5/26 (月) | 2  | パラメトリックとノンパラメトリック   | 宮原  |
| 3  |      | 6/ 9 (月) | 2  | 平均値の差の検定 (t検定)      | 宮原  |
| 4  |      | 6/16 (月) | 2  | クロス集計 [X (カイ)2乗検定]  | 宮原  |
| 5  |      | 6/30 (月) | 2  | 相関 (相関係数 r と有意性の意味) | 宮原  |
| 6  |      | 8/28 (木) | 2  | 歯科疾患の指数             | 武田  |
| 7  |      | 9/ 4 (木) | 2  | 歯科疾患の指数             | 武田  |
| 8  |      | 9/11 (木) | 2  | 歯科疾患の指数             | 武田  |
|    |      |          |    |                     |     |
|    |      |          |    |                     |     |

【試験: 9/19(金)

試験問題作成: 宮原、武田】

# 臨床歯科医学

| 歯科補綴学 |             | 講義 | 実施時期    | Ⅲセメスター（2学年）    |
|-------|-------------|----|---------|----------------|
| 担当講師  | 鳥居 一也・中村 明雄 |    | 実施単位・時間 | 2単位・30時間（15コマ） |

## ◆内容

|            |                                                        |
|------------|--------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 歯科衛生士の業務と密接に関連している歯科補綴学を臨床に即した面から学び、補綴治療の基礎的な知識を身に着ける。 |
| 使用教本       | 歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」、新歯科衛生士教本「歯科補綴学」                       |
| 参考図書       |                                                        |
| 評価方法・基準    | 2回の中間試験および最終試験および授業態度（出席状況）などの総合評価                     |
| 履修上の注意     | 授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様心掛けること。                  |
| 使用機材       | スライド、参考模型等、書画カメラ                                       |

○鳥居一也  
大学・専門学校講師、歯科診療所の臨床現場(現役)での歯科医師の経験を活かし、歯科衛生士に密接に関連している歯科補綴学を臨床に即した面から補綴治療の基礎的な知識について講義する。

○中村明雄  
大学病院、歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、歯科補綴学を臨床に即した面から、クラウン、ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

## ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                            | 担当者 |
|----|------|----------|----|-------------------------------|-----|
| 1  |      | 4/ 4 (金) | 3  | I 編 基礎編① 歯科補綴治療とは             | 鳥居  |
| 2  |      | 4/11 (金) | 3  | 基礎編② 歯科補綴治療の基礎知識              | 鳥居  |
| 3  |      | 4/17 (木) | 3  | 基礎編③ 歯科補綴治療の基礎知識              | 鳥居  |
| 4  |      | 4/25 (金) | 3  | II 編 臨床編<br>1章 クラウン ①クラウンの分類  | 中村  |
| 5  |      | 5/ 9 (金) | 3  | 1章 クラウン ②臨床ステップ               | 中村  |
| 6  |      | 5/16 (金) | 3  | 1章 クラウン ③技工関係等                | 中村  |
| 7  |      | 5/23 (金) | 3  | 1章 クラウン ④<br>中間試験Ⅰ (選択・記入)    | 中村  |
| 8  |      | 5/30 (金) | 3  | II 編 2章 ブリッジ                  | 中村  |
| 9  |      | 6/13 (金) | 3  | II 編 3章 部分床義歯①                | 中村  |
| 10 |      | 6/20 (金) | 3  | 3章 部分床義歯②                     | 中村  |
| 11 |      | 6/27 (金) | 3  | 中間試験Ⅱ (選択・記入)<br>4章 全部床義歯①    | 中村  |
| 12 |      | 7/ 4 (金) | 3  | 4章 全部床義歯②                     | 中村  |
| 13 |      | 8/29 (金) | 3  | II 編 5章 器材とその管理               | 鳥居  |
| 14 |      | 9/ 5 (金) | 3  | 6章 特別名称をもつ義歯<br>7章 補綴装置の補修、除去 | 鳥居  |
| 15 |      | 9/12 (金) | 3  | 8章 機能検査、等総まとめ                 | 鳥居  |

【試験: 9/22(月)

試験問題作成: 鳥居・中村】

# 臨床歯科医学

| 口腔外科学 |                   | 講義 | 実施時期    | Ⅲセメスター（2 学年）   |
|-------|-------------------|----|---------|----------------|
| 担当講師  | 中村 康宏・宮城 和彦・福永 暁子 |    | 実施単位・時間 | 2単位・30時間（15コマ） |

## ◆内容

|            |                                                                                                                                                                                           |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 口腔外科・歯科麻酔に関する知識および診察介助を習得する。<br>①口腔外科で取り扱う患者の概要、そのような疾患を有する診察における歯科衛生士の役割<br>②口腔に原発する疾患の原因、主要症状、治療法について<br>③口腔外科診察の介助、口腔外科小手術の概要<br>④歯科治療・手術を施行する患者の全身評価、鎮静法、救急蘇生法について<br>⑤周術期等口腔機能管理について |
| 使用教本       | 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」                                                                                                                                                                         |
| 参考図書       | 歯科衛生士のための口腔外科                                                                                                                                                                             |
| 評価方法・基準    | 定期試験                                                                                                                                                                                      |
| 履修上の注意     | 口腔外科は患者の全身が対象なため、医療用語、解剖学用語など併せて学習する。                                                                                                                                                     |
| 使用機材       | パソコン、液晶プロジェクター                                                                                                                                                                            |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○中村康宏  
大学病院歯科口腔外科、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、口腔外科の患者の概要、疾患の主要症状・原因・治療法、歯科衛生士の役割について講義する。  
○宮城和彦  
大学病院歯科口腔外科、総合病院麻酔科、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、口腔外科治療の実践、歯科麻酔と患者管理、局所・全身麻酔、精神鎮静法、術前・術後のケア、器材管理などについて講義する。  
○福永暁子  
総合病院歯科での歯科医師（現役）の経験を活かし、手術、抗がん剤治療、放射線治療に關しての口腔管理について講義する。

## ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容                                             | 担当者  |
|----|------|---------|----|------------------------------------------------|------|
| 1  |      | 4/ 8（火） | 3  | I編 1章 口腔外科の概要<br>2章 先天異常と発育異常                  | 中村康宏 |
| 2  |      | 4/15（火） | 3  | I編 3章 損傷                                       | 中村康宏 |
| 3  |      | 4/22（火） | 3  | I編 4章 口腔粘膜疾患                                   | 中村康宏 |
| 4  |      | 4/28（月） | 3  | I編 5章 炎症<br>6章 嚢胞                              | 中村康宏 |
| 5  |      | 5/ 7（水） | 3  | I編 7章 腫瘍および腫瘍類似疾患<br>8章 顎関節疾患                  | 中村康宏 |
| 6  |      | 5/14（水） | 3  | I編 9章 唾液腺疾患、10章 神経系疾患<br>11章 血液疾患、12章 口腔心身症    | 中村康宏 |
| 7  |      | 5/19（月） | 3  | II編 1章 診察と診断、2章 歯科診療で問題となる全身疾患<br>3章 口腔外科手術の準備 | 中村康宏 |
| 8  |      | 5/22（木） | 1  | II編 4章 手術の基本手技<br>5章 口腔外科小手術                   | 宮城   |
| 9  |      | 5/29（木） | 1  | II編 5章 口腔外科小手術                                 | 宮城   |
| 10 |      | 6/ 5（木） | 1  | III編 1章 歯科麻酔学と患者管理<br>2章 局所麻酔                  | 宮城   |
| 11 |      | 6/12（木） | 4  | III編 3章 精神鎮静法                                  | 宮城   |
| 12 |      | 6/19（木） | 1  | III編 4章 全身麻酔                                   | 宮城   |
| 13 |      | 6/26（木） | 1  | III編 5章 緊急時の対応                                 | 宮城   |
| 14 |      | 8/25（月） | 3  | IV編 1章 周術期における口腔健康管理（総論）                       | 福永   |
| 15 |      | 8/25（月） | 4  | IV編 2章 周術期における口腔健康管理の実践（各論）                    | 福永   |

【試験：9/16（火） 試験問題作成：中村・宮城】

# 臨床歯科医学

|              |              |           |                |                    |
|--------------|--------------|-----------|----------------|--------------------|
| <b>小児歯科学</b> |              | <b>講義</b> | <b>実施時期</b>    | <b>Ⅲセメスター（2学年）</b> |
| <b>担当講師</b>  | 飯嶋 展子・富士田 早織 |           | <b>実施単位・時間</b> | 2単位・30時間（15コマ）     |

## ◆内容

|                   |                                                                                                                                           |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>授業の概要と到達目標</b> | （飯嶋）総論においては小児歯科の本質と、それを理解するための知識の習得。歯科衛生士として母親教室等において子供の健やかな顎、口腔の発育を指導できるように学ぶ。<br>各論では歯科医師と連携をとりつつ小児の口腔保健指導において主たる役割が果たせるような知識の習得を目標とする。 |
| <b>使用教本</b>       | 「小児歯科学」                                                                                                                                   |
| <b>参考図書</b>       | 歯科医院のフード・カウンセラー食環境の変化と食事指導ー東京臨床出版強い歯、いい歯は幼児期が決めて！はじめての歯磨きレッスン PHP研究所                                                                      |
| <b>評価方法・基準</b>    | 筆記試験                                                                                                                                      |
| <b>履修上の注意</b>     | 小児歯科学は歯科衛生士にとって臨床で最も必要な学問の一つである。故に講義をよく聞き、不明な点はその場で質問すること。                                                                                |
| <b>使用機材</b>       | ノート型パソコン、液晶プロジェクター                                                                                                                        |

○飯嶋展子

大学病院、歯科診療所の臨床現場での歯科医師の経験を活かし、小児歯科の本質とそれを理解するための知識、歯科衛生士としての母親教室等における子供の健やかな顎、口腔の発育を指導するための知識について講義する。

○富士田早織

大学病院、歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、小児期の特徴と歯科的問題点、診療体系の流れと対応法、障がい児治療などについて講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

## ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                    | 担当者 |
|----|------|----------|----|-----------------------|-----|
| 1  |      | 4/24 (木) | 3  | I 編 1章 小児歯科学概論        | 飯嶋  |
| 2  |      | 4/24 (木) | 4  | 2章 心身の発育              | 飯嶋  |
| 3  |      | 5/29 (木) | 3  | 3章 小児の生理的特徴           | 飯嶋  |
| 4  |      | 5/29 (木) | 4  | 4章 顔面頭蓋の発育            | 飯嶋  |
| 5  |      | 6/19 (木) | 3  | 5章 歯の発育とその異常          | 飯嶋  |
| 6  |      | 6/19 (木) | 4  | 6章 歯列・咬合の発育と異常        | 飯嶋  |
| 7  |      | 7/ 3 (木) | 3  | 7章 小児の歯科疾患            | 飯嶋  |
| 8  |      | 7/ 3 (木) | 4  | 8章 小児虐待               | 飯嶋  |
| 9  |      | 7/ 8 (火) | 1  | II 編 1章 小児期の特徴と歯科的問題点 | 富士田 |
| 10 |      | 7/ 8 (火) | 2  | 2章 小児期における患者との対応法     | 富士田 |
| 11 |      | 8/26 (火) | 1  | 3章 小児期における診療体系        | 富士田 |
| 12 |      | 8/26 (火) | 2  | 4章 障害児の歯科治療           | 富士田 |
| 13 |      | 9/ 2 (火) | 1  | 5章 う蝕予防               | 富士田 |
| 14 |      | 9/ 2 (火) | 2  | 6章 小児の口腔健康管理          | 富士田 |
| 15 |      | 9/ 9 (火) | 2  | 7章 歯科診療室と器材の管理        | 富士田 |

【試験: 9/17(水)

試験問題作成: 飯嶋・富士田】

# 臨床歯科医学

|              |           |         |                |
|--------------|-----------|---------|----------------|
| <b>歯科矯正学</b> | 講義        | 実施時期    | Ⅲセメスター（2学年）    |
| 担当講師         | 喜多勇治・神谷貴志 | 実施単位・時間 | 2単位・30時間（15コマ） |

## ◆内容

|            |                                                                                                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 歯科矯正の治療は、近年専門医から一般歯科医院でも行われるようになってきた。歯科衛生士にとって日常の臨床でも必要とされる知識になりつつある。<br>・歯科衛生士国家試験に合格するための学力を向上させること<br>・臨床におけるアシスタント業務に必要な知識・テクニックを習得する<br>以上の2点を目的に講義を行う |
| 使用教本       | 「歯科矯正学 第2版」                                                                                                                                                 |
| 参考図書       |                                                                                                                                                             |
| 評価方法・基準    | 定期試験、授業態度、レポート<br>以上により矯正臨床に必要な学力・テクニックが習得されているを評価                                                                                                          |
| 履修上の注意     | 国家試験に合格するための基礎的な知識、アシスタントに必要な知識と学力・技術（セファロ分析と器具の名称と使用法）は重点的に行う。                                                                                             |
| 使用機材       |                                                                                                                                                             |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○喜多勇治  
歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、矯正歯科治療の概要、成長発育、正常咬合と不正咬合など、臨床での歯科衛生士業務に必要な知識とテクニックについて講義する。  
○神谷貴志  
大学病院、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、矯正歯科診断、矯正装置、小児の早期治療、成人矯正治療、顎変形症、矯正治療中の口腔衛生管理、口腔筋機能療法、歯科衛生士業務などについて講義する。

## ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容                        | 担当者 |
|----|------|---------|----|---------------------------|-----|
| 1  |      | 4/ 8（火） | 2  | I編 第1章 歯科矯正学概論            | 喜多  |
| 2  |      | 4/18（金） | 2  | 第2章 成長発育                  | 喜多  |
| 3  |      | 4/22（火） | 2  | 第2章 成長発育                  | 喜多  |
| 4  |      | 5/13（火） | 2  | 第3章 咬合                    | 喜多  |
| 5  |      | 5/20（火） | 2  | 第3章 咬合                    | 喜多  |
| 6  |      | 5/21（水） | 3  | 第4章 検査と診断                 | 神谷  |
| 7  |      | 5/28（水） | 3  | 第5章 矯正歯科治療における生体力学と生体反応   | 神谷  |
| 8  |      | 6/ 9（月） | 3  | 第6章 矯正歯科治療と装置             | 神谷  |
| 9  |      | 6/11（水） | 3  | 第7章 矯正歯科治療の実際             | 神谷  |
| 10 |      | 6/18（水） | 3  | 第8章 矯正歯科治療に伴うリスクとその対応     | 神谷  |
| 11 |      | 7/ 2（水） | 3  | Ⅱ編 第1章 矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順 | 神谷  |
| 12 |      | 7/ 9（水） | 3  | 第1章 矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順    | 神谷  |
| 13 |      | 8/27（水） | 3  | 第2章 口腔筋機能療法（MFT）          | 神谷  |
| 14 |      | 9/ 3（水） | 3  | 第3章 矯正歯科患者と口腔保健管理と指導      | 神谷  |
| 15 |      | 9/10（水） | 3  | 第4章 矯正歯科治療に関わる歯科衛生の実践     | 神谷  |

【試験：9/16（火）

試験問題作成：神谷】

## 臨床歯科医学

| 高齢者歯科 |                 | 講義 | 実施時期    | IVセメスター（2学年）  |
|-------|-----------------|----|---------|---------------|
| 担当講師  | 相澤秀夫・奥山恵理子・森田一彦 |    | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |

### ◆内容

|            |                                                                                                                                                                                                                  |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | （相澤秀夫）超高齢社会において必要とされる歯科衛生士はどのような存在であるのか？このシンプルで奥深いテーマをテキストを基に講義致します。食生活、飲むことの基本から始まり、これらが障害されたときのリハビリテーションについて、歯科衛生士がどうかかわるかを学ぶ。<br>（森田一彦）高齢者の特徴を知ることによって歯科衛生が高齢者への接し方および口腔との関わり方を学び、多職種と連携しながら保健指導や歯科診療補助の方法を学ぶ |
| 使用教本       | 「高齢者歯科学」                                                                                                                                                                                                         |
| 参考図書       | 歯科衛生講座 高齢者歯科学（永末書店）嚥下障害ポケットマニュアル、老年医学テキスト、老年歯科、アトラス歯周病の細菌学、口から食べたい口腔介護Q&A、在宅医療テキスト、老年歯科医学（医歯薬出版）、老年歯科医学用語辞典（医歯薬出版）、高齢者歯科ガイドブック（医歯薬出版）、認知症ケアのコツがわかる本（Gakken）                                                      |
| 評価方法・基準    | 疑問点は質問して理解しておくこと、定期試験、授業態度、（出席状況など）の総合評価                                                                                                                                                                         |
| 履修上の注意     | （相澤秀夫）教本「高齢者歯科」I編～V編に関し講義します。<br>（森田一彦）歯科専門知識のみならず、介護、看護、保健知識などの幅広い知識や情報に心がける。教本V編～VI編に関して講義します。                                                                                                                 |
| 使用機材       | 液晶プロジェクター、ノート型パソコン、レーザーポインター                                                                                                                                                                                     |

○相澤秀夫

市と歯科医師会協力の在宅歯科治療、地域多職種連携、地域包括ケアシステム構築の活動。大学病院、総合病院、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションの歯科衛生士の役割について講義する。

○奥山恵理子

精神科医療機関及びデイケア施設のソーシャルワーカーの経験、および行政、病院、施設での主任介護支援専門員（現役）、精神保健福祉士（現役）、認知症介護指導者（現役）、高齢者支援に関する人材育成教育講師、大学非常勤講師などの経験を活かし、加齢による身体的・精神的変化と疾患と、その予防・対応などについて講義する。

○森田一彦

日本老年歯科医学会専門医・指導医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、市・歯科医師会での在宅療養者訪問歯科推進活動、元介護保険認定審査、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、高齢者の特徴、接し方、口腔との関わり方、医療と介護、歯科衛生過程について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

### ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                            | 担当者 |
|----|------|----------|----|-------------------------------|-----|
| 1  |      | 10/ 9（木） | 3  | 加齢による身体的・精神的変化と疾患             | 奥山  |
| 2  |      | 10/16（木） | 3  | 高齢者を取り巻く社会と環境                 | 相澤  |
| 3  |      | 10/16（木） | 4  | 高齢者の状態の把握                     | 相澤  |
| 4  |      | 10/30（木） | 3  | 高齢者・有病者・要介護者への口腔ケア            | 相澤  |
| 5  |      | 11/ 6（木） | 3  | 高齢者の摂食・嚥下リハビリテーション            | 相澤  |
| 6  |      | 11/13（木） | 3  | 高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションの歯科衛生士のかかわり | 相澤  |
| 7  |      | 1/22（木）  | 1  | 高齢者にかかわる医療と介護                 | 森田  |
| 8  |      | 1/29（木）  | 1  | 高齢者における歯科衛生士過程                | 森田  |
|    |      |          |    |                               |     |
|    |      |          |    |                               |     |

【試験：2/26（木）

試験問題作成：相澤秀夫】

## 臨床歯科医学

|              |          |    |         |               |
|--------------|----------|----|---------|---------------|
| <b>障害者歯科</b> |          | 講義 | 実施時期    | IVセメスター（2学年）  |
| 担当講師         | 鈴木一・村上祐介 |    | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |

### ◆内容

|            |                                                                  |
|------------|------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 医療、福祉両面から、歯科衛生士として現場で働く際必要な障害者歯科医療の知識の習得                         |
| 使用教本       | 「障害者歯科」                                                          |
| 参考図書       | 「スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科」「スペシャルニーズデンティストリーハンドブック」「ライフステージを考えた口腔ケア」 |
| 評価方法・基準    | 筆記試験                                                             |
| 履修上の注意     | 障害を持った人の社会とかかわりを常に意識した態度を望む。                                     |
| 使用機材       | パソコン、液晶プロジェクター                                                   |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○鈴木 一

特別支援学校医、障がい者施設医、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、障がいの概念、歯科医療で特別な支援が必要な疾患、障がい者の歯科医療と行動調整など障がい者歯科医療の知識について講義する。

○村上祐介

特別支援学校医、障がい者施設医、歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、障がい者の健康支援と口腔衛生管理、リスク評価と安全管理、摂食・嚥下リハビリテーション、歯科衛生過程など障がい者歯科医療の知識について講義する。

### ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                                   | 担当者 |
|----|------|----------|----|--------------------------------------|-----|
| 1  |      | 10/ 9（木） | 4  | 1章 障害の概念                             | 鈴木一 |
| 2  |      | 10/30（木） | 4  | 2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患                  | 鈴木一 |
| 3  |      | 11/ 6（木） | 4  | 〃                                    | 鈴木一 |
| 4  |      | 11/13（木） | 4  | 3章 障害者の歯科医療と行動調整                     | 鈴木一 |
| 5  |      | 12/ 4（木） | 4  | 4章 健康支援と口腔衛生管理                       | 村上  |
| 6  |      | 12/11（木） | 4  | 5章 リスク評価と安全管理                        | 村上  |
| 7  |      | 12/18（木） | 4  | 6章 摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割           | 村上  |
| 8  |      | 1/ 8（木）  | 4  | 7章 地域における障害者歯科<br>8章 障害者歯科における歯科衛生過程 | 村上  |
|    |      |          |    |                                      |     |
|    |      |          |    |                                      |     |

【試験：2/25（水） 試験問題作成：鈴木一】

# 歯科予防処置論

|                  |             |         |                |              |
|------------------|-------------|---------|----------------|--------------|
| <b>歯科予防処置論 2</b> |             | 実習      | 実施時期           | ⅢⅣセメスター（2学年） |
| 担当講師             | 匂坂存宏、専任教員 他 | 実施単位・時間 | 2単位・80時間（40コマ） |              |

## ◆内容

|            |                                                                                          |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 対象者に応じた歯科予防処置についての知識・技術を深め、臨床の場において実践できる能力を養う。                                           |
| 使用教本       | 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、「歯周病学 第2版」、<br>「歯科衛生士のための齲蝕予防処置論法」                                     |
| 参考図書       | NPO法人日本むし歯歯科予防フッ素推進会誌「日本におけるフッ化物製剤」<br>大石祐子著「歯科衛生士のためのステップアップ！歯周治療―初心からメンテナンスまで」         |
| 評価方法・基準    | 実技試験および技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に評価し判断する。                             |
| 履修上の注意     | 授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様心掛ける。<br>準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については掲示物を参照し忘れ物のないようする。 |
| 使用機材       | 液晶プロジェクター、ノート型パソコン、書画カメラ                                                                 |

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○匂坂 存宏

専任教員多数

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験(匂坂)と歯科衛生士の経験および本校教員(現役)の経験を活かし、対象者に応じた歯科予防処置についての知識・技術を深め、さらに相互実習を通じて高め、臨床の現場において実践できる能力を習得できるよう指導する。

## ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 内容                                    |
|----|------|---------------------------------------|
| 1  |      | 超音波スケーラー・エアスケーラー                      |
| 2  |      |                                       |
| 3  |      |                                       |
| 4  |      | キュレット<br>講義、基礎訓練、マニキン実習<br>マニキン実技チェック |
| 5  |      |                                       |
| 6  |      |                                       |
| 7  |      |                                       |
| 8  |      |                                       |
| 9  |      |                                       |
| 10 |      | キュレット シャープニング                         |
| 11 |      |                                       |
| 12 |      | キュレット<br>相互実習                         |
| 13 |      |                                       |
| 14 |      |                                       |
| 15 |      | 患者実習 口腔内診査復習実習                        |
| 16 |      |                                       |
| 17 |      | 患者実習 口腔内診査・検査（1年生）                    |
| 18 |      | 患者実習 アセスメント診断                         |
| 19 |      | 患者実習 介入1のための相互実習                      |
| 20 |      | 患者実習 介入1 スケーリング・歯面研磨（1年生）             |
| 21 |      | 患者実習 介入1 振返り                          |
| 22 |      | 患者実習 介入2 経過観察（1年生）                    |

| 回数 | 出欠記録 | 内容                   |
|----|------|----------------------|
| 23 |      | 患者実習 介入2 振返り         |
| 24 |      | 患者実習 歯科衛生介入実習        |
| 25 |      |                      |
| 26 |      |                      |
| 27 |      | 感染事故防止実習：勾坂          |
| 28 |      | フッ化ジアンミン銀・シーラント      |
| 29 |      |                      |
| 30 |      | フッ化物の応用 基礎知識・塗布法・毒性  |
| 31 |      | フッ化物の応用 綿球に含まれる量     |
| 32 |      | フッ化物の応用 綿球法 相互実習     |
| 33 |      |                      |
| 34 |      | フッ化物の応用 トレー法 相互実習    |
| 35 |      |                      |
| 36 |      | フッ化物の応用 歯ブラシゲル法 相互実習 |
| 37 |      |                      |
| 38 |      | フッ化物の応用 洗口法 まとめ      |
| 39 |      | 酸蝕症                  |
| 40 |      | 歯面清掃器                |

※順番は前後することがあります

## 歯科予防処置論

| 医療安全 |                | 講義      | 実施時期          | IVセメスター（2学年） |
|------|----------------|---------|---------------|--------------|
| 担当講師 | 吉野篤人・内山佳之・葛原健太 | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |              |

### ◆内容

|            |                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | （葛原）1、感染予防に必要な理論や基本的知識を理解し、根拠に基づいた感染予防技術が実践できる。<br>2、職業感染予防行動の必要性和、曝露発生時の対応方法が理解できる。<br>3、職業感染ウイルスの特徴と、ワクチン接種の必要性が理解できる。<br>4、器材の洗浄・消毒・滅菌の概念と重要性が理解ができ、適切に実践できる。<br>5、ファシリティー・マネージメントの概念が理解でき、安全な治療環境が提供できる。<br>（吉野・内山）基本的心肺蘇生法を学ぶ。災害医療について知る。 |
| 使用教本       | （葛原）講師の作成した配布資料                                                                                                                                                                                                                                |
| 参考図書       | （葛原）「ねころんで読めるCDCガイドライン」「もっとねころんで読めるCDCガイドライン」「感染制御の授業30日間基本マスター」「医療現場における隔離予防のためのCDCガイドライン」「HBV HCV HIV の職業上曝露への対応と曝露予防のためのCDCガイドライン」「歯科医療における感染管理のためのCDC ガイドライン」<br>（吉野・内山）救急蘇生法の指針 2020 日本救急医療財団 へるす出版、BLSプロバイダーマニュアルAHAガイドライン2015準拠         |
| 評価方法・基準    | 授業態度及び学科試験                                                                                                                                                                                                                                     |
| 履修上の注意     |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 使用機材       | PC・プロジェクター・レーザーポインター 実習器具<br>ブラックライト・携行クリーム・滅菌ガウン・滅菌手袋                                                                                                                                                                                         |

#### ○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

- 葛原健太  
総合病院の臨床現場での感染管理認定看護師(現役)の経験を活かし、感染予防に必要な理論・基本的知識・予防技術、職業感染予防の必要性和対応方法、ウイルスの特徴とワクチン接種の必要性、器材管理の重要性、ファシリティー・マネージメントの概念について講義する。
- 吉野篤人  
大学病院・総合病院の臨床現場での医師(現役)の経験を活かし、救急医療の現場と実際、災害医療について講義する。
- 内山佳之  
大学病院・総合病院の臨床現場での医師(現役)の経験を活かし、救命救急医療の基本と実際、基本的な心肺蘇生について講義する。

### ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付        | 時限 | 内容                             | 担当者 |
|----|------|-----------|----|--------------------------------|-----|
| 1  |      | 10/ 7 (火) | 1  | 標準予防対策・咳エチケット・手指衛生の実習          | 葛原  |
| 2  |      | 10/ 7 (火) | 2  | 感染経路別予防策・適切な防護具の使い方・実習         | 葛原  |
| 3  |      | 10/14 (火) | 1  | 職業感染ウイルスの特徴と対策<br>ワクチン接種について   | 葛原  |
| 4  |      | 10/14 (火) | 2  | 器材の洗浄・消毒・滅菌について<br>ガウンテクニックの実習 | 葛原  |
| 5  |      | 10/15 (水) | 1  | 救命救急医療の現場と実際                   | 吉野  |
| 6  |      | 10/15 (水) | 2  | 災害医療について                       | 吉野  |
| 7  |      | 10/28 (火) | 1  | 救命救急医療の基本と実技                   | 内山  |
| 8  |      | 10/28 (火) | 2  | 〃                              | 内山  |
|    |      |           |    |                                |     |
|    |      |           |    |                                |     |

【試験：11/26(水) 試験問題作成：葛原・内山】

# 歯科予防処置論

|              |             |         |               |              |
|--------------|-------------|---------|---------------|--------------|
| <b>齲蝕予防法</b> |             | 講義      | 実施時期          | IVセメスター（2学年） |
| 担当講師         | 大石 雄一・宮城 和彦 | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |              |

## ◆内容

|            |                             |
|------------|-----------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 齲蝕に対する予防法の考え方と実際を学ぶ         |
| 使用教本       | 「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法」          |
| 参考図書       | 「保健生態学」                     |
| 評価方法・基準    | 定期試験、授業態度（出席状況）などの総合評価      |
| 履修上の注意     | 授業中の私語は他人の迷惑になりますので慎んでください。 |
| 使用機材       | パソコン、液晶プロジェクター、等            |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○大石雄一

研究所での研究活動と、歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、歯と唾液の知識、齲蝕の知識、フッ化物の応用について講義する。

○宮城和彦

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、齲蝕活動性試験、齲蝕予防処置法のアウトライン及び実際と集団応用について講義する。

## ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容             | 担当者 |
|----|------|----------|----|----------------|-----|
| 1  |      | 10/16（木） | 1  | う齲蝕予防法序説       | 大石  |
| 2  |      | 10/16（木） | 2  | う蝕の知識          | 大石  |
| 3  |      | 11/ 6（木） | 1  | フッ化物の応用        | 大石  |
| 4  |      | 11/ 6（木） | 2  | 歯と唾液の知識        | 大石  |
| 5  |      | 12/ 4（木） | 1  | う蝕活動性試験        | 宮城  |
| 6  |      | 12/18（木） | 1  | う蝕予防処置法のアウトライン | 宮城  |
| 7  |      | 12/18（木） | 2  | う蝕予防処置法の実際     | 宮城  |
| 8  |      | 12/25（木） | 2  | う蝕予防処置法の集団応用   | 宮城  |
|    |      |          |    |                |     |
|    |      |          |    |                |     |

【試験：2/24(火)

試験問題作成： 宮城 】

## 歯科保健指導論

|                  |                   |                |                 |                     |
|------------------|-------------------|----------------|-----------------|---------------------|
| <b>歯科保健指導論 2</b> |                   | <b>実習</b>      | <b>実施時期</b>     | <b>ⅢⅣセメスター（2学年）</b> |
| <b>担当講師</b>      | 鈴木隆之、小粥江利子、専任教員 他 | <b>実施単位・時間</b> | 3単位・120時間（60コマ） |                     |

### ◆内容

|            |                                                                                                                          |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | ライフステージ毎に個人および集団に対して、専門的な立場から歯科保健指導・教育の支援ができる能力を養う。                                                                      |
| 使用教本       | 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、「高齢者歯科」                                                                                                |
| 参考図書       | 「歯科医療倫理」医歯薬出版社 金澤紀子・末高武彦編集                                                                                               |
| 評価方法・基準    | 技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に判断し評価する。                                                                    |
| 履修上の注意     | 授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様心掛ける。専門知識のみにとらわれず、普段より幅広い知識や情報の収集を心掛ける。準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については、掲示物を参照し忘れ物のないようにする。 |
| 使用機材       |                                                                                                                          |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

◎鈴木 隆之  
小粥江利子  
専任教員多数  
歯学部附属の臨床現場での歯科医師(現役)の経験(鈴木)、高齢者施設の臨床現場での歯科衛生士の経験(小粥)、歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士の経験と本校教員(現役)の経験を活かし、歯科保健指導および健康教育を行うために必要な基礎的知識・技術を指導し、口腔および歯周組織の健康において、専門的立場より支援できる能力が習得できるよう務める。

### ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 内容                             |
|----|------|--------------------------------|
| 1  |      | 地域歯科保健活動における健康教育               |
| 2  |      | 健康教育実習の概要                      |
| 3  |      | 健康教育実習<br>班内計画・シナリオ・媒体作成       |
| 4  |      |                                |
| 5  |      |                                |
| 6  |      |                                |
| 7  |      | 健康教育実習<br>合わせ練習専任チェック（小学校・幼稚園） |
| 8  |      |                                |
| 9  |      | 健康教育実習 班内練習・媒体作製               |
| 10 |      |                                |
| 11 |      | 健康教育実習 班内練習                    |
| 12 |      | 健康教育実習 班内練習・ロールプレイ準備           |
| 13 |      | 健康教育実習<br>ロールプレイ1（小学校）         |
| 14 |      |                                |
| 15 |      | 健康教育実習 班内練習                    |
| 16 |      | 健康教育実習 班内練習・ロールプレイ準備           |
| 17 |      | 健康教育実習<br>ロールプレイ2（幼稚園）         |
| 18 |      |                                |
| 19 |      | 健康教育実習 班内練習                    |
| 20 |      |                                |
| 21 |      | 健康教育実習 班内練習専任チェック（小学校）         |
| 22 |      | 健康教育実習 班内練習                    |

| 回数 | 出欠記録 | 内容                                                 |
|----|------|----------------------------------------------------|
| 23 |      | 健康教育実習 ロールプレイ準備・班内練習                               |
| 24 |      | 健康教育実習 ロールプレイ3（小学校）                                |
| 25 |      | 健康教育実習 班内練習                                        |
| 26 |      |                                                    |
| 27 |      | 健康教育実習 最終確認（小学校）                                   |
| 28 |      | 健康教育実習 班内練習                                        |
| 29 |      | 健康教育実習 専任チェック（幼稚園）                                 |
| 30 |      | 健康教育実習 ロールプレイ準備・班内練習                               |
| 31 |      | 健康教育実習 ロールプレイ4（幼稚園）                                |
| 32 |      | 歯科衛生教育活動 振り返り、まとめ                                  |
| 33 |      | 患者実習 問診の取り方                                        |
| 34 |      | 患者実習 問診・PCR（1年生）                                   |
| 35 |      | 患者実習 実習の流れ                                         |
| 36 |      | 患者実習（学）講話の計画・資料作成                                  |
| 37 |      | 患者実習（学）講話ロールプレイ実習                                  |
| 38 |      |                                                    |
| 39 |      | 患者実習（学）TBI・資料作成                                    |
| 40 |      | 患者実習（学）TBIロールプレイ実習                                 |
| 41 |      | 患者実習（学）TBIロールプレイ                                   |
| 42 |      | 患者実習（患）問診アセスメントについて                                |
| 43 |      | 患者実習（患）講話ロールプレイ                                    |
| 44 |      |                                                    |
| 45 |      | 患者実習（患）TBIロールプレイ                                   |
| 46 |      |                                                    |
| 47 |      | 患者実習 手技の確認 相互実習                                    |
| 48 |      |                                                    |
| 49 |      | 患者実習 書面化・歯科衛生過程まとめ                                 |
| 50 |      | 高齢者の口腔機能向上と口腔ケア：鈴木<br>高齢者とそのとりまく環境                 |
| 51 |      |                                                    |
| 52 |      | 高齢者の口腔機能向上と口腔ケア：小粥<br>健康の維持自立のための工夫<br>口腔機能向上プログラム |
| 53 |      |                                                    |
| 54 |      | 高齢者の口腔機能向上と口腔ケア：小粥<br>地域支援事業<br>居宅訪問アセスメントの実際      |
| 55 |      |                                                    |
| 56 |      | 高齢者の口腔機能向上と口腔ケア：小粥<br>居宅・施設での歯科保健指導の基本手技           |
| 57 |      |                                                    |
| 58 |      | 高齢者の口腔機能向上と口腔ケア：小粥<br>食事支援                         |
| 59 |      |                                                    |
| 60 |      | 障害・障がい者の理解・口腔ケア                                    |

※順番は前後することがあります

# 歯科保健指導論

|             |       |    |         |                |
|-------------|-------|----|---------|----------------|
| <b>栄養指導</b> |       | 講義 | 実施時期    | Ⅲセメスター（2学年）    |
| 担当講師        | 石津 貴恵 |    | 実施単位・時間 | 2単位・30時間（15コマ） |

## ◆内容

|            |                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 公衆衛生学・口腔衛生学・歯科保健指導と重複している箇所も多い授業になるので復習しながら学習をすすめる。 |
| 使用教本       | 「人体の構造と機能Ⅱ 栄養と代謝」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」                  |
| 参考図書       |                                                     |
| 評価方法・基準    | 定期試験・授業態度（積極性・発表）などの総合評価                            |
| 履修上の注意     | 不明な点はそのままにせず積極的に自ら進んで学習して下さい。                       |
| 使用機材       | パソコン・液晶プロジェクター                                      |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○石津貴恵

薬局での管理栄養士としての栄養指導等の実務と、歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士（現役）の経験を活かし、ビタミン・ミネラルの栄養学的意味、代用甘味料、国民の健康と栄養、望ましい食生活、ライフステージ別の栄養と調理、咀嚼の重要性など、歯科衛生士として保健指導に必要な知識について講義する。

## ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容               | 担当者 |
|----|------|---------|----|------------------|-----|
| 1  |      | 4/ 7（月） | 2  | ビタミンの栄養学的意味      | 石津  |
| 2  |      | 4/14（月） | 2  | 〃                | 石津  |
| 3  |      | 4/21（月） | 2  | ミネラルの栄養学的意味      | 石津  |
| 4  |      | 4/28（月） | 2  | 〃                | 石津  |
| 5  |      | 5/ 7（水） | 2  | 代用甘味料            | 石津  |
| 6  |      | 5/12（月） | 2  | 国民の健康と栄養の現状      | 石津  |
| 7  |      | 5/19（月） | 1  | 望ましい食生活          | 石津  |
| 8  |      | 5/28（水） | 1  | 〃（食事バランスガイド）     | 石津  |
| 9  |      | 6/ 9（月） | 1  | 〃（特別用途食品）（食育基本法） | 石津  |
| 10 |      | 6/11（水） | 2  | ライフステージ別の栄養と調理   | 石津  |
| 11 |      | 6/30（月） | 1  | 〃                | 石津  |
| 12 |      | 7/ 3（木） | 2  | 〃                | 石津  |
| 13 |      | 8/25（月） | 2  | 〃                | 石津  |
| 14 |      | 9/ 1（月） | 2  | 〃                | 石津  |
| 15 |      | 9/10（水） | 1  | 食べ物と健康           | 石津  |

【試験：9/18(木) 試験問題作成：石津】

## 歯科診療補助論

| 歯科診療補助論 2 |        | 実習 | 実施時期    | ⅢⅣセメスター（2学年）   |
|-----------|--------|----|---------|----------------|
| 担当講師      | 専任教員 他 |    | 実施単位・時間 | 2単位・80時間（40コマ） |

### ◆内容

|            |                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 歯科診療補助の知識・技術を深め、臨床の場においてチーム医療の一員として実践できる能力を養う。                                          |
| 使用教本       | 「歯科診療補助論」「歯科材料」、「歯科機器」「保存修復・歯内療法」                                                       |
| 参考図書       | DHS 歯学教育スクール「国試の麗人Ⅱ」、「主要三科キーワードチェック」、「感染予防スタンダード」                                       |
| 評価方法・基準    | 技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲など総合的に判断し評価する。                                   |
| 履修上の注意     | 授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様心掛ける。 準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については、掲示物を参照し忘れ物のないようにする。 |
| 使用機材       | 液晶プロジェクター、ノート型パソコン、書画カメラなど                                                              |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○村岡、徳永  
専任教員多数  
大学病院歯科口腔外科の臨床現場での歯科医師（現役）の経験（真岡、徳永）、歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士の経験と本校教員（現役）の経験を活かし、歯科診療に対する理解を深め、技術を磨くとともに、その心づかいが習得できるよう指導する。

### ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 内容                        |
|----|------|---------------------------|
| 1  |      | 口腔内写真                     |
| 2  |      |                           |
| 3  |      |                           |
| 4  |      |                           |
| 5  |      | 口内法エックス線撮影実習              |
| 6  |      |                           |
| 7  |      | パノラマエックス線撮影実習             |
| 8  |      |                           |
| 9  |      | 共同動作                      |
| 10 |      |                           |
| 11 |      | 音波歯ブラシ                    |
| 12 |      | ラバーダム防湿<br>講義・マニキン実習・相互実習 |
| 13 |      |                           |
| 14 |      |                           |
| 15 |      |                           |
| 16 |      | 器具の口頭試問                   |
| 17 |      |                           |
| 18 |      | 診療の流れ・レポートの書き方            |
| 19 |      |                           |
| 20 |      | ゴム質印象材・歯肉圧排               |
| 21 |      |                           |
| 22 |      |                           |

| 回数 | 出欠記録 | 内容                          |
|----|------|-----------------------------|
| 23 |      | ゴム質印象材・歯肉圧排                 |
| 24 |      | 合着材復習実習                     |
| 25 |      |                             |
| 26 |      | 歯周パック                       |
| 27 |      | 印象材（マニキン）復習実習               |
| 28 |      |                             |
| 29 |      | 印象材 全顎印象相互実習                |
| 30 |      |                             |
| 31 |      | 臨床実習前実習                     |
| 32 |      |                             |
| 33 |      | 仮封材 講義・実習                   |
| 34 |      |                             |
| 35 |      |                             |
| 36 |      | 暫間被覆冠、仮着材<br>講義・作成実習・除去・まとめ |
| 37 |      |                             |
| 38 |      | トレーセッティング 治療の流れの理解          |
| 39 |      |                             |
| 40 |      |                             |

※順番は前後することがあります

# 歯科診療補助論

|           |       |    |         |               |
|-----------|-------|----|---------|---------------|
| 歯科器械の取り扱い |       | 講義 | 実施時期    | IVセメスター（2学年）  |
| 担当講師      | 鈴木 慶太 |    | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |

## ◆内容

|            |                                                                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 歯科診療における初診から終了までの治療ステップは、患者が抱える歯科疾患やその罹患状況、さらには患者の全身状態でも異なる。ここでは臨床から見た専門知識を認識するとともに、今まで学んだ臨床科目を治療のステップとして一つの流れとして繋いでいく。その中で必要となる器具・材料・器械について臨床に即した面から学び、歯科衛生士の業務を行う上での知識を身に付ける。 |
| 使用教本       | 「歯科機器」「歯科材料」「保存修復・歯内療法」「歯科補綴」「歯周病学」「新人歯科衛生士・デンタルスタッフポケットマニュアル」「臨床実習マニュアル」など                                                                                                     |
| 参考図書       |                                                                                                                                                                                 |
| 評価方法・基準    | 定期試験                                                                                                                                                                            |
| 履修上の注意     | 講義で学んだことと、臨床実習で見学、実習している実際の治療と照らし合わせて繋いでいくこと。                                                                                                                                   |
| 使用機材       | パソコン、プロジェクター、書画カメラ                                                                                                                                                              |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○鈴木慶太

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、臨床現場から見た保存修復、歯内療法、歯科補綴、歯周疾患治療の患者により異なる初診から終了までの治療ステップの状況に合わせて必要となる器具・材料・器械について講義する。

## ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付        | 時限 | 内容                | 担当者 |
|----|------|-----------|----|-------------------|-----|
| 1  |      | 10/ 2 (木) | 1  | カルテに使われる歯科用語      | 鈴木慶 |
| 2  |      | 10/ 2 (木) | 2  | 診療の流れ             | 鈴木慶 |
| 3  |      | 10/ 9 (木) | 1  | 臨床現場から見た保存修復・歯内療法 | 鈴木慶 |
| 4  |      | 10/ 9 (木) | 2  | 〃                 | 鈴木慶 |
| 5  |      | 11/13 (木) | 1  | 臨床現場から見た歯内療法・歯科補綴 | 鈴木慶 |
| 6  |      | 11/13 (木) | 2  | 臨床現場から見た歯科補綴      | 鈴木慶 |
| 7  |      | 11/20 (木) | 1  | 臨床現場から見た歯周疾患治療    | 鈴木慶 |
| 8  |      | 11/20 (木) | 2  | 国家試験問題を解き臨床確認     | 鈴木慶 |
|    |      |           |    |                   |     |
|    |      |           |    |                   |     |

【試験：2/25(水) 試験問題作成：鈴木】

歯科診療補助論

| 歯科放射線学 |           | 講義 | 実施時期    | Ⅲセメスター（2学年）   |
|--------|-----------|----|---------|---------------|
| 担当講師   | 村岡宏隆・徳永悟士 |    | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |

◆内容

|            |                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 放射線は歯科臨床において欠かすことのできない一分野であり画像機器の進歩に伴い診断における画像検査の占める割合が増えつつある。しかしながら放射線は放射線障害という問題をかかえているために放射線の利益および害を理解し、人体における放射線の生物学的影響や防護が重要となっている。これをふまえて将来歯科衛生士になるにあたり、自身の役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱えるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。 |
| 使用教本       | 歯科衛生士講座/歯科放射線学 金田隆、奥村泰彦、村上秀明編著 永末書店                                                                                                                                                                                 |
| 参考図書       | Q&Aで学ぶ歯科放射線学・SB0s講義 金田隆編 学建書院                                                                                                                                                                                       |
| 評価方法・基準    | 講義への出席状況・授業態度（10%）と定期試験（90%）にて評価する。                                                                                                                                                                                 |
| 履修上の注意     | 歯科医師の実務経験を活かして歯科臨床におけるエックス線検査の重要性を教授する。エックス線検査は有益な情報をもたらすと同時に被爆という問題も抱えている。それらの利点・欠点を十分に理解し、放射線学の意義を学ぶこと。                                                                                                           |
| 使用機材       | 書画カメラ、ノートパソコン、プロジェクター                                                                                                                                                                                               |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○村岡宏隆

大学病院放射線科での臨床現場の歯科医師（現役）経験を活かし口外法エックス線検査、CT、MRIについて講義する。

○徳永悟士

大学病院放射線科での臨床現場での歯科医師（現役）経験を活かし放射線の生物学的作用、放射線防護、口内法エックス線検査について講義する。

◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容                    | 担当者 |
|----|------|---------|----|-----------------------|-----|
| 1  |      | 6/16（月） | 3  | エックス線検査の意義            | 徳永  |
| 2  |      | 6/16（月） | 4  | エックス線の発生と歯科用エックス線装置   | 徳永  |
| 3  |      | 6/30（月） | 3  | 放射線の生物学的作用、放射線防護の基本概念 | 徳永  |
| 4  |      | 6/30（月） | 4  | 現像、デジタル処理、口内法エックス線検査  | 徳永  |
| 5  |      | 7/ 7（月） | 3  | 口外法エックス線検査、パノラマX線検査   | 村岡  |
| 6  |      | 7/ 7（月） | 4  | CT, MRI               | 村岡  |
| 7  |      | 9/ 8（月） | 3  | 超音波検査、核医学検査、放射線治療     | 徳永  |
| 8  |      | 9/ 8（月） | 4  | 歯・歯周組織疾患および嚢胞・腫瘍の画像診断 | 徳永  |
| 9  |      |         |    | デンタル撮影実習 7/25（金）①②    | 村岡  |
| 10 |      |         |    | デンタル撮影実習 7/25（金）③④    | 徳永  |
| 11 |      |         |    | パノラマ撮影実習 8/22（金）①②    | 村岡  |
| 12 |      |         |    | パノラマ撮影実習 8/22（金）③④    | 徳永  |
|    |      |         |    |                       |     |
|    |      |         |    |                       |     |
|    |      |         |    |                       |     |

【試験：9/18（木）

試験問題作成：村岡・徳永】

# 歯科診療補助論

| 受付事務 |       | 講義 | 実施時期    | IVセメスター（2学年）  |
|------|-------|----|---------|---------------|
| 担当講師 | 中谷 圭吾 |    | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |

## ◆内容

|            |                                                                                        |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 前半は総論として患者への対応や作法を学ぶと共に、受付での①診療に直接関係する業務と②に事務的な業務を理解し、後半は具体的に現在の保健指導の仕組みや保険請求の方法を覚える事。 |
| 使用教本       | 「受付対応・事務」<br>「歯科保険請求マニュアル 令和6年版」                                                       |
| 参考図書       | 歯科保健研究会 全科実例による社会保険・歯科診療                                                               |
| 評価方法・基準    | 定期試験                                                                                   |
| 履修上の注意     | 授業は、歯科衛生士が行う業務と保険請求との関係の説明だが、診療に沿う事が多い為、普段の臨床見学や実習での疑問点があれば質問する様に。                     |
| 使用機材       |                                                                                        |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○中谷圭吾

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、患者への対応や作法、受付での診療に直接関係する業務、事務的な業務など、受付事務業務の基礎知識、症例ごとの仕組みや保険請求の方法について講義する。

## ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付      | 時限 | 内容               | 担当者 |
|----|------|---------|----|------------------|-----|
| 1  |      | 1/22（木） | 3  | 歯科診療における受付業務の必要性 | 中谷  |
| 2  |      | 1/22（木） | 4  | 受付の基礎知識と業務       | 中谷  |
| 3  |      | 1/29（木） | 3  | 受付の事務的な仕事        | 中谷  |
| 4  |      | 1/29（木） | 4  | 対応の作法とまとめ        | 中谷  |
| 5  |      | 2/ 5（木） | 3  | レセプトと保険診療、歯の基礎知識 | 中谷  |
| 6  |      | 2/ 5（木） | 4  | 症例（病名、指導）        | 中谷  |
| 7  |      | 2/19（木） | 3  | 症例（検査、シーラント）     | 中谷  |
| 8  |      | 2/19（木） | 4  | 症例（スケーリング）       | 中谷  |
|    |      |         |    |                  |     |
|    |      |         |    |                  |     |

【試験：2/26(木)

試験問題作成： 中谷 】

# 歯科診療補助論

|           |             |         |               |              |
|-----------|-------------|---------|---------------|--------------|
| 医学一般・臨床検査 |             | 講義      | 実施時期          | IVセメスター（2学年） |
| 担当講師      | 大橋 温・市川 佐知子 | 実施単位・時間 | 1単位・16時間（8コマ） |              |

## ◆内容

|            |                                                                                                                                |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 医療に携わる人間として現代医療での検査の意義を学ぶことを通して、あらゆる医療行為を科学的根拠の基づいて判断できる態度を身につける。                                                              |
| 使用教本       | 「臨床検査」「歯科診療補助論」<br>「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」                                                                                       |
| 参考図書       | 「歯科のための内科学 改訂第3版」「歯科衛生士必携!有病者対応チェックSOSブック」<br>メディカ出版社 前川芳明、増田喜一著「Clinical Nursing Guide 22臨床検査」<br>医学書院 黒川清他編集 「臨床検査データハンドブック」 |
| 評価方法・基準    | 定期試験、小テスト、授業態度                                                                                                                 |
| 履修上の注意     | 疑問点は質問して理解しておくこと。毎回、講義のはじめ、あるいは、終わりに小テストを施行する場合がある。                                                                            |
| 使用機材       | パソコン（パワーポイント）、液晶プロジェクター                                                                                                        |

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

○大橋 温

大学病院・総合病院の臨床現場での医師(現役)の経験を活かし、生活習慣病、その他よく見られる疾患、小児にみられる流行性疾患など医学一般についてについて講義する。

○市川佐知子

総合病院の臨床現場での臨床検査技師(現役)の経験を活かし、医療に携わる者として必要となる、現代医療での検査の意義の理解、医療行為を科学的根拠に基づいて判断できる態度について講義する。

## ◆講義・実習計画 出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付        | 時限 | 内容                             | 担当者 |
|----|------|-----------|----|--------------------------------|-----|
| 1  |      | 10/24 (金) | 3  | 生活習慣病                          | 大橋  |
| 2  |      | 10/24 (金) | 4  | その他よく見られる疾患                    | 大橋  |
| 3  |      | 10/15 (水) | 4  | 1章 臨床検査と歯科衛生士の役割<br>2章 生理機能検査  | 市川  |
| 4  |      | 10/22 (水) | 4  | 3章 血液学的検査                      | 市川  |
| 5  |      | 11/ 5 (水) | 4  | 4章 感染症の検査<br>5章 肝機能の検査         | 市川  |
| 6  |      | 11/12 (水) | 4  | 6章 腎機能の検査<br>7章 糖尿病の検査         | 市川  |
| 7  |      | 11/19 (水) | 4  | 8章 代謝・内分泌疾患の検査<br>9章 免疫・血清学的検査 | 市川  |
| 8  |      | 11/26 (水) | 4  | 10章 病理学的検査                     | 市川  |
|    |      |           |    |                                |     |
|    |      |           |    |                                |     |

【試験: 12/25(木) 試験問題作成: 大橋・市川】

HAMAMATSU DENTAL HYGIENIST SCHOOL

## 41 期生 第 3 学年

---

# 臨床歯科医学

|                      |              |                |                       |
|----------------------|--------------|----------------|-----------------------|
| <b>摂食嚥下リハビリテーション</b> | <b>講義</b>    | <b>実施時期</b>    | <b>Vセメスター（3年）</b>     |
| <b>担当講師</b>          | <b>葩島 桂子</b> | <b>実施単位・時間</b> | <b>1単位・20時間（10コマ）</b> |

## ◆内容

|            |                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 摂食・嚥下機能障害者・および予備軍の患者や対象者に対して、歯科衛生士として適切な専門的器質的・機能的口腔ケアを実施するための、摂食機能に関する知識・技術を学ぶ |
| 使用教本       | 「歯科衛生士のための 摂食・嚥下リハビリテーション 第2版」医歯薬出版                                             |
| 参考図書       | 「介護に役立つ口腔ケアの実際」中央法規<br>「嚥下障害ポケットマニュアル」医歯薬出版<br>「乳幼児期の摂食指導」医歯薬出版                 |
| 評価方法・基準    | 定期テスト・出席状況・授業態度・実習態度・レポートなどの総合評価                                                |
| 履修上の注意     | 講義の復習をする。実習時の身だしなみ・立ち振る舞いに注意する。                                                 |
| 使用機材       | 液晶プロジェクター、ノート型パーソナルコンピューター、レーザーポインター                                            |

○葩島桂子

総合病院歯科口腔外科の臨床現場の歯科医師(現役)の経験を活かし、歯科衛生士が摂食嚥下機能障害の評価・訓練・指導を実施するための摂食嚥下機能に関する知識・技術について講義する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

## ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                                                 | 担当者 |
|----|------|----------|----|----------------------------------------------------|-----|
| 1  |      | 4/ 8 (火) | 1  | 1 歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション<br>2 リハビリテーションと摂食嚥下リハビリテーション | 葩島  |
| 2  |      | 4/ 8 (火) | 2  | 3 摂食嚥下障害者への口腔管理と制度の理解                              | 葩島  |
| 3  |      | 4/ 8 (火) | 3  | 4 摂食嚥下機能のメカニズム                                     | 葩島  |
| 4  |      | 4/15 (火) | 1  | 5 咬合および咀嚼機能の管理と評価                                  | 葩島  |
| 5  |      | 4/15 (火) | 2  | 6 栄養管理                                             | 葩島  |
| 6  |      | 5/13 (火) | 1  | 7 リスクマネジメント                                        | 葩島  |
| 7  |      | 5/13 (火) | 2  | 8 病態別摂食嚥下障害                                        | 葩島  |
| 8  |      | 5/13 (火) | 3  | 9 摂食嚥下の評価                                          | 葩島  |
| 9  |      | 5/20 (火) | 1  | 10 摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理                            | 葩島  |
| 10 |      | 5/20 (火) | 2  | 11 摂食嚥下訓練<br>12 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本           | 葩島  |

【試験: 9/25(木)

試験問題作成: 葩島 】

## 臨床歯科医学

|               |             |         |                |              |
|---------------|-------------|---------|----------------|--------------|
| <b>最新歯科医療</b> |             | 講義      | 実施時期           | Vセメスター (3学年) |
| 担当講師          | 古橋 拓哉・石川 知弘 | 実施単位・時間 | 1単位・16時間 (8コマ) |              |

### ◆内容

|            |                                                                                                                                                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | (古橋) これまで学習した臨床科目で網羅されていない国家試験出題項目 (レーザー、ホワイトニング等) に関して学習する<br>(石川) 歯周外科 (主に歯周組織再生療法) インプラント治療の基礎と臨床を理解する                                      |
| 使用教本       | なし                                                                                                                                             |
| 参考図書       | 「OJのスペシャリストたちがおくる インプラントの基本のき」石川知弘、瀧野裕行監修 クインテッセンス出版<br>「4-D コンセプトインプラントセラピー」石川知弘、船登彰芳著 クインテッセンス出版<br>「歯科医師・研究者チームによる歯周治療のコンセンサス1-4」 インターアクション |
| 評価方法・基準    | 試験、授業態度                                                                                                                                        |
| 履修上の注意     | 寝ないこと                                                                                                                                          |
| 使用機材       | パソコン、プロジェクター                                                                                                                                   |

○実務経験のある教員等による授業科目 (高等教育の修学支援新制度)

#### ○古橋拓哉

大学病院や歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、レーザー治療の実際と知識・操作、ホワイトニングからセラミック等審美歯科、顕微鏡歯科、磁性アタッチメント、CAD/CAM冠などの最新歯科の各論について講義する。

#### ○石川知弘

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験を活かし、歯周組織再生療法等歯周外科、インプラント治療の基礎と臨床など最新の歯科医療について講義する。

### ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                                      | 担当者 |
|----|------|----------|----|-----------------------------------------|-----|
| 1  |      | 4/17 (木) | 3  | レーザー治療の実際とその知識<br>レーザーの操作               | 古橋  |
| 2  |      | 4/17 (木) | 4  | 審美歯科総論<br>(ホワイトニング～セラミック)               | 古橋  |
| 3  |      | 5/15 (木) | 4  | 最新歯科の各論<br>(顕微鏡歯科、磁性アタッチメント、CAD/CAM冠など) | 古橋  |
| 4  |      | 5/22 (木) | 4  | まとめ                                     | 古橋  |
| 5  |      | 6/19 (木) | 1  | 歯周組織再生療法の基礎と臨床                          | 石川  |
| 6  |      | 6/19 (木) | 2  | 歯周形成外科の基礎と臨床                            | 石川  |
| 7  |      | 6/26 (木) | 1  | インプラント治療の基礎と臨床                          | 石川  |
| 8  |      | 6/26 (木) | 2  | 総合治療における歯科衛生士の役割                        | 石川  |
|    |      |          |    |                                         |     |
|    |      |          |    |                                         |     |

【試験: 7/17(木)

試験問題作成: 石川、古橋】

# 歯科予防処置論

|                  |        |    |         |                 |
|------------------|--------|----|---------|-----------------|
| <b>歯科予防処置論 3</b> |        | 実習 | 実施時期    | Vセメスター (3学年)    |
| 担当講師             | 専任教員 他 |    | 実施単位・時間 | 1単位・40時間 (20コマ) |

## ◆内容

|            |                                                                                            |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 生涯を通じた継続的な航空保険管理について理解し、疾患やライフステージ別の予防法が実践できる能力を養う。                                        |
| 使用教本       | 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」                                                                          |
| 参考図書       |                                                                                            |
| 評価方法・基準    | 技術、小テスト、与えられた課題についてのレポート、出席状況、授業態度、学習意欲などの総合的に判断し評価する。                                     |
| 履修上の注意     | 授業を進める上でわからない点などはその都度質問して理解する様心掛ける。<br>準備物・服装・準備当番・片付け当番・その他の注意事項については、掲示物を参照し忘れ物のないようにする。 |
| 使用機材       | 液晶プロジェクター、ノート型パソコン、書画カメラ                                                                   |

○専任教員多数

歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士の経験と本校教員(現役)の経験を活かし、対象者に応じた歯科予防処置についての知識・技術を深め、さらに相互実習を通じて高め、臨床の場において実践できる能力が習得できるよう指導する。

○実務経験のある教員等による授業科目(高等教育の修学支援新制度)

## ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格:時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 内容                       |
|----|------|--------------------------|
| 1  |      | キュレット復習実習                |
| 2  |      |                          |
| 3  |      |                          |
| 4  |      | PMT C                    |
| 5  |      | PMT C 相互実習               |
| 6  |      |                          |
| 7  |      | 理学療法士の業務と歯科衛生士に求めるもの     |
| 8  |      | 言語聴覚士の業務と歯科衛生士に求めるもの     |
| 9  |      | バイタルサイン                  |
| 10 |      |                          |
| 11 |      | カリエスリスクテスト               |
| 12 |      |                          |
| 13 |      |                          |
| 14 |      |                          |
| 15 |      | 周術期口腔ケア                  |
| 16 |      | 義歯ケアセミナー                 |
| 17 |      | 感染予防、ダルキュレットを使用したシャープニング |
| 18 |      |                          |
| 19 |      | 口腔機能検査機器                 |
| 20 |      |                          |
|    |      |                          |
|    |      |                          |

## 研究

| 課題研究 | 演習      | 実施時期    | V・VIセメスター（3年）  |
|------|---------|---------|----------------|
| 担当講師 | 岡本 眞弓 他 | 実施単位・時間 | 2単位・60時間（30コマ） |

### ◆内容

|            |                                                                                                  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 今後の学習や医療行為に対し、自ら疑問や課題を見つけ、それに対して調べたり、分析したりすることで理解したり解決する方法を身につける。<br>発表することによりプレゼンテーション能力を身につける。 |
| 使用教本       |                                                                                                  |
| 参考図書       | 歯科衛生士教本、図書室の書籍 他                                                                                 |
| 評価方法・基準    | 取り組みの姿勢、研究の成果、発表、出席状況などについて総合的に評価します。                                                            |
| 履修上の注意     | 疑問点などはまずは自分で調べ、学生間で解決する努力をしましょう。<br>各過程の期間に間に合うように指導教員と相談しながら各自が自主的に動くようにして下さい。                  |
| 使用機材       |                                                                                                  |

○歯科医師・歯科衛生士多数

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）  
歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）・歯科衛生士の経験、本校教員（現役）の経験を活かし、歯科衛生士として必要な課題解決能力を習得するため、歯科医療に関する課題の調査・分析・評価・資料作成・プレゼンテーションなどの教育指導を行う。

### ◆講義・実習計画

出席管理は学生自身も行う。【受験資格：時間数の2/3以上の出席。遅刻・早退は3回で欠席1】

| 回数 | 出欠記録 | 日付       | 時限 | 内容                      | 担当者 |
|----|------|----------|----|-------------------------|-----|
| 1  |      | 4/ 4（金）  | 3  | 歯科衛生研究の考え方              | 岡本眞 |
| 2  |      | 4/30（水）  | 1  | テーマの検討                  | 岡本眞 |
| 3  |      | 4/30（水）  | 2  | テーマの検討                  | 岡本眞 |
| 4  |      | 5/15（木）  | 1  | テーマの確認チェック・進め方のアドバイス    | 岡本眞 |
| 5  |      | 5/15（木）  | 2  | テーマの確認チェック・進め方のアドバイス    | 岡本眞 |
| 6  |      | 5/29（木）  | 3  | グループについて、スライド作成の方法      | 岡本眞 |
| 7  |      | 5/29（木）  | 4  | データの収集、スライド作成           | 岡本眞 |
| 8  |      | 6/19（木）  | 4  | データの収集、スライド、発表原稿作成      | 岡本眞 |
| 9  |      | 6/30（月）  | 3  | データの収集、スライド、発表原稿作成      | 岡本眞 |
| 10 |      | 7/10（木）  | 3  | データの収集、スライド、発表原稿作成      | 岡本眞 |
| 11 |      | 7/10（木）  | 4  | データの収集、スライド、発表原稿作成      | 岡本眞 |
| 12 |      | 7/17（木）  | 3  | 研究状況の検討（個別チェック）         | 岡本眞 |
| 13 |      | 7/17（木）  | 4  | 研究状況の検討（個別チェック）         | 岡本眞 |
| 14 |      | 8/25（月）  | 4  | 演題の決定・抄録の記入方法・リハーサルについて | 岡本眞 |
| 15 |      | 10/ 1（水） | 3  | リハーサル準備                 | 岡本眞 |
| 16 |      | 9/11（木）  | 3  | リハーサル（個別チェック）           | 岡本眞 |
| 17 |      | 9/11（木）  | 4  | リハーサル（個別チェック）           | 岡本眞 |
| 18 |      | 9/18（木）  | 4  | 手直し、抄録作成                | 岡本眞 |
| 19 |      | 10/ 2（木） | 3  | 手直し、抄録作成                | 岡本眞 |
| 20 |      | 10/ 2（木） | 4  | 抄録清書 他                  | 岡本眞 |
| 21 |      | 10/14（火） | 4  | 抄録清書 他                  | 岡本眞 |
| 22 |      | 10/21（火） | 1  | 発表練習、修正 等               | 岡本眞 |
| 23 |      | 10/21（火） | 2  | 発表練習、修正 等               | 岡本眞 |
| 24 |      | 10/22（水） | 3  | 発表会のための準備、最終確認          | 岡本眞 |
| 25 |      | 10/22（水） | 4  | 〃                       | 岡本眞 |
| 26 |      | 10/23（木） | 1  | 課題研究発表会                 | 岡本眞 |
| 27 |      | 10/23（木） | 2  | 〃                       | 岡本眞 |
| 28 |      | 10/23（木） | 3  | 〃                       | 岡本眞 |
| 29 |      | 10/23（木） | 4  | 〃                       | 岡本眞 |
| 30 |      | 11/ 4（火） | 1  | 振り返り、まとめ                | 岡本眞 |

## 総合学習

| 総合学習 |  | 講義 | 実施時期    | VIセメスター（3学年）      |
|------|--|----|---------|-------------------|
| 担当講師 |  |    | 実施単位・時間 | 14単位・210時間（105コマ） |

### ◆内容

|            |                                                                        |
|------------|------------------------------------------------------------------------|
| 授業の概要と到達目標 | 本校で学んだことの総まとめとなる講義である。<br>目標である『歯科衛生士国家試験』合格を達成するために、積極的に予習・復習を行い授業に臨む |
| 履修上の注意     | 不明な点は、講義終了後であっても必ず質問し不明なことをそのままにしないよう努力をしましょう。教員も必要に応じて支援をします。         |

○実務経験のある教員等による授業科目（高等教育の修学支援新制度）

○歯科医師・歯科衛生士多数

歯科診療所の臨床現場での歯科医師(現役)の経験と、歯科衛生士および本校教員(現役)の経験を活かし、3年間学んだ歯科衛生士としての必要な知識や心構えについて、ほぼ全ての科目について総復習となる講義を行う。

### [基礎・専門基礎分野]

| No | 科目      | 担当講師  | 回数 |              |              |  |
|----|---------|-------|----|--------------|--------------|--|
|    | 解剖学     | 門田千晶  | 2  | 11月10日（月）〈4〉 | 11月17日（月）〈4〉 |  |
|    | 組織・発生学  | 鈴木美穂  | 2  | 11月13日（木）〈4〉 | 12月11日（木）〈4〉 |  |
|    | 生理学     | 高山由紀  | 2  | 11月25日（火）〈3〉 | 11月25日（火）〈4〉 |  |
|    | 栄養学     | 石津貴恵  | 2  | 1月14日（水）〈2〉  | 1月27日（火）〈1〉  |  |
|    | 生化学     | 永田年   | 1  | 12月23日（火）〈1〉 |              |  |
|    | 口腔解剖学   | 大杉将嗣  | 2  | 11月28日（金）〈3〉 | 12月12日（金）〈3〉 |  |
|    | 歯牙解剖    | 佐原正恭  | 2  | 12月10日（水）〈4〉 | 12月17日（水）〈4〉 |  |
|    | 口腔生理学   | 高山由紀  | 2  | 1月28日（水）〈1〉  | 1月28日（水）〈2〉  |  |
|    | 病理学     | 馬場健   | 2  | 12月 1日（月）〈1〉 | 12月15日（月）〈1〉 |  |
|    | 口腔病理学   | 鈴木浩之  | 2  | 12月18日（木）〈4〉 | 1月22日（木）〈4〉  |  |
|    | 薬理学     | 鈴木常義  | 1  | 11月26日（水）〈3〉 |              |  |
|    | 歯科薬理学   | 渡邊泰秀  | 2  | 12月 8日（月）〈3〉 | 1月19日（月）〈3〉  |  |
|    | 微生物学    | 永田 年  | 1  | 12月17日（水）〈1〉 |              |  |
|    | 口腔微生物   |       | 1  | 12月17日（水）〈2〉 |              |  |
|    | 予防歯科学   | 富士田早織 | 2  | 1月20日（火）〈2〉  | 1月27日（火）〈2〉  |  |
|    | 衛生公衆衛生学 | 宮原時彦  | 1  | 12月15日（月）〈3〉 |              |  |
|    | 地域歯科保健学 | 岡本一夫  | 1  | 11月26日（水）〈1〉 |              |  |
|    | 地域歯科保健学 | 近藤大祐  | 1  | 1月22日（木）〈3〉  |              |  |
|    | 衛生行政    | 岡本一夫  | 2  | 12月24日（水）〈1〉 | 1月14日（水）〈1〉  |  |
|    | 社会福祉    | 栗田高典  | 1  | 11月19日（水）〈2〉 |              |  |
|    | 保健情報統計学 | 宮原時彦  | 1  | 12月22日（月）〈3〉 |              |  |
|    | 保健情報統計学 | 武田成久  | 1  | 12月18日（木）〈2〉 |              |  |
|    |         |       |    |              |              |  |
|    |         |       |    |              |              |  |

[ 専門分野 ]

[illegible]

HAMAMATSU DENTAL HYGIENIST SCHOOL



一般社団法人浜松市歯科医師会  
浜松歯科衛生士専門学校

〒432-8023 浜松市中央区鴨江 2-11-2

電話：053-454-1030

URL：https://www.hdhsmirai.com

E-mail：hama@hdhsmirai.com